

平成29年度 神戸大学データ資料集



—データと資料が語る神戸大学の今の姿—



ハイライトDATA

概要

1. 概要・ランキング … 1

教育

2. 学生数 … 6
 3. 学部一般選抜志願状況 … 8
 4. 入学状況 -学部- … 11
 5. 入学状況 -研究科- … 13
 6. 学位授与状況 -授与率- … 15
 7. 進路・就職状況 … 17
 8. 資格試験合格状況 … 23
 9. 学生生活状況 … 25

研究

10. 研究論文 … 28
 11. 科学研究費 … 33
 12. 日本学術振興会特別研究員 … 38
 13. 研究プログラムの採択状況 … 39
 14. 研究業績に関する主な受賞者一覧 … 42

産学官連携

15. 産学官連携状況 … 43
 16. 国内の大学等との連携協定 … 46
 17. 連携大学院実施状況 … 47
 18. 教育関係共同利用拠点 … 48

外部資金

19. 外部資金 … 50

国際

20. 留学 … 54
 21. 海外大学との交流状況 … 58
 22. 研究者等交流状況 … 61
 23. 国際化の状況 … 62

附属病院

24. 附属病院 … 63

附属学校

25. 附属学校 … 66

社会貢献

26. 公開講座等 … 67
 27. 学外機関への参画状況 … 68

教職員

28. 教員 … 69
 29. 職員 … 72

財務

30. 財務 … 73

学外・一般向け施設等

31. 学外・一般向け施設等 … 84

表紙写真：神大正門前
 表紙裏写真：理学研究科・理学部

平成29年度神戸大学データ資料集 ハイライトDATA

「神戸大学データ資料集～データと資料が語る神戸大学の今の姿～」は、本学の教育・研究・社会貢献等についての現状を表やグラフ等で示したものです。本ページでは、その中でも特徴的なデータを挙げております。

教育

学部一般選抜志願状況

平成28年度入試における本学の志願者数は**9,889人**、志願倍率は**4.3倍**であり、志願倍率は大規模13大学間で**2位**であった。

(※国立大学間で学部入学定員の上位13大学を「大規模13大学」と定義する。
志願倍率 1位 千葉大学 5.3倍、同率2位 筑波大学 4.3倍)

データ資料集
P 9 へ

各種資格試験合格状況

平成28年度の本学からの**公認会計士合格者数**は26人であり、全体で10位、国立大学では**2位**であった。また、**一級建築士合格者数**は65人であり、全体で6位、国立大学では**1位**であった。

(公認会計士合格者数 1位 東京大学 36人
一級建築士合格者数 2位 九州大学 61人 いずれも国立大学間で比較)

データ資料集
P 24 へ

研究

高被引用論文数

学術研究において影響力が特に大きい論文（高被引用論文）数はこれまで全論文の1%弱であったが、近年の論文で高被引用論文が多くなっており、最新5年間では97本、全論文数の1.24%へと大きく伸びている。

データ資料集
P 29 へ

国際共著論文数

平成24年度から平成28年度までの本学の**国際共著論文数**は**2,282本**、全論文数の**28.1%**であり、前年度の実績2,126本、26.9%から大きく伸びている。

データ資料集
P 31 へ

科学研究費助成事業新規採択状況

平成24年度から平成28年度までの科学研究費（新規採択分）を全351細目で集計・分類したデータによると、本学は**94**の細目において、採択数上位10機関にランクインしている。

データ資料集
P 37 へ

産学官連携

共同研究・受託研究の状況

本学の共同研究・受託研究については、いずれも順調に件数を伸ばしており、平成28年度の契約件数は共同研究が**587件**、受託研究が**397件**、契約金額は共同研究が**9億4600万**、受託研究が**30億8800万**となっている。

データ資料集
P 43 へ

外部資金

外部資金の受入額

平成28年度の外部資金の受入額は**132億円**であり、前年度の105億円から**25%以上**増えている。これは、科学研究費補助金、受託研究、寄附金等が伸びたことによるもので、中でも寄附金の受入額は前年度の20億円から41億円と2倍以上になった。

データ資料集
P 50 へ

国際

日本人学生の海外派遣状況

本学は、EUの中心地であるブリュッセルにオフィスを構え、ヨーロッパ諸国との国際連携活動を展開しており、他大学と比して、**ヨーロッパへの学生派遣比率(76.1%)が高い**特徴がある。

データ資料集
P 59 へ

外国人教員等数の割合

本学は外国人教員等の総教員数に対する割合が高く、専任教員数**1,591名**のうち**641名**が外国人等教員であり、全体の**40.3%**を占める。

(※外国人教員等数：外国籍の教員に加え、国外の大学での学位取得、通算1年以上教育研究に従事した日本人教員を含む)

データ資料集
P 62 へ

附属病院

病床稼働率

平成28年度の本学の病床稼働率は**92%**であり、病床数が同規模である8国立大学の附属病院間で比較したところ**1位**であった。また、全国の国立大学附属病院における病床稼働率においても**1位**となっている。

データ資料集
P 64 へ

診療報酬請求額の推移

平成28年度の**診療報酬請求額**を病床数が同規模である8国立大学の附属病院間で比較したところ**3位**であった。また、**伸び率は3位**であった。

データ資料集
P 65 へ

1. 概要・ランキング

1-1 神戸大学の概要

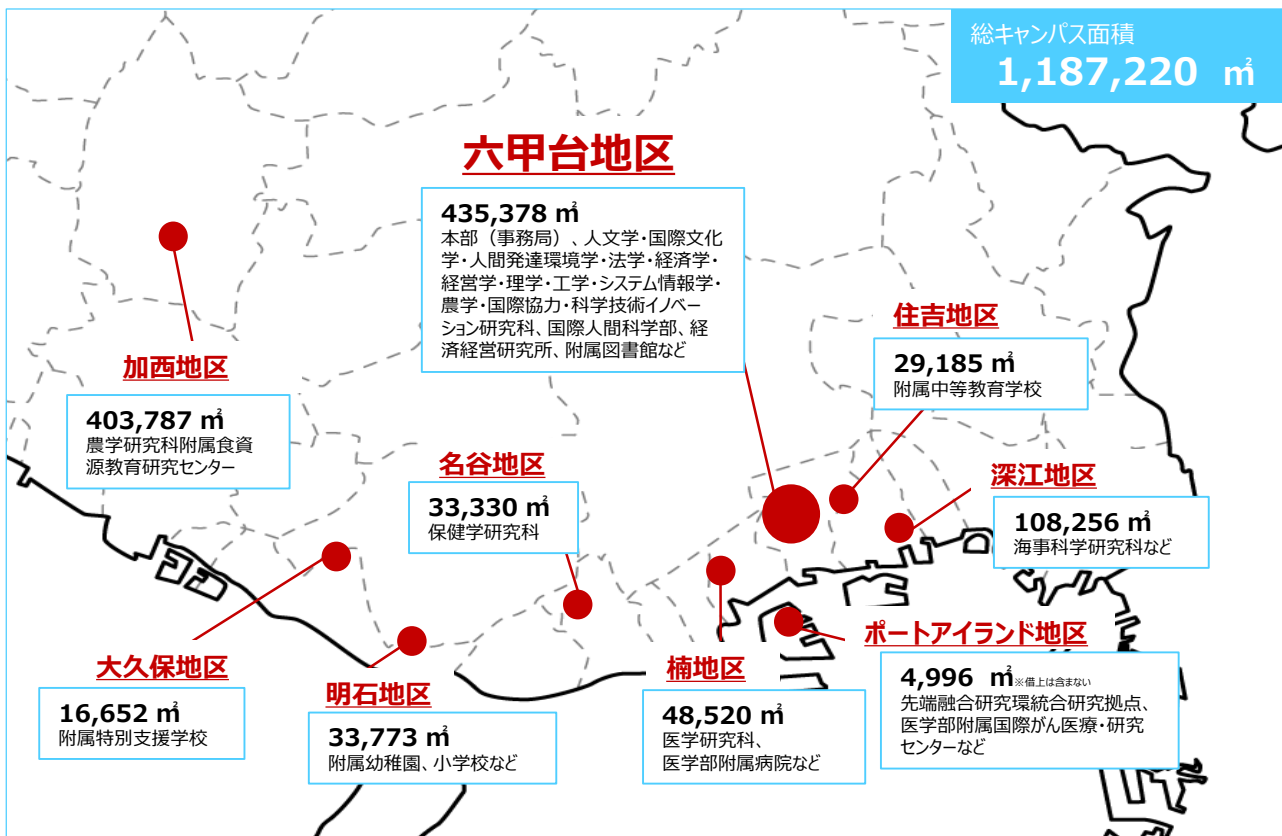
平成29年5月1日現在

区 分		入学定員 ^(注1)	入学者数	総定員	在籍者数 (女子内数)		
学生等数	学部	2,680	2,757	10,704	11,589	(4,127)	
	大学院	修士・博士前期課程	1,248	1,225	2,477	2,632	(898)
		博士・博士後期課程	395	328	1,227	1,611	(545)
		専門職学位課程	149	141	378	312	(63)
	合計	4,472	4,451	14,786	16,144	(5,633)	
	外国人留学生数	学部生 (内数)	大学院生 (内数)	研究生等	計		
	106	749	346	1,201	(660)		
附属学校	学級数		在籍者数 ^(注2)				
	53		1,495 [98]				
区 分		教員数 ^(注3)	附属学校教諭 ^(注4)	その他職員数	計		
教職員数		1,641	120	1,980	3,741		
	女性教職員数	277	55	1,271	1,603		
	女性比率	16.9%	45.8%	64.2%	42.8%		
予算規模	平成29年度 約695億円 (うち運営費交付金 約206億円)						

注1：編入学定員を含む。注2：在籍者数の[]は、帰国子女数を内数で示す。

注3：役員及び特別顧問を含む。注4：特命職員を含む。

1-2 主要キャンパス



学外オフィス等 [国内] 神戸大学東京オフィス、神戸大学梅田インテリジェントラボラトリ (大阪)
[海外] 神戸大学中国事務所 (北京)、神戸大学ブリュッセルオフィス

1-3 神戸大学の位置 — 規模 — (国立大学間)

学部数

順位	大学名	学部数
1	北海道大学	12
2	大阪大学	11
	岡山大学	
	広島大学	
	九州大学	
6	神戸大学	10
	東北大学	
	千葉大学	
	東京大学	
	新潟大学	
	京都大学	
12	筑波大学	9
	名古屋大学	
	山口大学	
	長崎大学	
	鹿児島大学	

(2017)

大学院数

順位	大学名	大学院数
1	北海道大学	21
2	京都大学	18
	九州大学	
4	東北大学	16
	大阪大学	
6	神戸大学	15
	東京大学	
8	名古屋大学	13
9	広島大学	11
10	鹿児島大学	9
11	筑波大学	8
	富山大学	
	岐阜大学	
	山口大学	
	琉球大学	

(2017)

教員 (常勤)

順位	大学名	教員数
1	東京大学	2,484
2	大阪大学	1,984
3	京都大学	1,967
4	東北大学	1,797
5	九州大学	1,551
6	筑波大学	1,474
7	北海道大学	1,469
8	名古屋大学	1,309
9	神戸大学	1,207
10	広島大学	1,175
11	岡山大学	979

※教授・准教授・講師のみの値。

(2016)

学部入学定員 (1年次)

順位	大学名	入学定員
1	大阪大学	3,255
2	東京大学	3,063
3	京都大学	2,823
4	九州大学	2,555
5	神戸大学	2,530
6	北海道大学	2,485
7	東北大学	2,396
8	広島大学	2,338
9	千葉大学	2,322
10	新潟大学	2,242
11	岡山大学	2,198
12	名古屋大学	2,107
13	筑波大学	2,102

(2017)

大学院入学定員

順位	大学名	入学定員	入学定員 (M)	入学定員 (D)	入学定員 (P)
1	東京大学	4,925	2,843	1,697	385
2	京都大学	3,705	2,261	1,130	314
3	大阪大学	3,031	2,009	942	80
4	東北大学	2,707	1,775	812	120
5	九州大学	2,668	1,748	780	140
6	名古屋大学	2,401	1,622	729	50
7	筑波大学	2,396	1,651	679	66
8	北海道大学	2,367	1,603	664	100
9	東京工業大学	2,151	1,544	567	40
10	神戸大学	1,792	1,248	395	149
11	広島大学	1,542	1,012	490	40
12	千葉大学	1,283	955	268	60
13	岡山大学	1,125	810	271	44

(2017)

事務職員

順位	大学名	職員数
1	東京大学	1,534
2	京都大学	1,514
3	大阪大学	1,282
4	北海道大学	1,143
5	東北大学	1,122
6	九州大学	1,081
7	東京工業大学	964
8	岡山大学	815
9	名古屋大学	741
10	筑波大学	725
11	神戸大学	614

(2016)

運営費交付金

順位	大学名	金額 (百万円)
1	東京大学	82,414
2	京都大学	54,349
3	東北大学	46,347
4	大阪大学	44,195
5	九州大学	40,936
6	筑波大学	40,701
7	北海道大学	35,672
8	名古屋大学	31,184
9	広島大学	25,160
10	東京工業大学	21,436
11	神戸大学	20,617

※未滿は切り捨て。

(2017)

出典 1. 学部・大学院数、入学定員については、文部科学省報道資料「平成29年度国立大学入学定員増減予定表」により確認した。
 2. 教職員数については、朝日新聞出版「大学ランキング2018年版」により確認した。
 3. 運営費交付金については、「平成29年度 国立大学法人運営費交付金 予定額」により確認した。

1-3 神戸大学の位置 — 教育 — (国立大学間)

教員一人当たりの学生数(大規模13大学間)

順位	大学名	人
1	東北大学	5.96
2	京都大学	6.77
3	名古屋大学	6.78
4	東京大学	7.12
5	北海道大学	7.21
6	大阪大学	7.33
7	九州大学	7.77
8	筑波大学	8.72
9	岡山大学	8.77
10	広島大学	8.84
11	神戸大学	10.15
12	千葉大学	10.39
13	新潟大学	11.09

※少ない順 (2016)

入学率 (大規模13大学間)

順位	大学名	%
1	京都大学	99.6%
2	東京大学	99.5%
3	大阪大学	97.4%
4	名古屋大学	97.2%
5	北海道大学	95.1%
6	岡山大学	95.0%
	広島大学	
8	東北大学	94.9%
9	神戸大学	94.6%
10	九州大学	94.2%
11	筑波大学	93.6%
12	新潟大学	92.6%
13	千葉大学	90.6%

(2016)

退学率 (大規模13大学間)

順位	大学名	%
1	新潟大学	0.2%
2	東京大学	0.8%
	名古屋大学	
	京都大学	
5	広島大学	0.9%
6	東北大学	1.0%
	筑波大学	
	千葉大学	
	大阪大学	
10	神戸大学	1.2%
	岡山大学	
	九州大学	
13	北海道大学	1.3%

(2015)

女性教員数

順位	大学名	人
1	大阪大学	233
2	東京大学	232
3	筑波大学	223
4	名古屋大学	177
5	京都大学	170
6	神戸大学	157
7	九州大学	156
8	千葉大学	151
9	東北大学	148
10	広島大学	144
11	北海道大学	138
12	岡山大学	119
13	金沢大学	109

※常勤の教授・准教授・講師の合計 (2016)

外国人教員数

順位	大学名	人
1	大阪大学	97
2	京都大学	90
3	東北大学	85
4	東京大学	83
5	九州大学	79
6	筑波大学	70
7	広島大学	52
8	神戸大学	46
	北海道大学	
10	東京外国語大学	41
11	岡山大学	35
12	静岡大学	33
13	長崎大学	31
	名古屋大学	

※常勤の教授・准教授・講師の合計 (2016)

図書館蔵書冊数

順位	大学名	冊
1	東京大学	9,521,122
2	京都大学	6,905,113
3	九州大学	4,289,906
4	東北大学	4,081,265
5	北海道大学	3,912,934
6	大阪大学	3,892,207
7	神戸大学	3,758,181
8	広島大学	3,479,236
9	名古屋大学	3,296,394
10	一橋大学	2,690,942
11	筑波大学	2,643,346
12	岡山大学	2,083,955
13	金沢大学	1,891,674

(2015)

企業の人事担当者から見た大学のイメージ
調査総合ランキング (大規模13大学間)

順位	大学名	全体順位
1	東京大学	1
2	京都大学	2
3	九州大学	3
4	名古屋大学	8
5	東北大学	10
6	大阪大学	11
7	北海道大学	12
8	千葉大学	15
9	筑波大学	17
10	広島大学	37
11	神戸大学	38
12	新潟大学	40
13	岡山大学	48

(2017)

志願度(関西エリア)

順位	大学名	志願度 (%)
1	関西大学	14.8%
	近畿大学	
3	同志社大学	10.0%
4	神戸大学	9.4%
5	大阪市立大学	8.8%
6	大阪大学	8.5%
7	関西学院大学	8.1%
8	立命館大学	7.2%
9	龍谷大学	6.0%
10	関西外国語大学	4.7%
11	大阪府立大学	4.0%
12	京都大学	3.5%
13	京都産業大学	3.4%

※公私立大学を含む (2017)

○ 学部入学定員の上位13大学を「大規模13大学」と定義する。(以下同じ)

出典

1. 教員一人当たりの学生数については大学改革支援・学位授与機構HP「大学基本情報」により確認した。
2. 入学率、退学率、図書館蔵書冊数、女性教員数、外国人教員数については朝日新聞出版「大学ランキング2018年版」により確認した。
3. 「企業の人事担当者から見た大学イメージ調査総合ランキング」については日経HR「価値ある大学2018年版 就職力ランキング」により確認した。
4. 志願度(関西エリア)については、リクルート進学総研「進学ブランド力調査2017」により確認した。

※2018年3月卒業の高校生対象

1-3 神戸大学の位置 — 研究 — (国立大学間)

科学研究費補助金

順位	大学名	配分総額 (千円)	教員一人あたり (千円)
1	東京大学	21,672,950	8,725
2	京都大学	13,757,380	6,994
3	大阪大学	10,697,537	5,391
4	東北大学	9,977,760	5,552
5	名古屋大学	7,682,610	5,869
6	九州大学	7,158,970	4,615
7	北海道大学	5,802,940	3,950
8	東京工業大学	4,549,740	6,115
9	筑波大学	4,073,095	2,763
10	神戸大学	2,819,830	2,336
11	広島大学	2,620,865	2,230
12	金沢大学	2,322,671	2,970
13	岡山大学	2,318,680	2,368

(2016)

外部資金総額

順位	大学名	総額 (千円)	教員一人あたり (千円)
1	東京大学	51,349,826	20,672
2	京都大学	38,803,836	19,727
3	大阪大学	27,172,185	13,695
4	東北大学	20,485,135	11,399
5	九州大学	15,923,452	10,266
6	名古屋大学	14,106,000	10,776
7	東京工業大学	9,961,290	13,388
8	北海道大学	9,834,428	6,694
9	筑波大学	8,055,404	5,464
10	神戸大学	5,148,959	4,265
11	広島大学	4,851,388	4,128
12	東京医科歯科大学	4,512,064	11,481
13	熊本大学	4,245,860	6,318

※奨学寄附金、受託研究費、共同研究費の計。千円未満切り捨て。(2016)

共同研究 (民間企業)

順位	大学名	研究費受入額 (千円)
1	東京大学	5,066,861
2	京都大学	4,498,025
3	大阪大学	3,422,394
4	東北大学	3,305,026
5	九州大学	1,920,414
6	名古屋大学	1,647,508
7	東京工業大学	1,495,119
8	北海道大学	1,384,761
9	筑波大学	1,044,289
10	山形大学	918,960
11	神戸大学	636,389
12	名古屋工業大学	587,510
13	千葉大学	556,994

(2015)

受託研究 (民間企業)

順位	大学名	研究費受入額 (千円)
1	九州大学	273,538
2	神戸大学	266,284
3	東京大学	249,601
4	京都大学	247,447
5	大阪大学	203,238
6	東京工業大学	188,600
7	名古屋大学	180,226
8	山形大学	140,953
9	東北大学	138,557
10	九州工業大学	108,219
11	北海道大学	106,724
12	信州大学	103,158
13	筑波大学	94,498

(2015)

学術論文 (量) (大規模13大学間)

順位	大学名	総論文数
1	東京大学	53,314
2	京都大学	37,906
3	大阪大学	30,793
4	東北大学	29,253
5	九州大学	21,893
6	名古屋大学	21,819
7	北海道大学	19,767
8	筑波大学	13,962
9	広島大学	11,518
10	神戸大学	10,577
11	岡山大学	9,695
12	千葉大学	9,612
13	新潟大学	6,006

(2012-2016)

学術論文 (質) (大規模13大学間)

順位	大学名	相対被引用 インパクト	総被引用数
1	東京大学	1.920	444,687
2	京都大学	1.709	281,511
3	名古屋大学	1.661	157,472
4	大阪大学	1.578	211,063
5	筑波大学	1.539	93,320
6	岡山大学	1.534	64,608
7	東北大学	1.519	193,058
8	広島大学	1.460	73,063
9	神戸大学	1.424	65,443
10	九州大学	1.409	133,989
11	北海道大学	1.345	115,460
12	新潟大学	1.294	33,759
13	千葉大学	1.277	53,310

※小数点第四位以下切り捨て

(2012-2016)

出典

1. 科学研究費補助金、外部資金については、朝日新聞出版「大学ランキング2018年版」により確認した。

2. 共同研究 (民間企業)、受託研究 (民間企業) については文部科学省「平成27年度大学等における産学連携等実施状況」により確認した。

3. 学術論文 (量) については、クラリベイト・アナリティクス社のデータベース「InCites™」にて確認した。(2017.7.22時点)
なお、数値は2012年から2016年までの累計を記している。

4. 学術論文 (質) については、クラリベイト・アナリティクス社のデータベース「InCites™」にて確認した。(2017.7.22時点)
なお、数値は2012年から2016年までの累計を記している。

○相対被引用インパクト：1論文あたりの被引用数を世界平均1.0とした場合の相対的な割合を示す数値。(「InCites™」における「Impact Relative to World」の値)

1-3 神戸大学の位置 - 国際 -

QS社・世界大学ランキング

順位	大学名	世界順位
1	東京大学	28
2	京都大学	36
3	東京工業大学	56
4	大阪大学	63
5	東北大学	76
6	名古屋大学	116
7	北海道大学	122
8	九州大学	128
9	慶應義塾大学	192
10	早稲田大学	203
11	筑波大学	250
12	広島大学	322
13	神戸大学	351
14	東京医科歯科大学	367

(2017-2018)

QS社・アジア大学ランキング

順位	大学名	アジア順位
1	東京大学	13
2	東京工業大学	14
3	大阪大学	15
4	京都大学	17
5	東北大学	20
6	名古屋大学	27
7	九州大学	29
8	北海道大学	31
9	慶應義塾大学	36
10	早稲田大学	39
11	筑波大学	40
12	神戸大学	60
13	一橋大学	67
14	広島大学	68
15	東京医科歯科大学	85

(2017-2018)

THE誌・世界大学ランキング

順位	大学名	世界順位
1	東京大学	46
2	京都大学	74
3	大阪大学 東北大学	201-250
5	東京工業大学	251-300
6	名古屋大学	301-350
7	九州大学	351-400
8	北海道大学 東京医科歯科大学 筑波大学	401-500
11	藤田保健衛生大学 首都大学東京	501-600
13	神戸大学 他16大学	601-800

(2017-2018)

THE誌・アジア大学ランキング

順位	大学名	アジア順位
1	東京大学	7
2	京都大学	14
3	東北大学	26
4	東京工業大学	30
5	大阪大学	32
6	名古屋大学	35
7	豊田工業大学	40
8	九州大学	45
9	東京医科歯科大学	51
10	筑波大学	56
11	北海道大学	58
12	首都大学東京	69
13	広島大学	101-110
14	千葉大学 愛媛大学 金沢大学 慶應義塾大学	111-120
18	大阪市立大学	121-130
19	神戸大学 高知大学 東京農工大学 早稲田大学	131-140

(2017)

上海交通大学・世界大学学術ランキング

順位	大学名	世界順位
1	東京大学	24
2	京都大学	35
3	名古屋大学	84
4	大阪大学 東北大学	101-150
6	北海道大学 東京工業大学	151-200
8	九州大学 筑波大学	201-300
10	千葉大学 広島大学 慶應義塾大学 岡山大学	301-400
14	神戸大学 大阪市立大学 徳島大学 東京理科大学	401-500

(2017)

国際共著論文（大規模13大学間）

順位	大学名	国際共著論文数 (本)	比率 (%)
1	東京大学	17,260	32.37
2	京都大学	11,506	30.35
3	東北大学	9,101	31.11
4	大阪大学	8,342	27.09
5	名古屋大学	6,234	28.57
6	九州大学	6,056	27.66
7	北海道大学	5,338	27.00
8	筑波大学	4,187	29.99
9	広島大学	3,014	26.17
10	岡山大学	2,712	27.97
11	神戸大学	2,632	24.88
12	千葉大学	2,382	24.78
13	新潟大学	1,563	26.02

(2012-2016)

外国人留学生受入数（国立大学間）

順位	大学名	人数（人）
1	東京大学	2,990
2	九州大学	2,097
3	大阪大学	2,094
4	筑波大学	2,062
5	京都大学	1,814
6	東北大学	1,661
7	名古屋大学	1,613
8	北海道大学	1,570
9	東京工業大学	1,223
10	神戸大学	1,152
11	広島大学	1,110
12	横浜国立大学	830
13	千葉大学	786

※在留資格「留学」の学生 (2015.5.1時点)

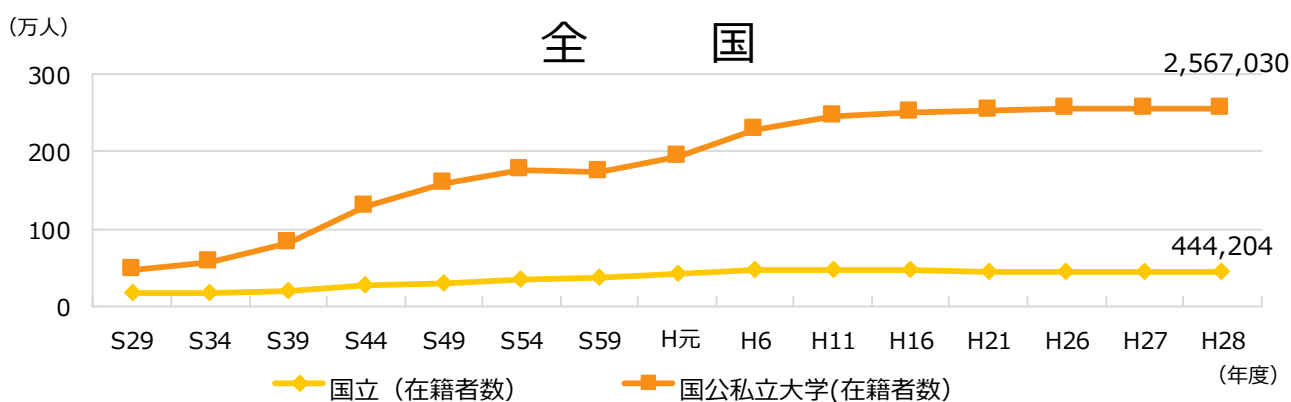
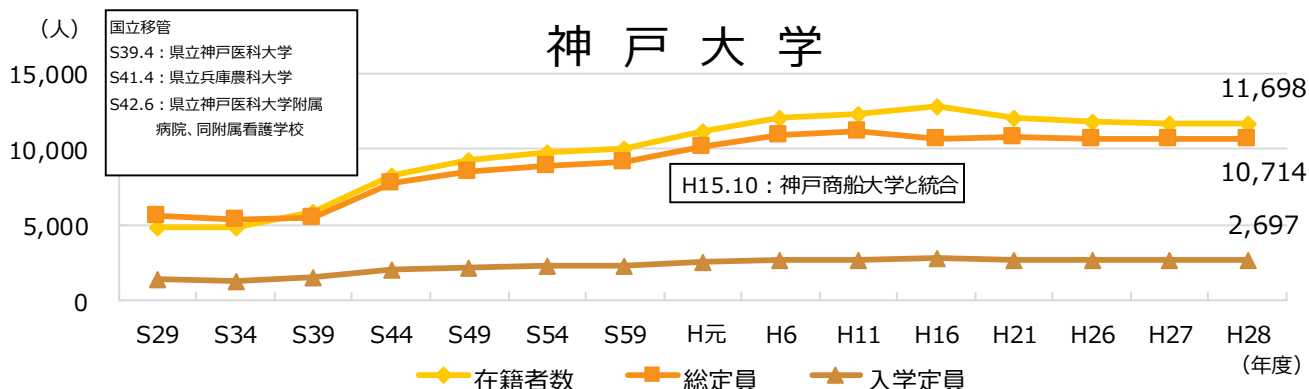
出典

- 世界大学ランキングについては、各発表機関ウェブサイトにて確認した。
なお、「-」についてはその順位グループに属していることを示している。
(例：「201-300」は、201位から300位のグループ)
- 外国人留学生受入数については、独立行政法人日本学生支援機構
の「平成28年度外国人留学生在籍状況調査結果」により確認した。
- 国際共著論文については、クラリベイト・アナリティクス社のデータベース
「InCites™」にて確認した。(2017.7.22時点)
なお、国際共著論文数の数値は2012年から2016年までの累計を
記している。

2. 学生数

2-1 学生数の推移 — 学士課程 —

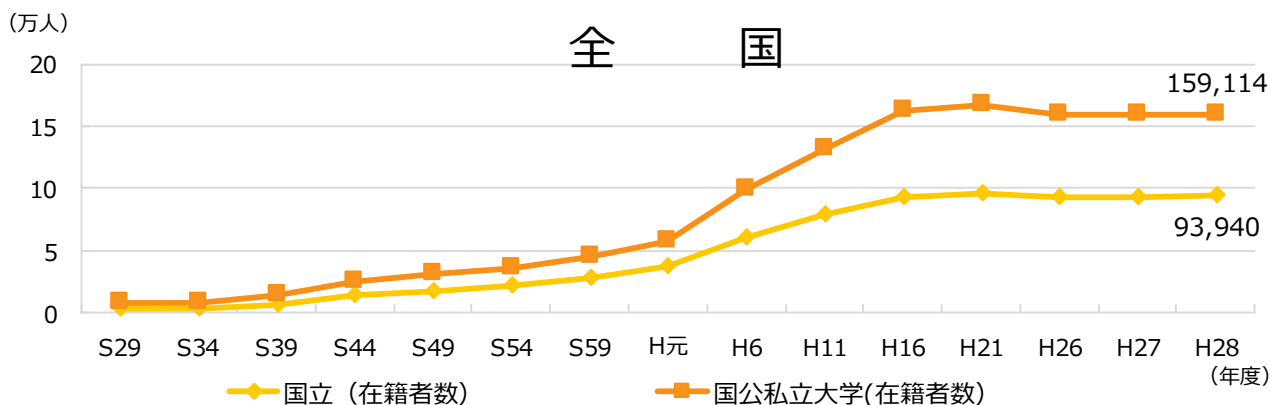
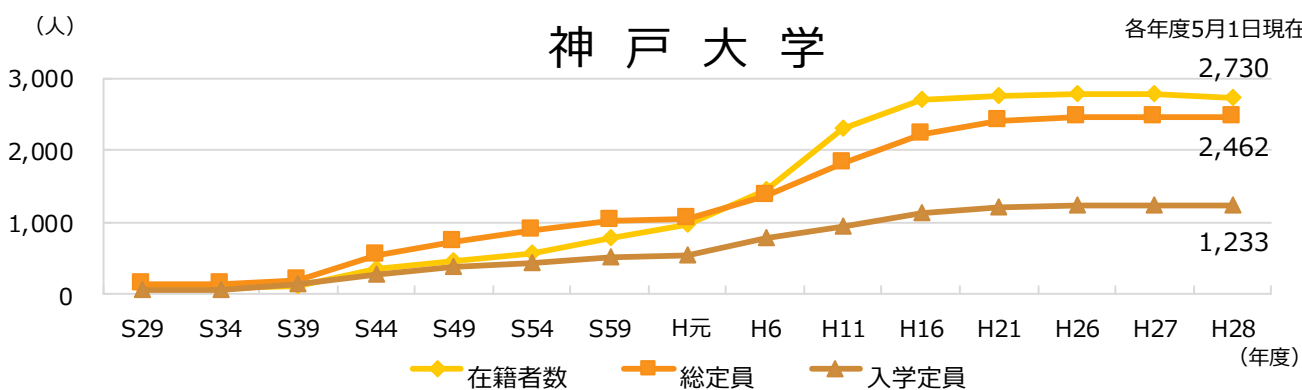
各年度5月1日現在



※出典: 文部科学省 学校基本調査報告書・学校基本調査より作成

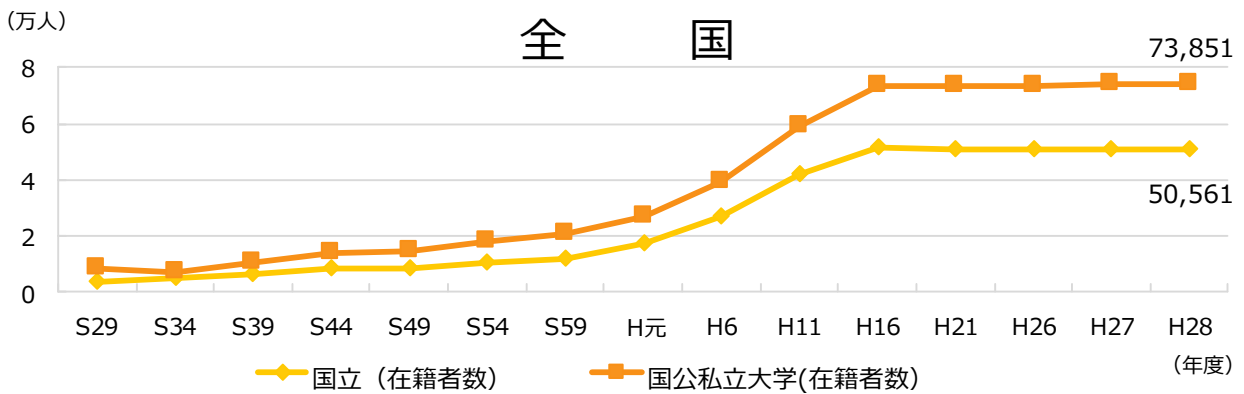
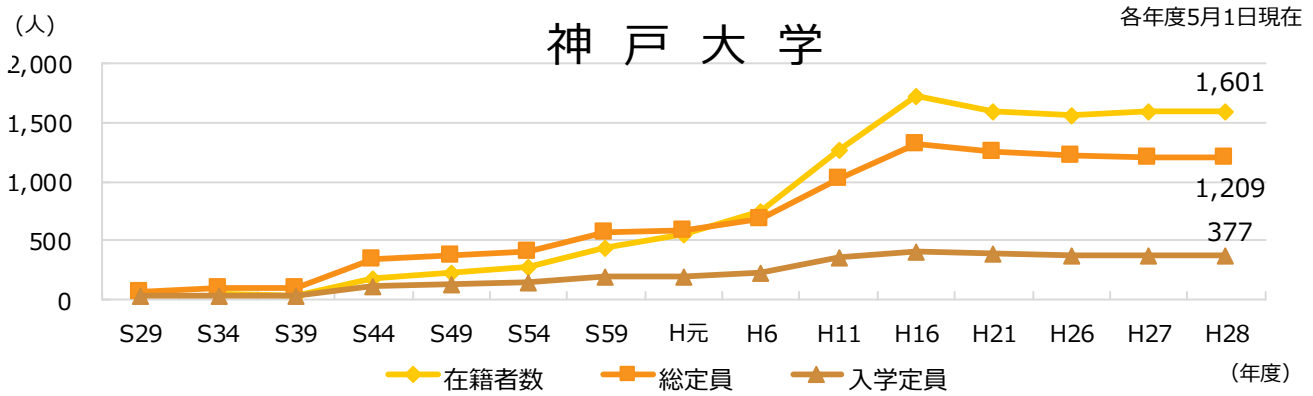
2-2 学生数の推移 — 修士・博士前期課程 —

各年度5月1日現在



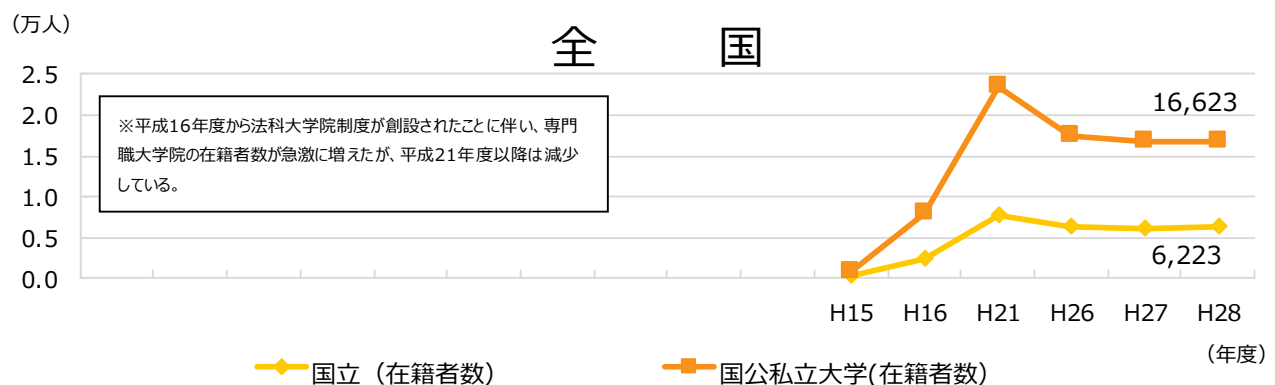
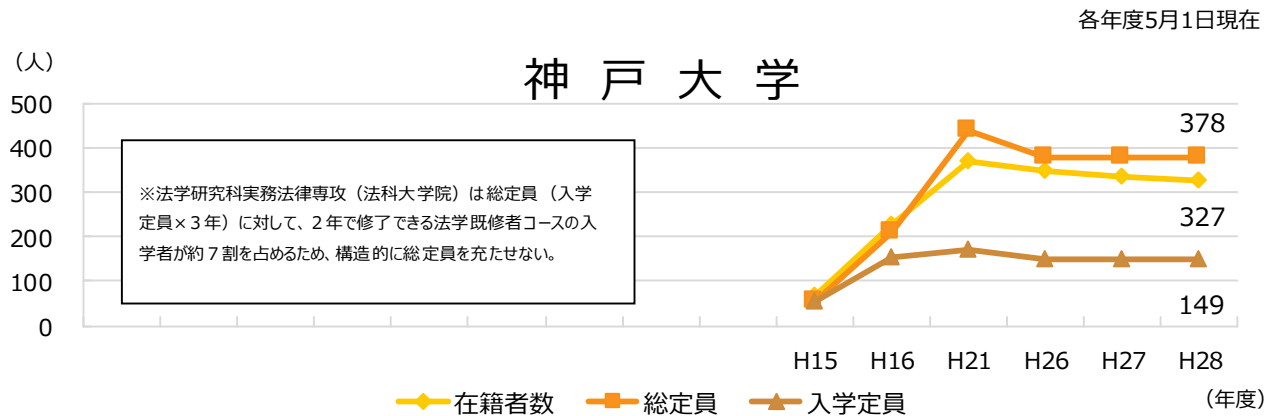
※出典: 文部科学省 学校基本調査報告書・学校基本調査より作成

2-3 学生数の推移 — 博士・博士後期課程 —



※出典：文部科学省 学校基本調査報告書・学校基本調査より作成

2-4 学生数の推移 — 専門職学位課程 —

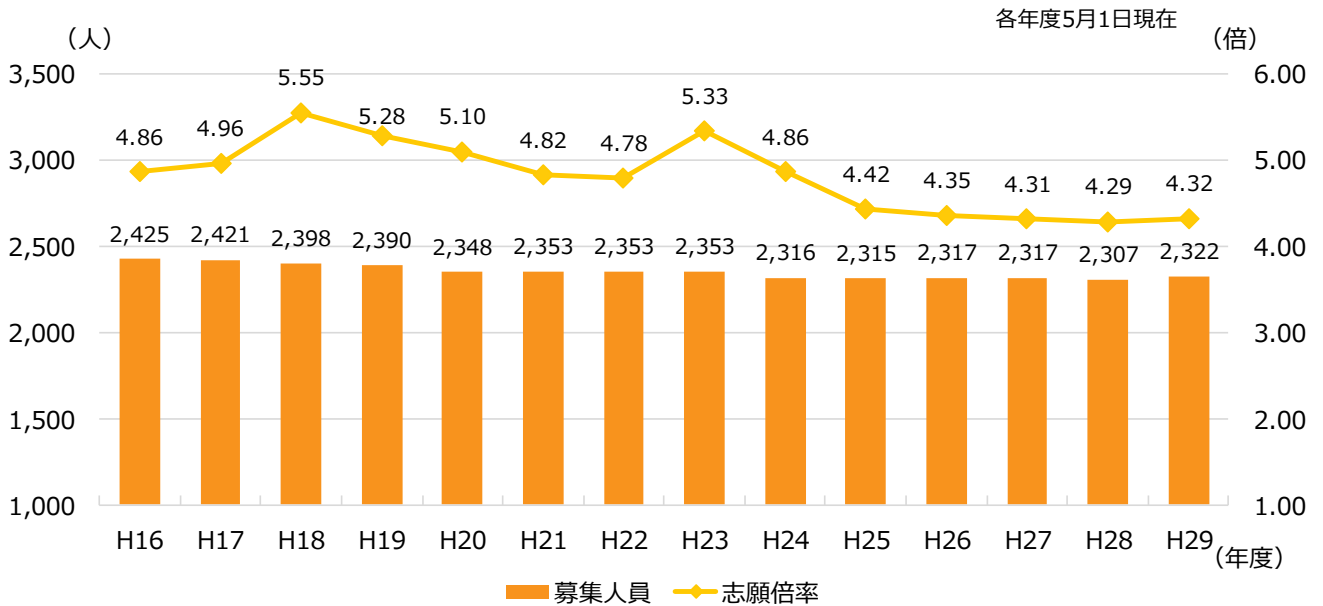


※出典：文部科学省 学校基本調査報告書・学校基本調査より作成

3. 学部一般選抜志願状況

3-1 学部一般選抜志願状況（推移）

- 国立大学法人化（平成16年度）以降、神戸大学の学部一般選抜（一般入試）の志願倍率は、**4.3～5.6倍**前後で推移している。
- 平成29年度入試においては、2,322名の募集人員に対し10,024名の受験生が志願し、志願倍率は**4.32倍**であり、ここ数年横ばい傾向にある。

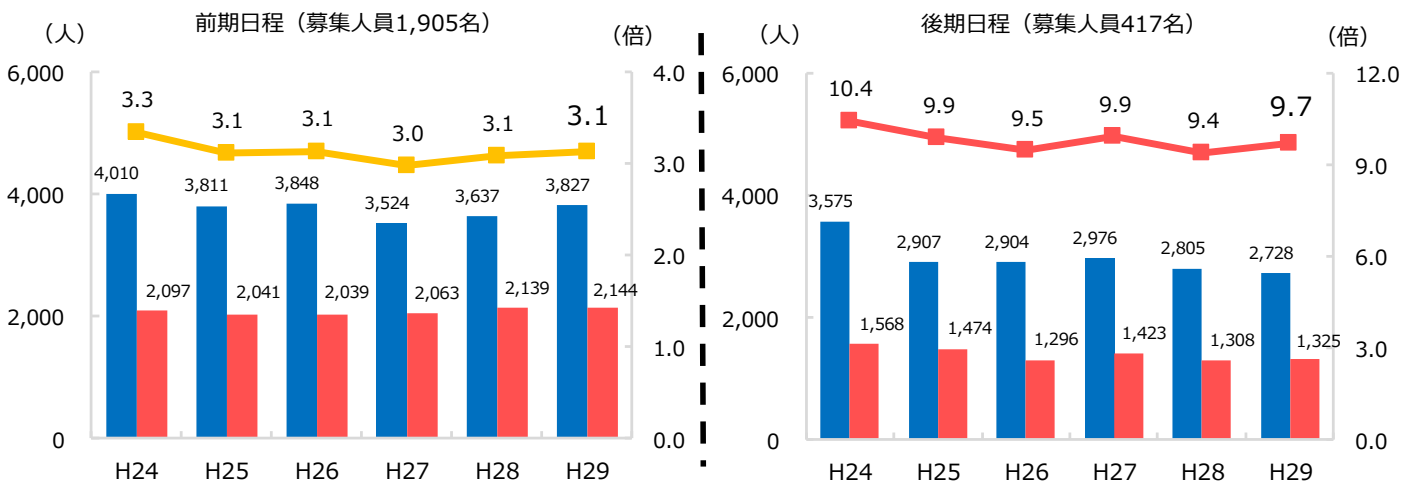


3-2 学部一般選抜志願状況（日程別・男女別推移）

- 前期日程は**3倍**程度、後期日程は**10倍**程度の志願倍率を推移しており、安定して志願者を確保している。
- 志願者の男女比については、年度によってやや差があるものの、概して2対1の割合で推移している。

■ 男子志願者数 ■ 女子志願者数 ▲ 前期志願倍率 ▲ 後期志願倍率 各年度5月1日現在

神戸大学・学部一般選抜志願状況



（注）各日程の募集人員は平成29年度の数値を記載している。その他の各年度の募集人員は以下のとおり。

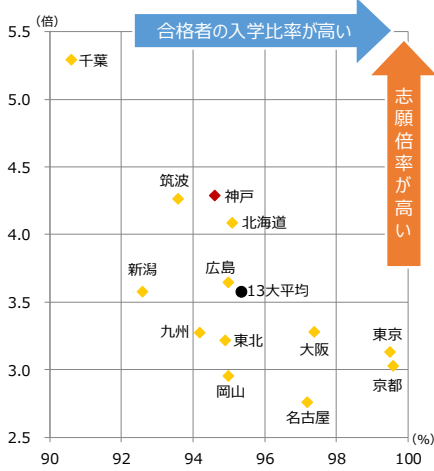
H24 前期：1,823名	後期：493名	H26～27 前期：1,874名	後期：443名
H25 前期：1,872名	後期：443名	H28 前期：1,869名	後期：438名

3-3 全国の大学の志願状況及び入学定員

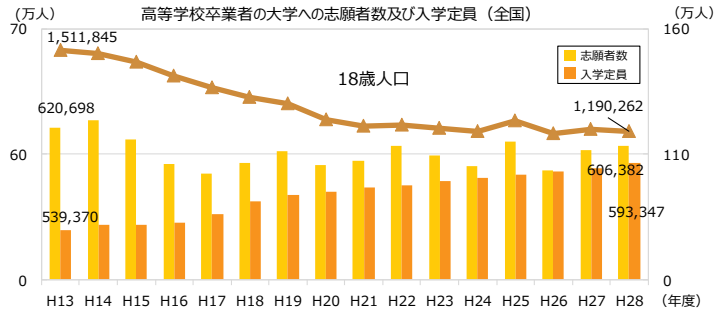
◆大規模13大学の状況（平成28年度入試）

大学名	北海道	東北	筑波	千葉	東京	新潟	名古屋	京都	大阪	神戸	岡山	広島	九州	13大学平均
募集人員	2,426人	1,917人	1,494人	2,145人	2,960人	1,766人	1,737人	2,758人	3,180人	2,307人	1,757人	2,000人	2,360人	28,807人
志願者数	9,919人	6,169人	6,370人	11,357人	9,278人	6,322人	4,797人	8,353人	10,434人	9,889人	5,194人	7,297人	7,739人	103,118人
志願倍率	4.1	3.2	4.3	5.3	3.1	3.6	2.8	3.0	3.3	4.3	3.0	3.6	3.3	3.6
合格者の入学率	95.10%	94.90%	93.60%	90.60%	99.50%	92.60%	97.20%	99.60%	97.40%	94.60%	95.00%	95.00%	94.20%	95.33%

(出典) 募集人員・志願者数・志願倍率：平成28年度国公立大学入学者選抜の志願状況，大学入試センターHP
合格者の入学率：朝日大学ランキング2018



◆全国の大学志願者数および入学定員（推移）



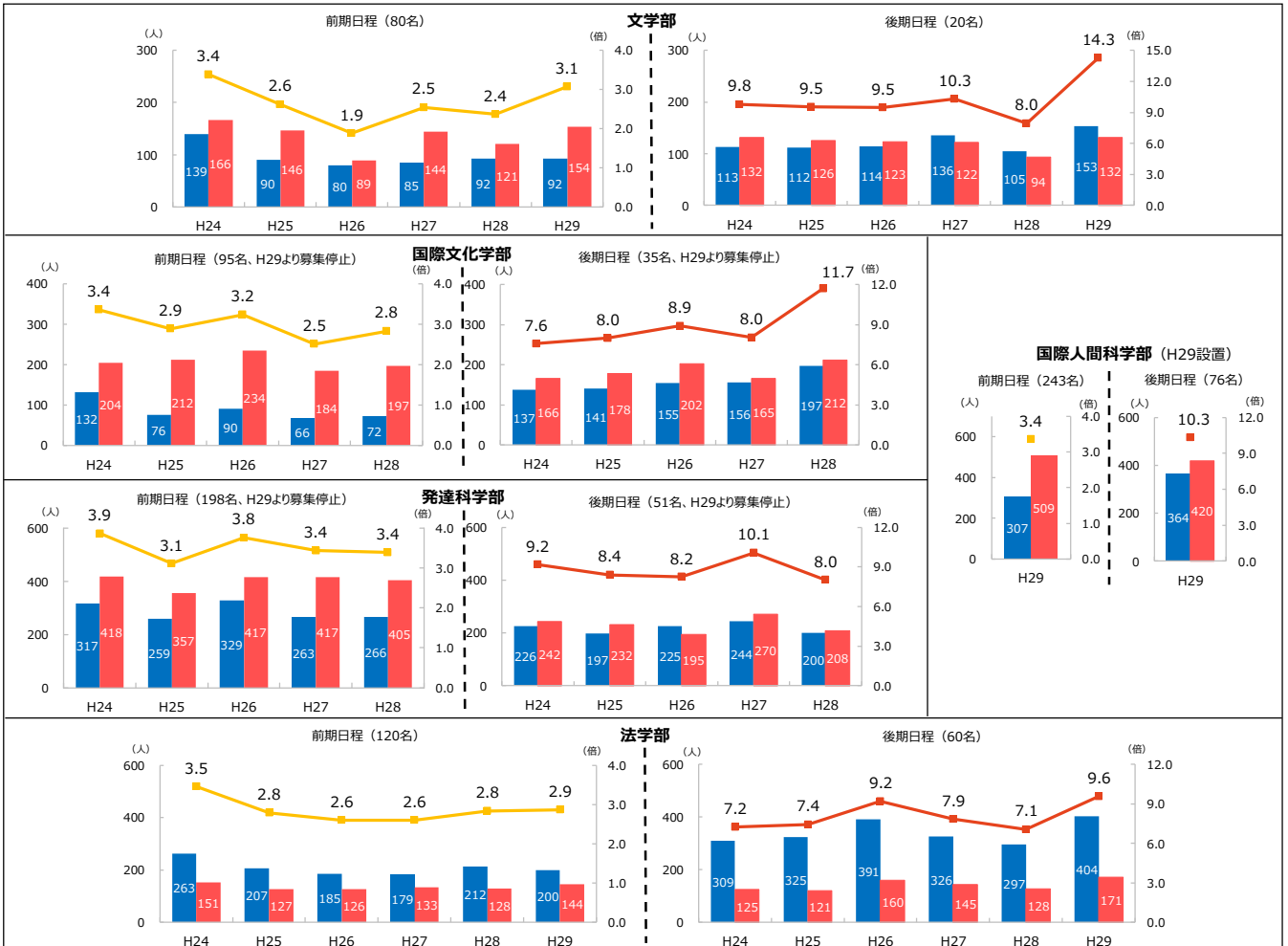
※18歳人口：3年前の中学校卒業生及び中等学校前期課程修了者より推定
(出典) 志願者数：学校基本調査 入学定員：全国大学一覧

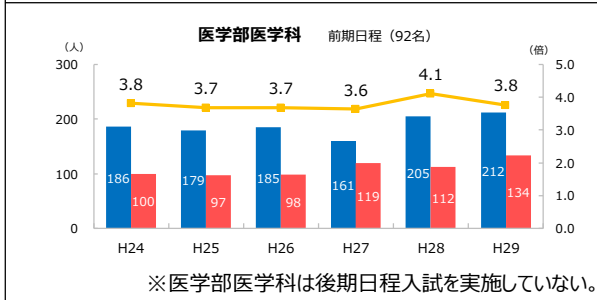
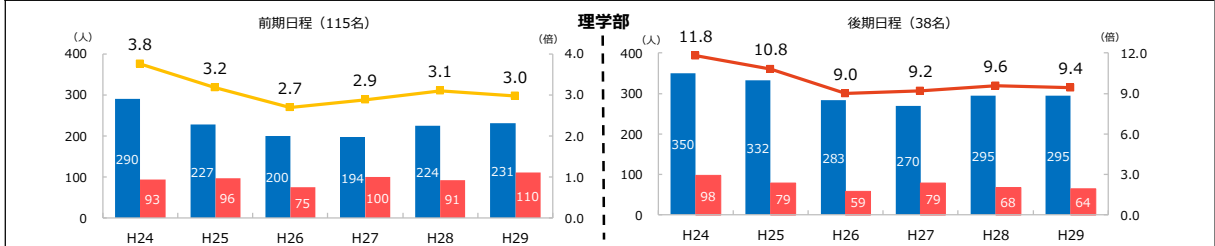
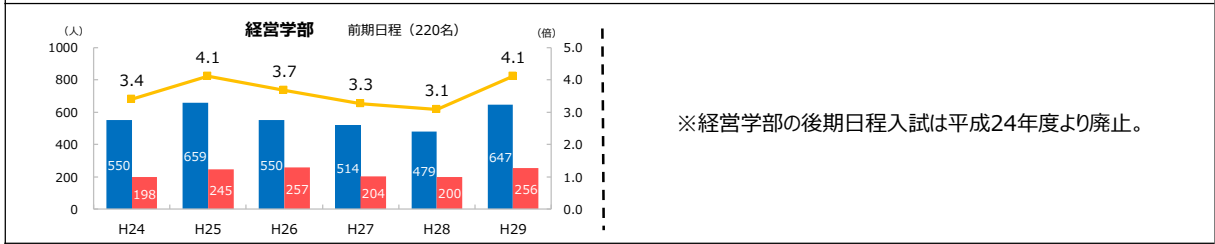
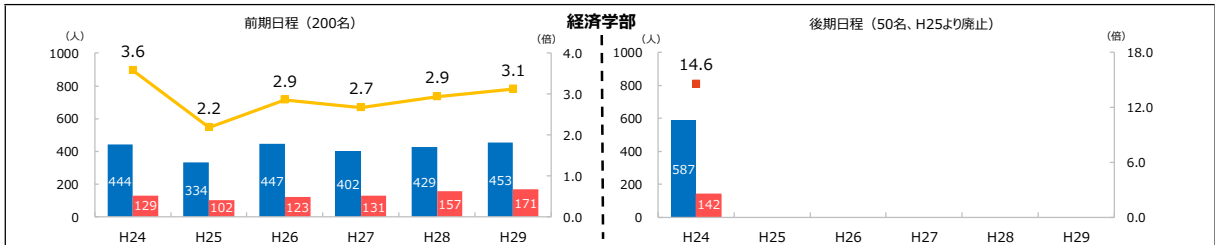
3-4 学部ごとの一般選抜志願状況（日程別・男女別推移）

- 志願倍率は各学部とも毎年上下するが、平成29年度入試では、文学部、国際人間科学部（平成29年4月に国際文化学部、発達科学部を再編して設置）が前期日程で3倍以上、かつ後期日程で10倍以上と良好であり、前期日程のみに注目すると、経営学部、医学部医学科が4倍前後と高い水準にある。
- 文学部、国際人間科学部、医学部保健学科、農学部では、女子受験生からの人気が高。

■ 男子志願者数 ■ 女子志願者数 ▲ 前期志願倍率 ▼ 後期志願倍率

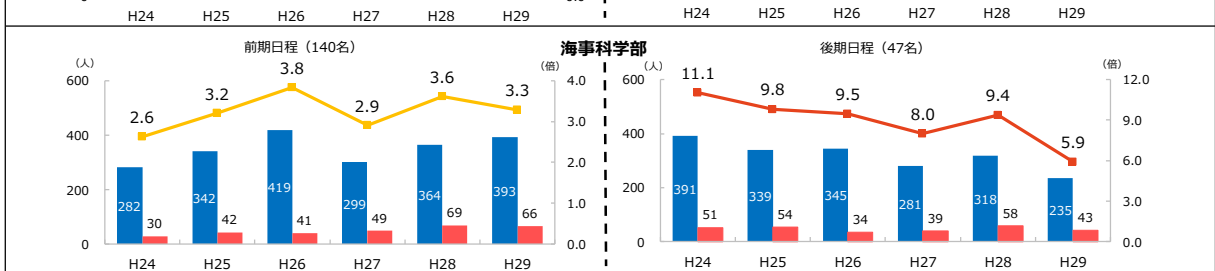
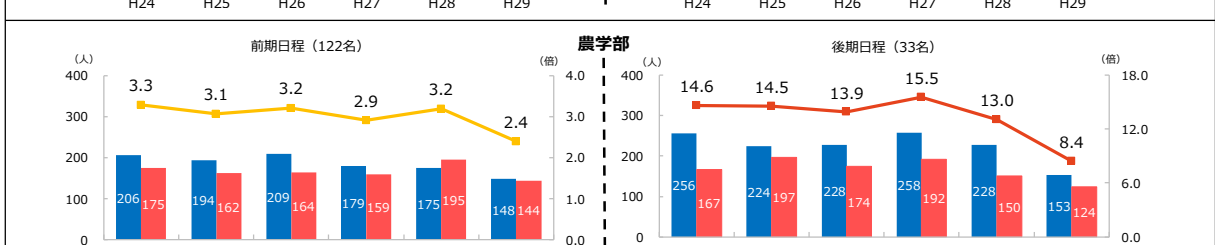
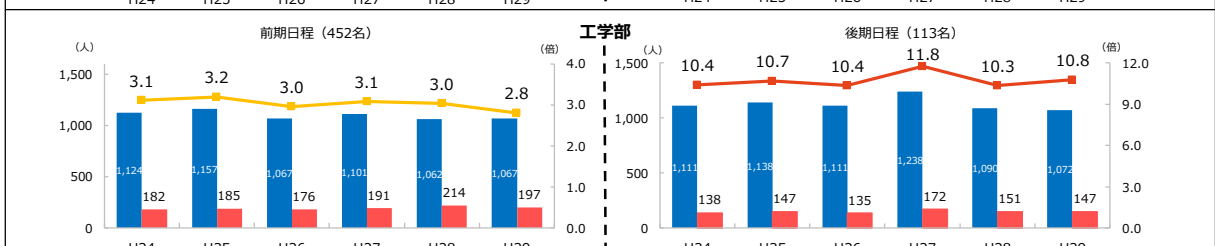
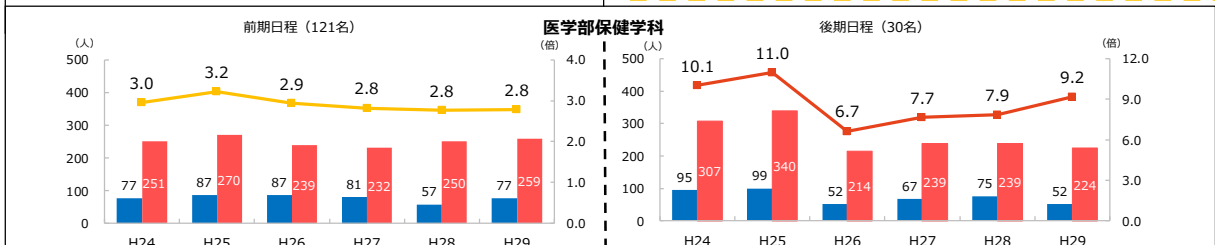
・各年度5月1日現在
・（ ）書きは各日程のH29募集定員
（国際文化学部、発達科学部はH28）





(注) 募集定員が年度により、H29年度（国際文化学部及び発達科学部はH28年度）と異なる学部については、以下のとおり。

文学部	(前) H24~28:90名	(後) H24~28:25名
国際文化学部	(前) H24~27:100名	(後) H24~27:40名
発達科学部	(前) H24:190名	
経済学部	(前) H24:160名	
理学部	(前) H24~28:102名	
医学部医学科	(前) H24~25:75名、H26~28:77名	
医学部保健学科	(前) H24~28:111名	(後) H24~28:40名
工学部	(前) H24~28:420名	(後) H24~28:120名
農学部	(前) H24~28:116名	(後) H24~28:29名
海事科学部	(前) H24:119名、H25~28:120名	(後) H24~28:40名

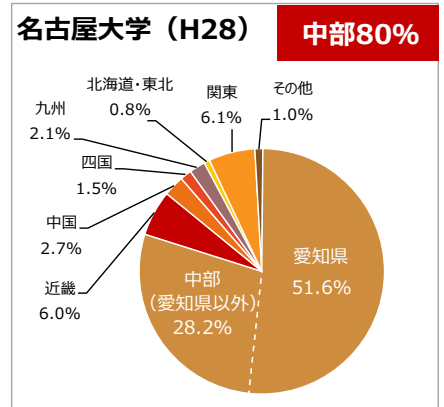
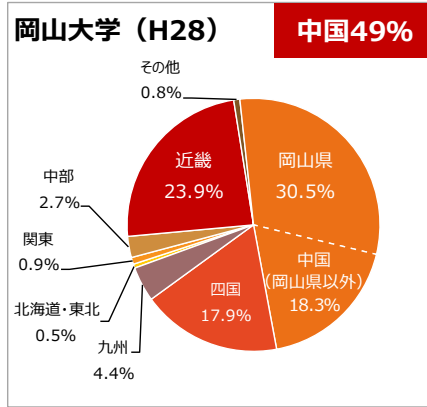
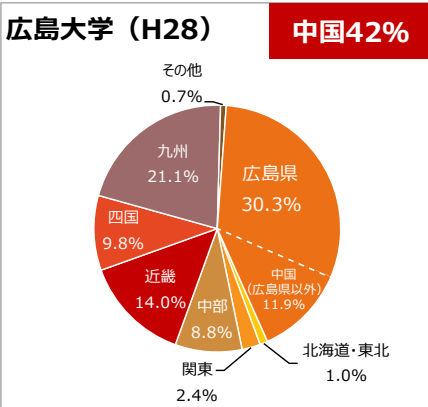
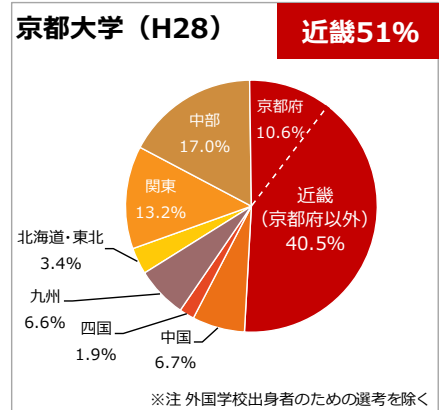
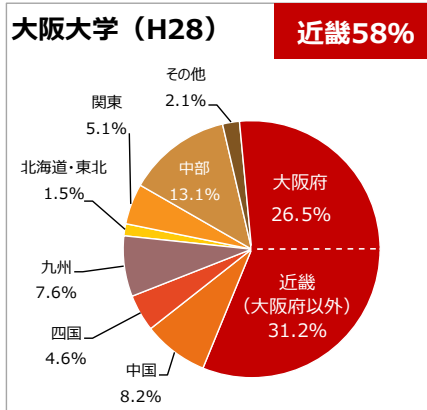
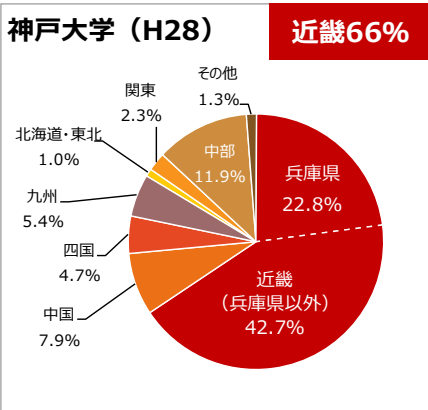
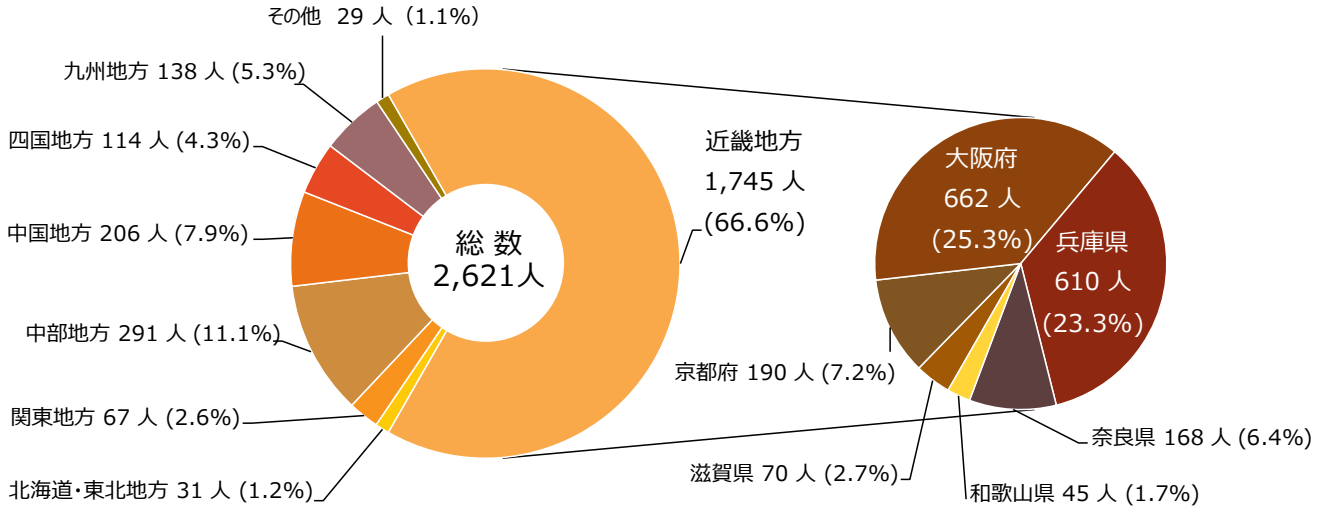


4. 入学状況 — 学部 —

4-1 出身地域別入学者状況

○ 神戸大学では近畿地方の出身者がおよそ3分の2を占めており、また、入学者の8割以上が西日本の出身であることがわかる。

◆神戸大学◆ (H29)



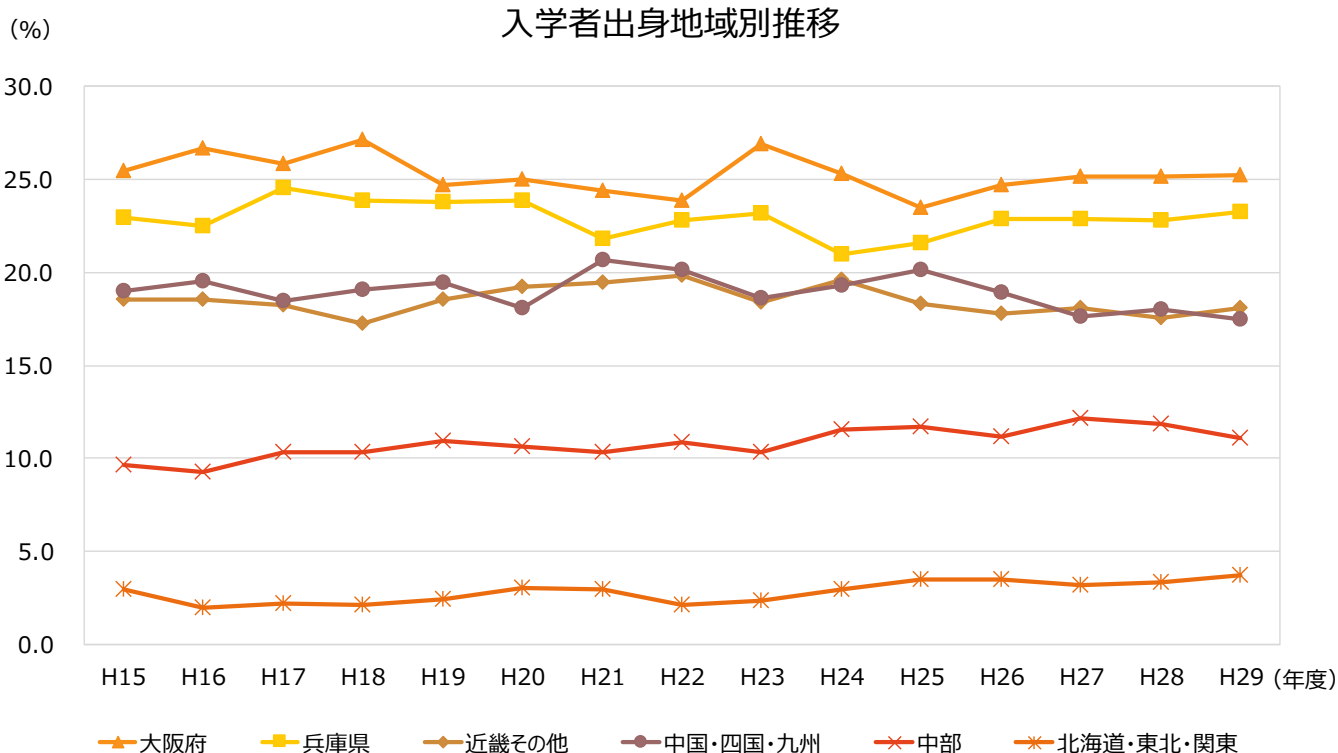
- 【北海道・東北地方】北海道、青森県、岩手県、秋田県、宮城県、山形県、福島県
- 【関東地方】群馬県、茨城県、千葉県、栃木県、埼玉県、東京都、神奈川県
- 【中部地方】新潟県、富山県、石川県、福井県、長野県、山梨県、岐阜県、愛知県、静岡県、三重県
- 【近畿地方】滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
- 【中国地方】鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
- 【四国地方】徳島県、香川県、愛媛県、高知県
- 【九州地方】福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
- 【その他】外国の学校等

出典：各大学HP公表資料

※小数第二位を四捨五入した数値を掲載しているため、合計が100%にならないものもある。

4-2 出身地域別入学者状況の経年推移

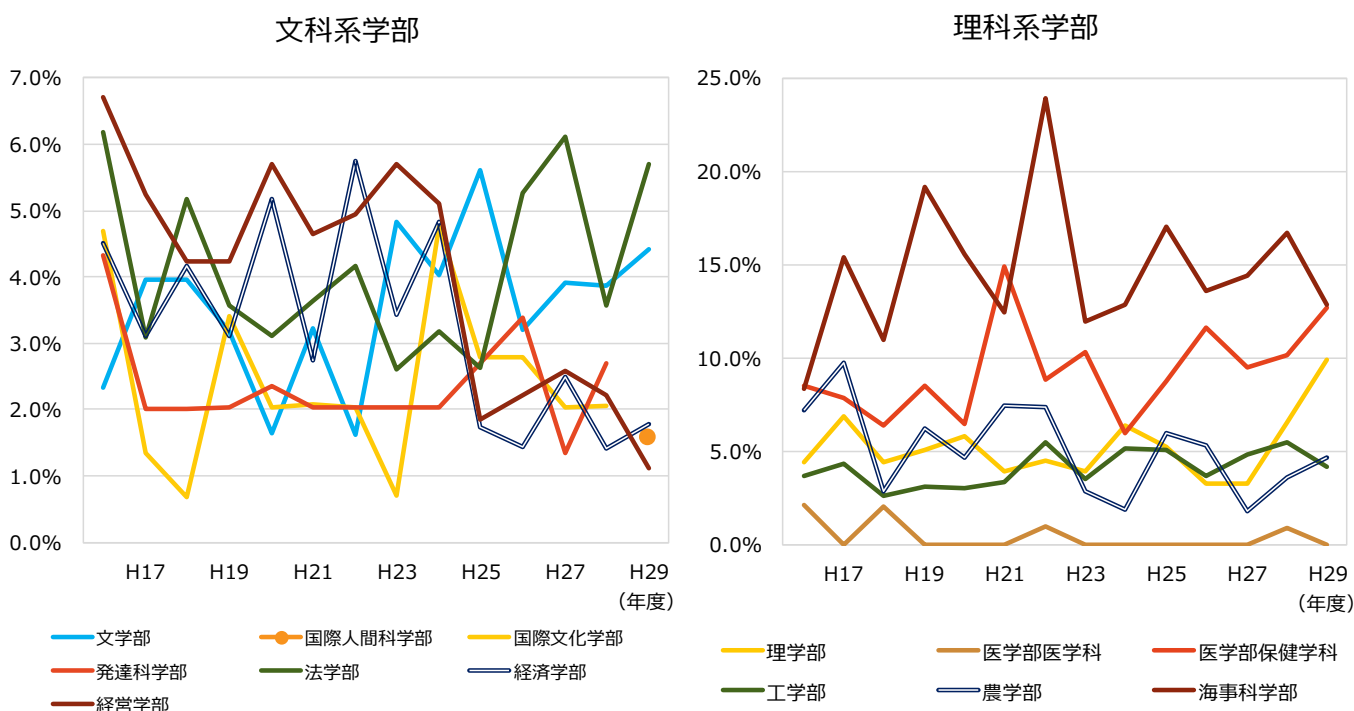
◆神戸大学◆



4-3 入学辞退率の推移

- 神戸大学全体では、医学部医学科を除き、理科系学部の方が概ね入学辞退率は高い。特に、海事科学部では平成17年度以降、毎年10%を超えている。
- 文科系学部では、後期日程を廃止した経済学部（平成25年度より廃止）、経営学部（平成24年度より廃止）において、平成25年度以降、入学辞退率を大きく下げていることがわかる。

◆神戸大学◆

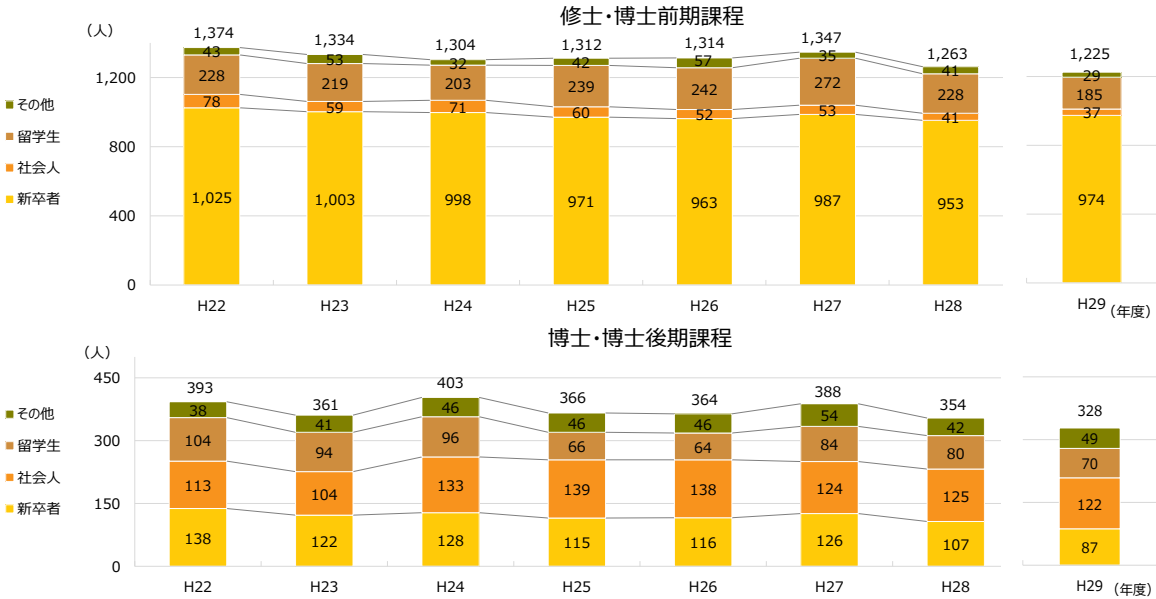


※国際人間科学部はH29年度より設置。
国際文化学部、発達科学部はH29年度より募集停止。

5. 入学状況 — 研究科 —

5-1 大学院入学状況

◆神戸大学◆ ※平成22～28年度は春入学者及び秋入学者、平成29年度は春入学者のみを計上している。

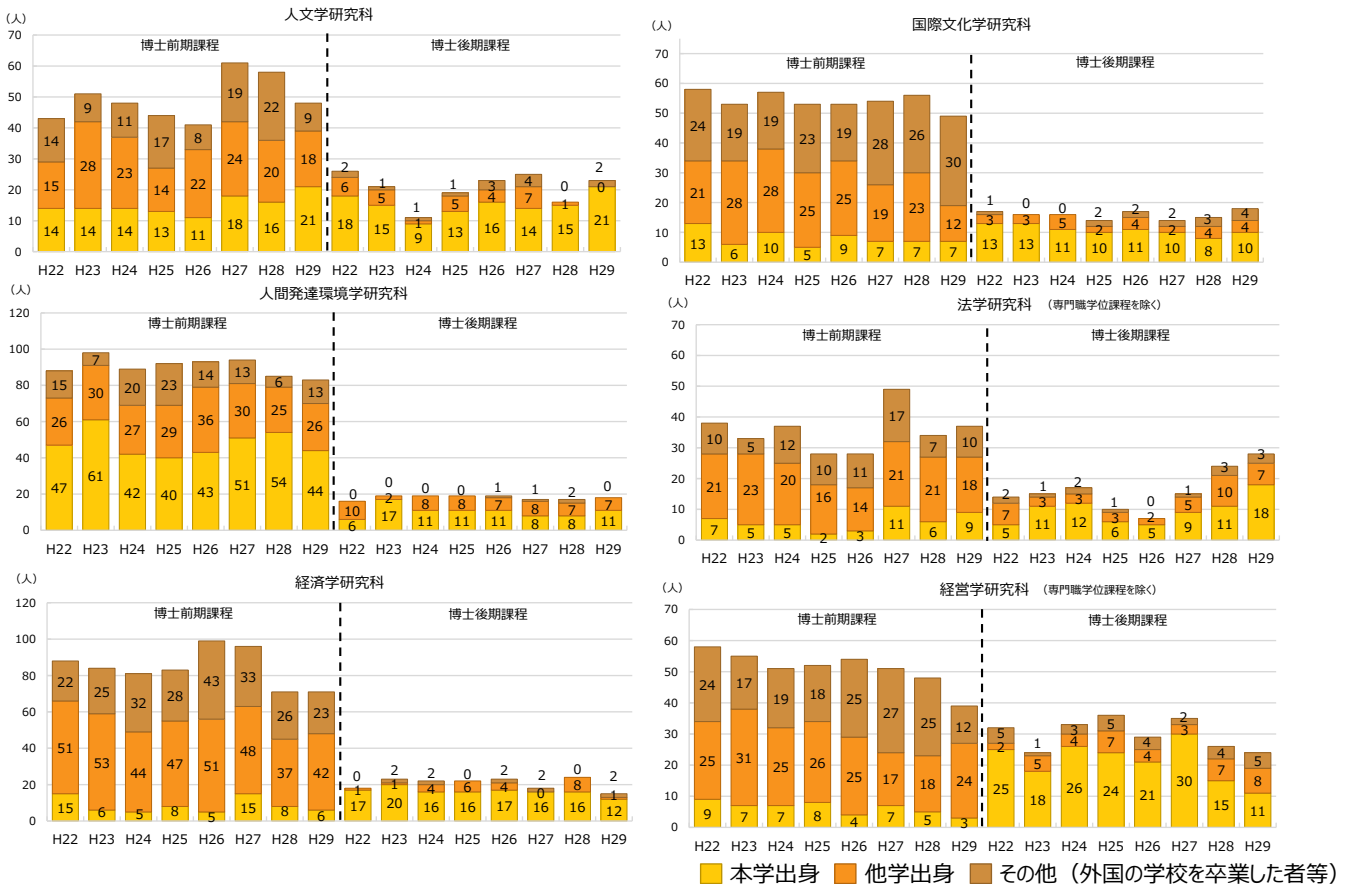


※「その他」は、入学のために退職した者等。

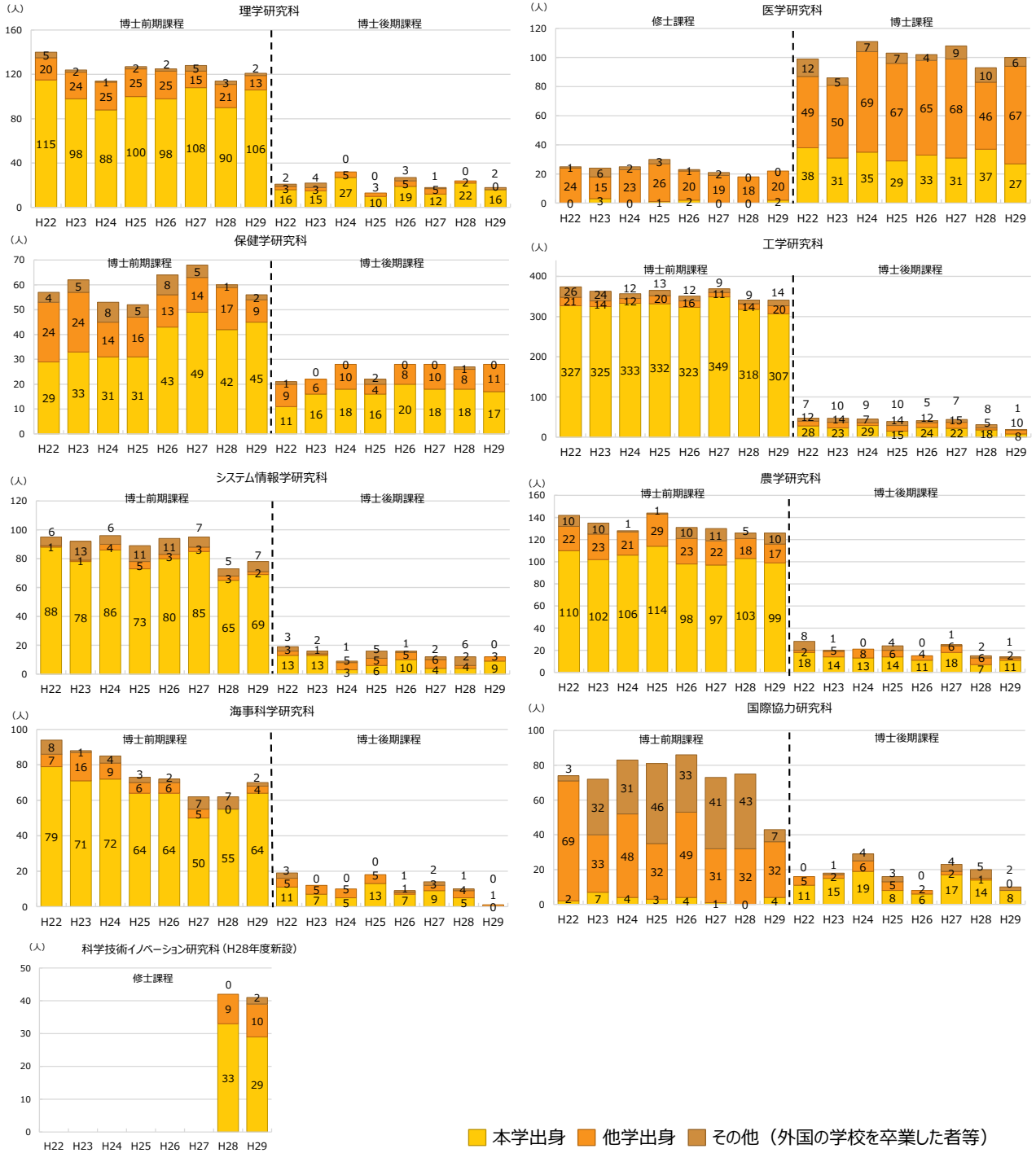
5-2 大学院入学状況 — 研究科別・出身大学別 —

○ 理学・工学・システム情報学・農学・海事科学等の自然科学系の研究科においては、博士前期課程に本学出身の学生がそのまま進学するケースが多いが、人文・社会科学系及び医学系の研究科においては多くの他学出身者が入学している傾向が見られる。

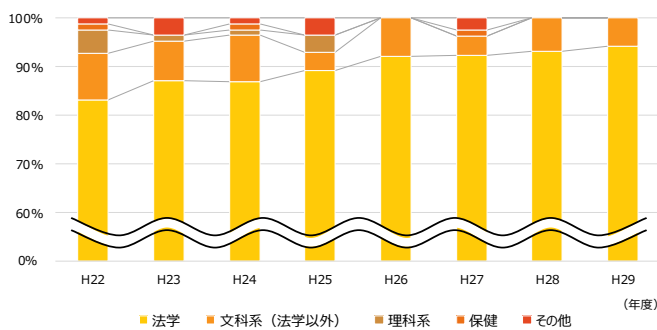
◆神戸大学◆ ※平成22～28年度は春入学者及び秋入学者、平成29年度は春入学者のみを計上している。



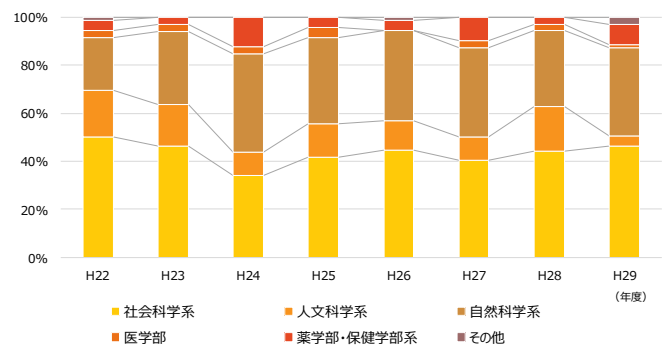
※ 平成22～28度は春入学者及び秋入学者、平成29年度は春入学者のみを計上している。



法学研究科（専門職学位課程）入学者 出身学部別割合



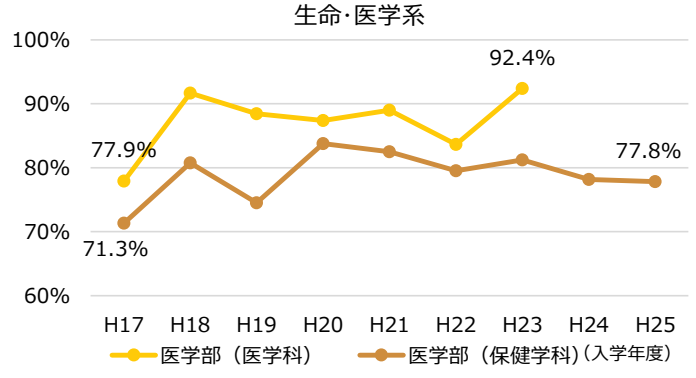
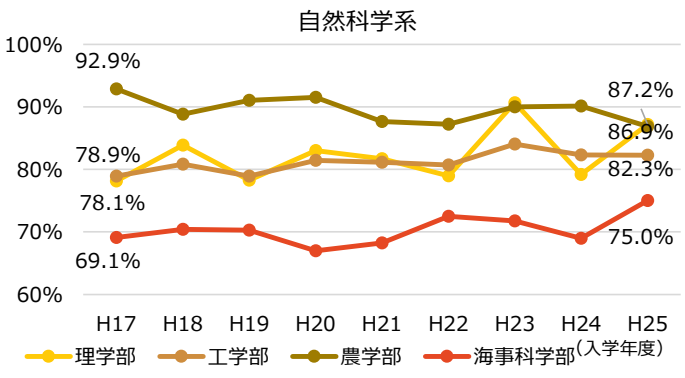
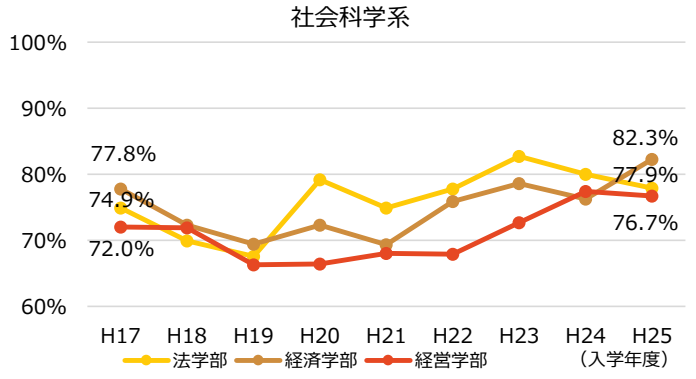
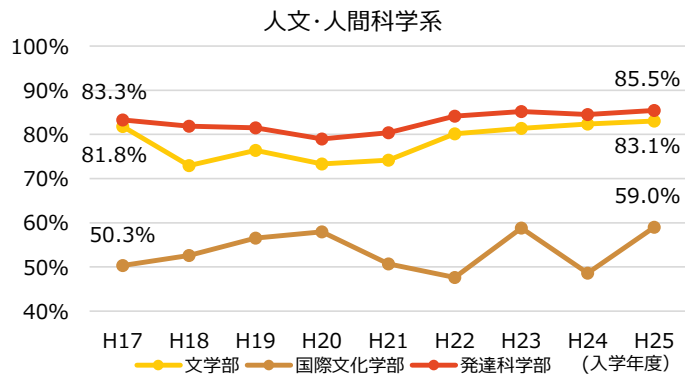
経営学研究科（専門職学位課程）入学者 出身学部別割合



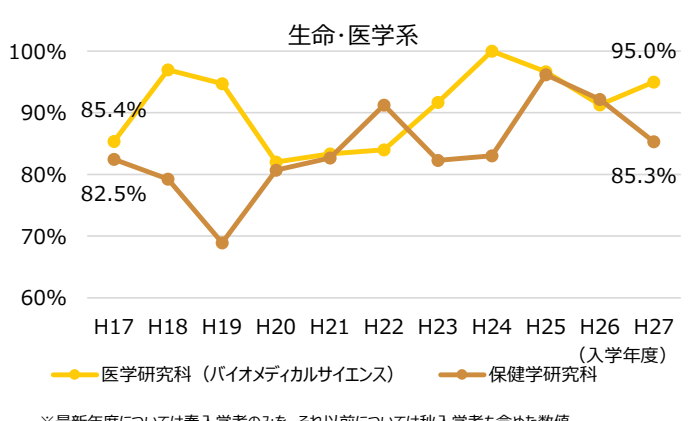
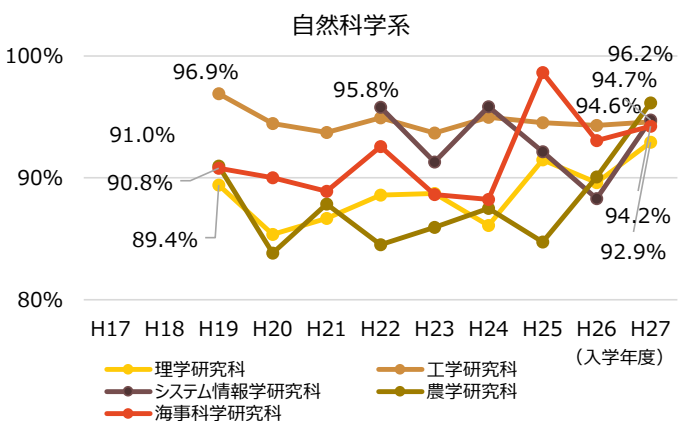
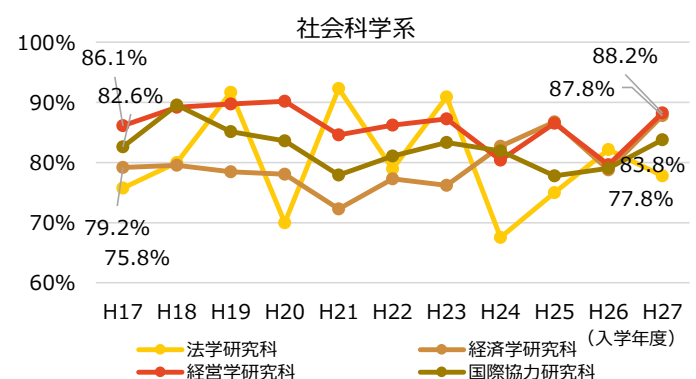
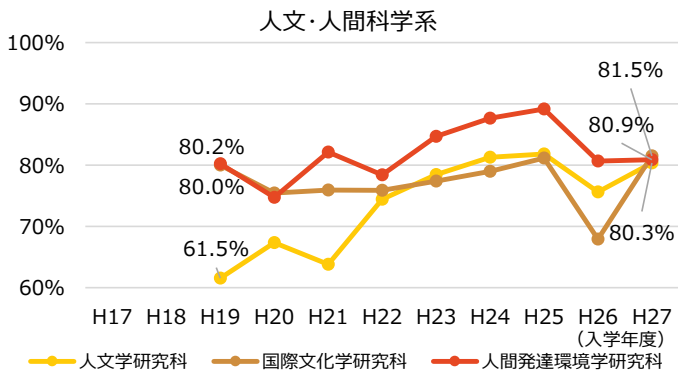
6. 学位授与状況 — 授与率 —

○ 学士課程において、国際文化学部の標準修業年限内学位取得者の割合は、他学部比べて低く、平成17年度以降50%前後を推移しているが、これは海外研修の参加や長期で留学をする学生が多いことによる。

◆ 学士課程（入学年度別標準修業年限内学位取得者の割合）

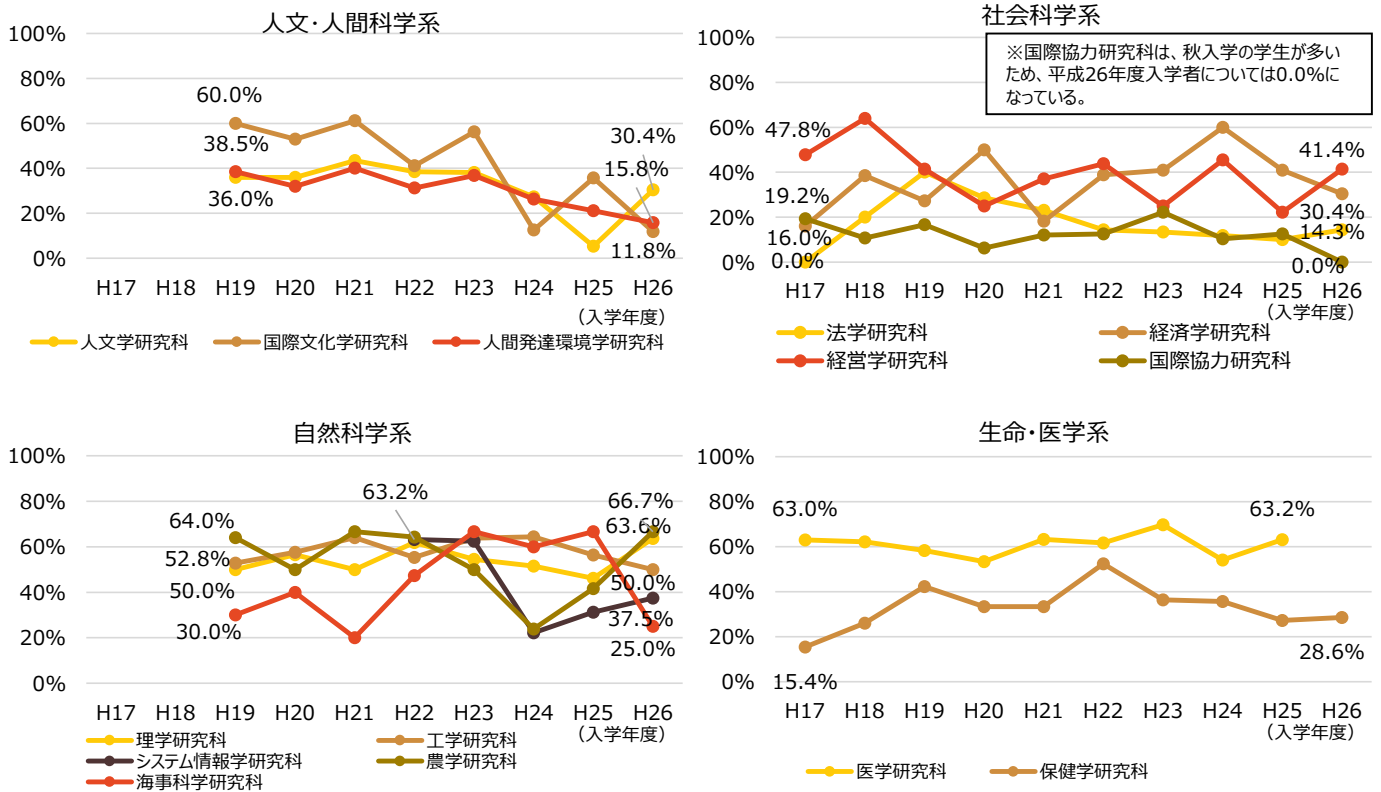


◆ 修士・博士前期課程（入学年度別標準修業年限内学位取得者の割合）



※最新年度については春入学者のみを、それ以前については秋入学者も含めた数値。

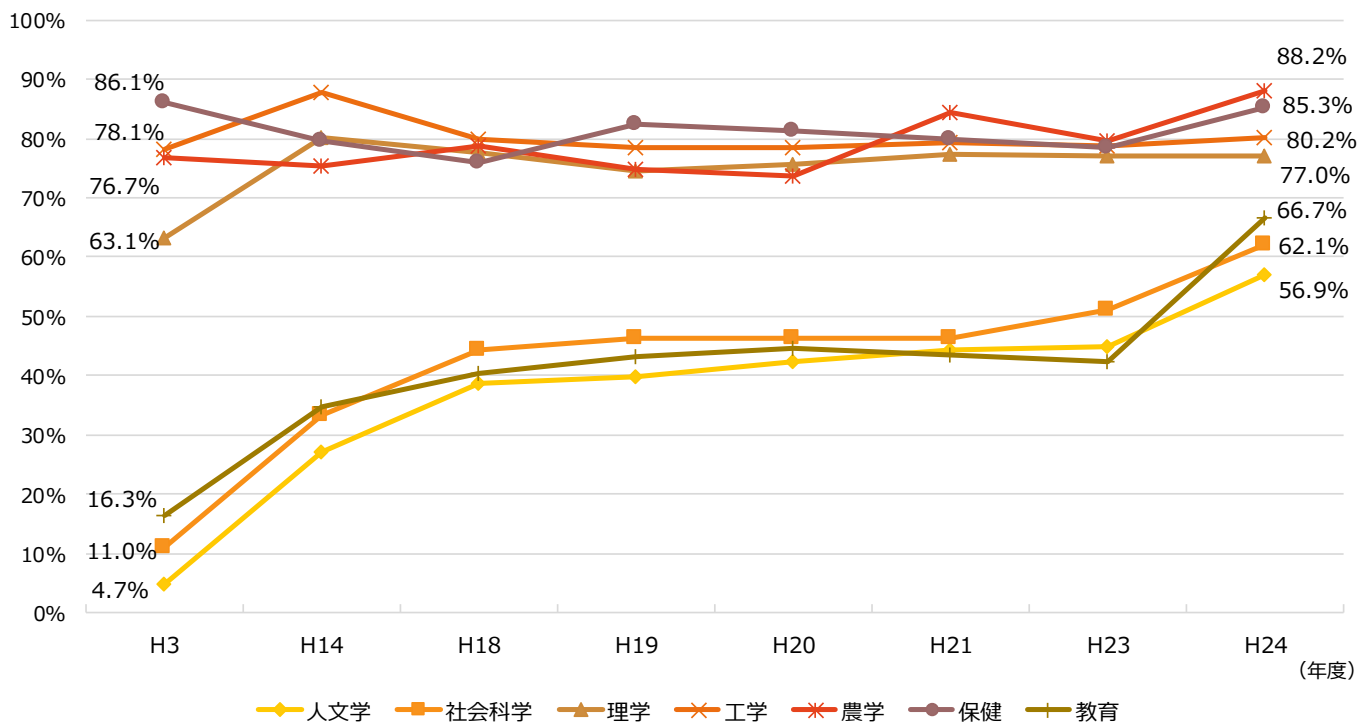
◆博士・博士後期課程（入学年度別標準修業年限内学位取得者の割合）



※最新年度については春入学者のみを、それ以前については秋入学者も含めた数値。

◆全国（当該年度の課程博士授与率）

学位授与率の推移（分野別）

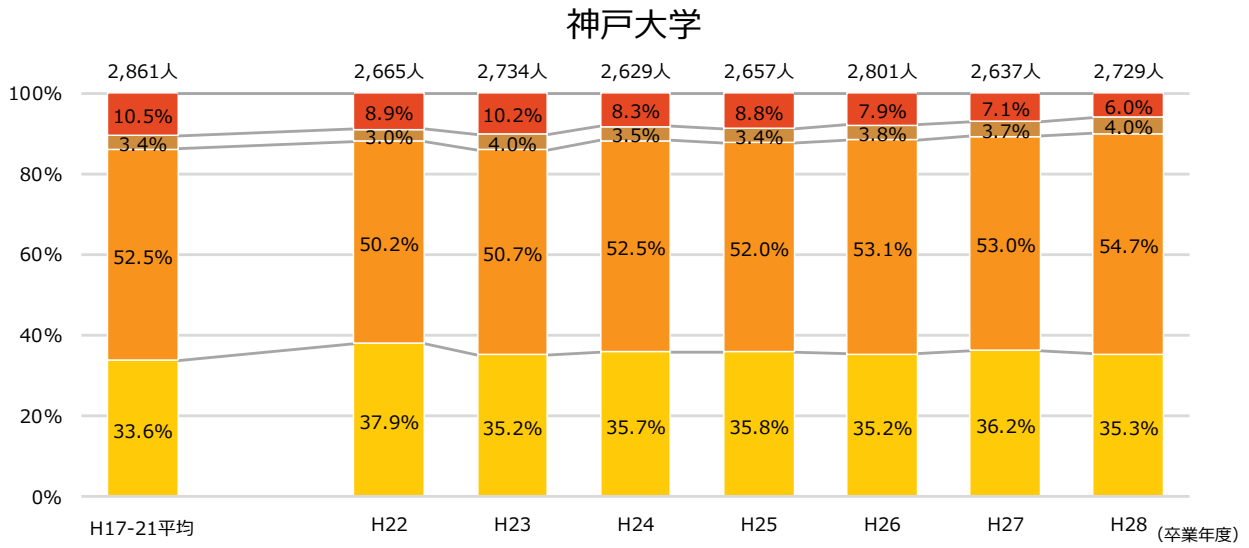


出典：文部科学省調査「各大学院における「大学院教育振興施策要綱」に関する取組の調査結果について」

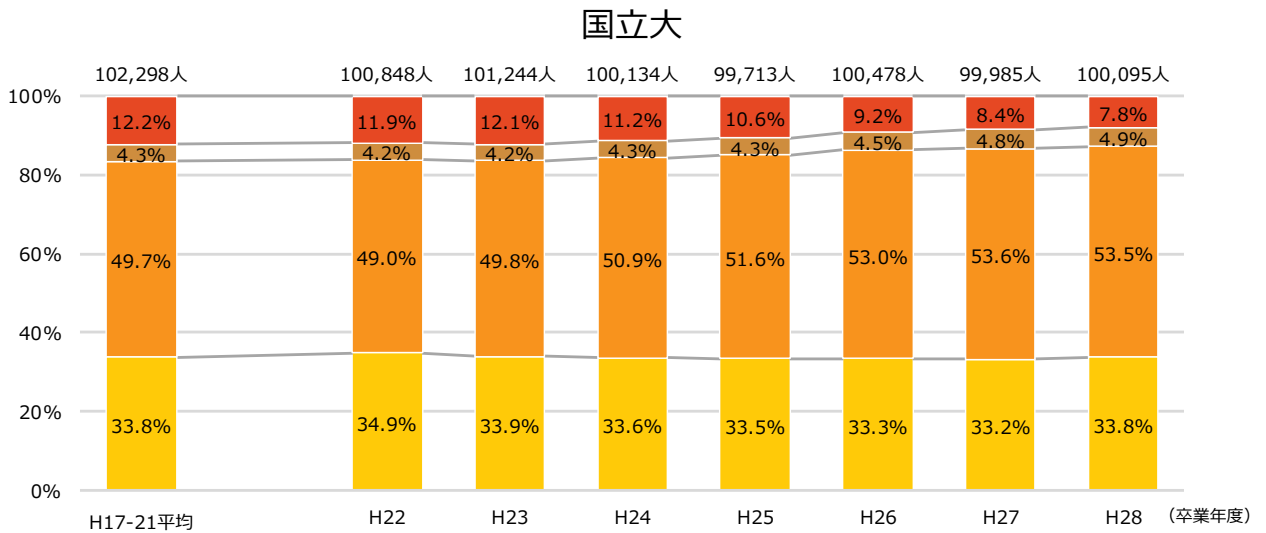
※ 当該年度の課程博士授与数／当該年度から標準修業年限前の博士課程入学者数（入学者のうち最終的に課程博士を授与される割合の推計値。）

7. 進路・就職状況

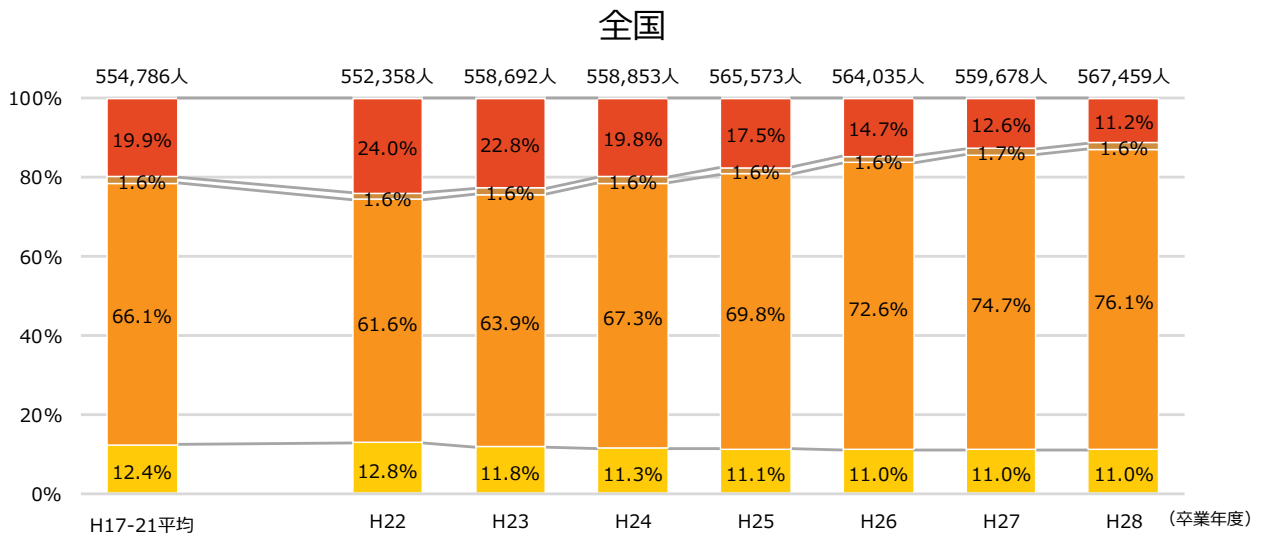
7-1 学部卒業生の進路・就職状況



※学校基本調査と同様、「進学者のうち就職している者」は「進学者」としてカウントし、「就職者」には含まない。



出典：文部科学省 学校基本調査（H28年度の値はH29年8月時点の速報値）



出典：文部科学省 学校基本調査（H28年度の値はH29年8月時点の速報値）

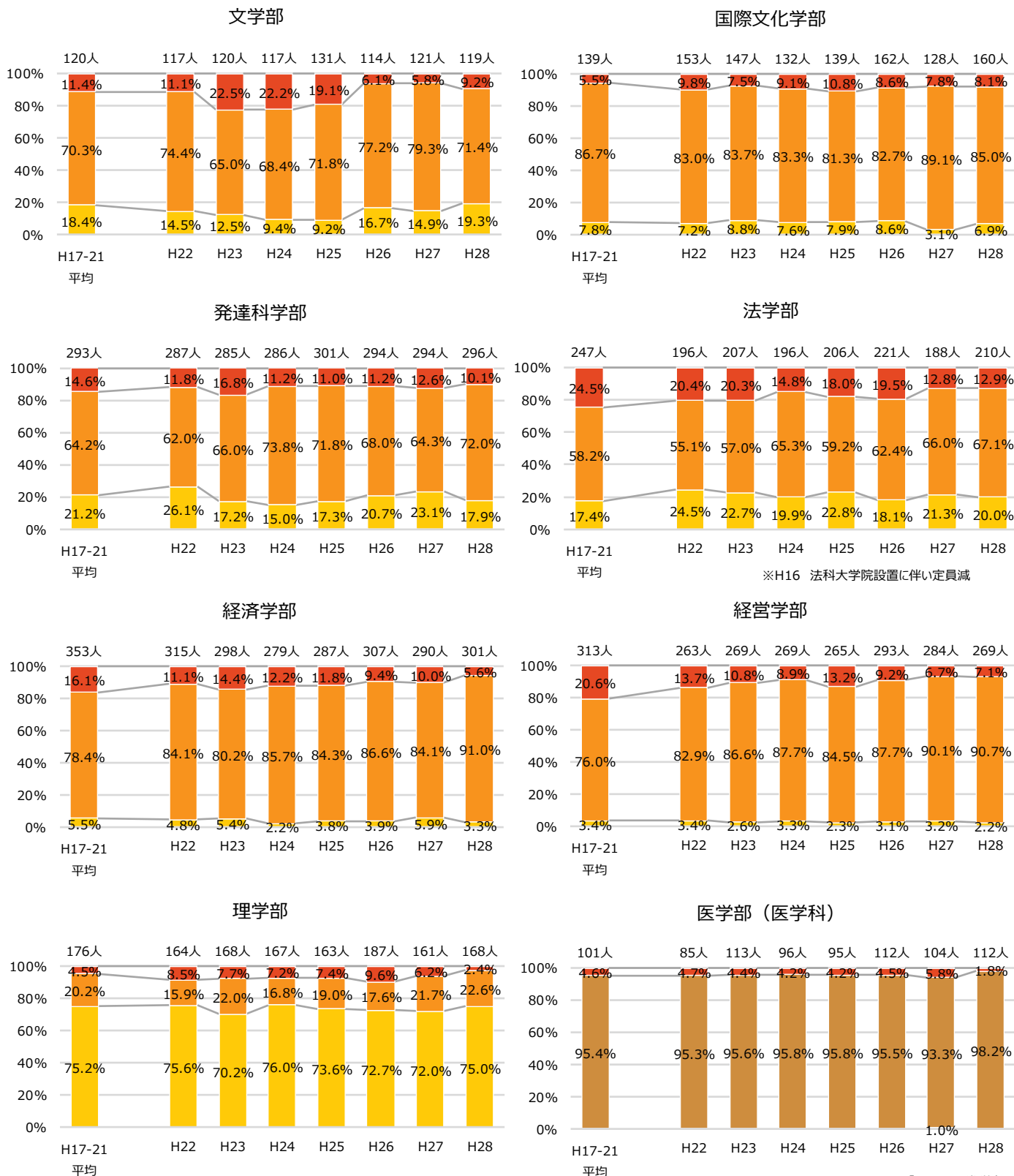
※小数第二位を四捨五入した数値を掲載しているため、合計が100%にならないものもある。

7-2 学部卒業生の進路・就職状況 — 学部別 —

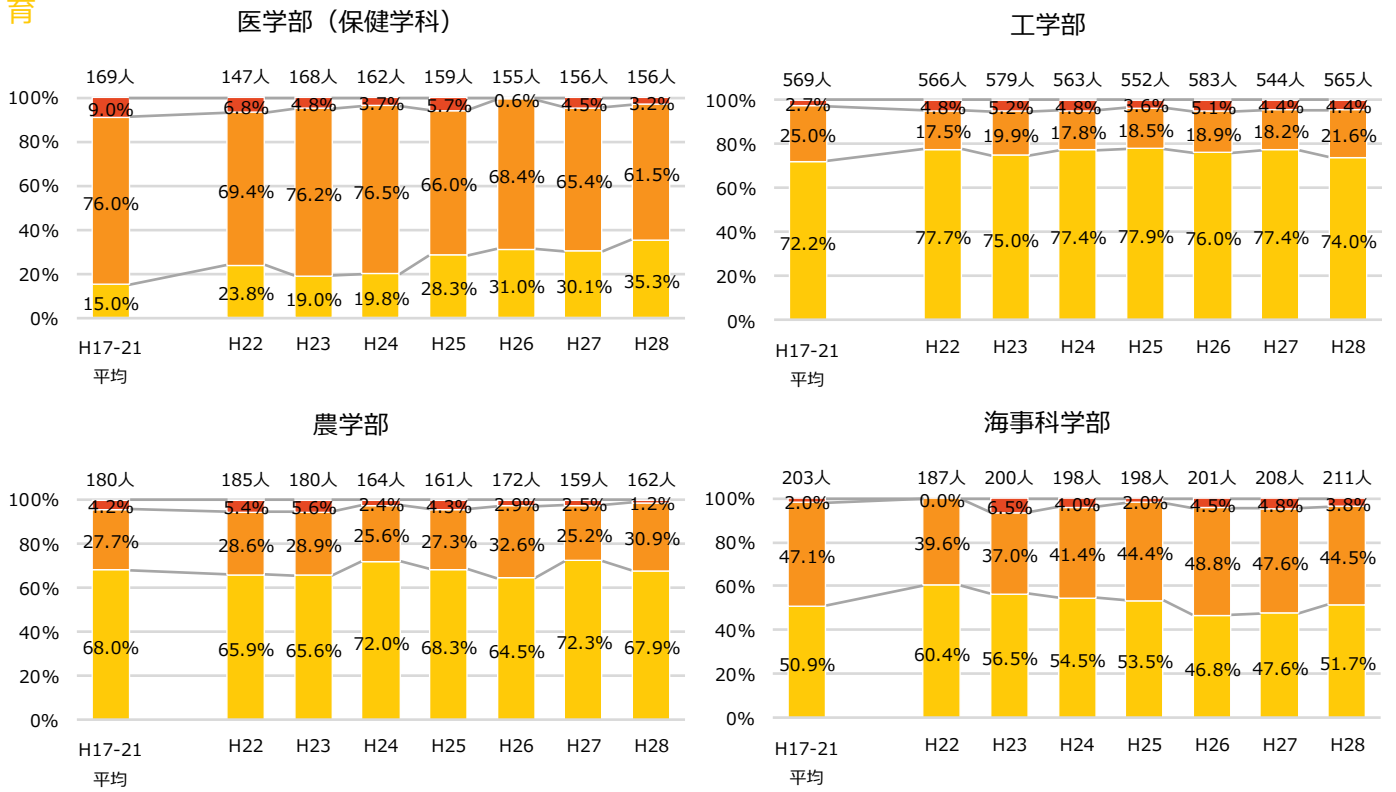
- 学部卒業生について、文科系学部においては就職する学生の割合が高く、理科系学部においては医学部を除き、進学する学生が多い。
- H17～21年度平均と比較すると、法学部、経済学部、経営学部では就職者の割合が上昇し、医学部保健学科、工学部では進学率が上昇している。特に医学部保健学科では、進学率が過去5年間で15%増と大きく上昇している。

◆神戸大学◆ (学部 卒業年度)

■ 進学者 ■ 就職者 ■ 臨床研修医 ■ その他



※小数第二位を四捨五入した数値を掲載しているため、合計が100%にならないものもある。

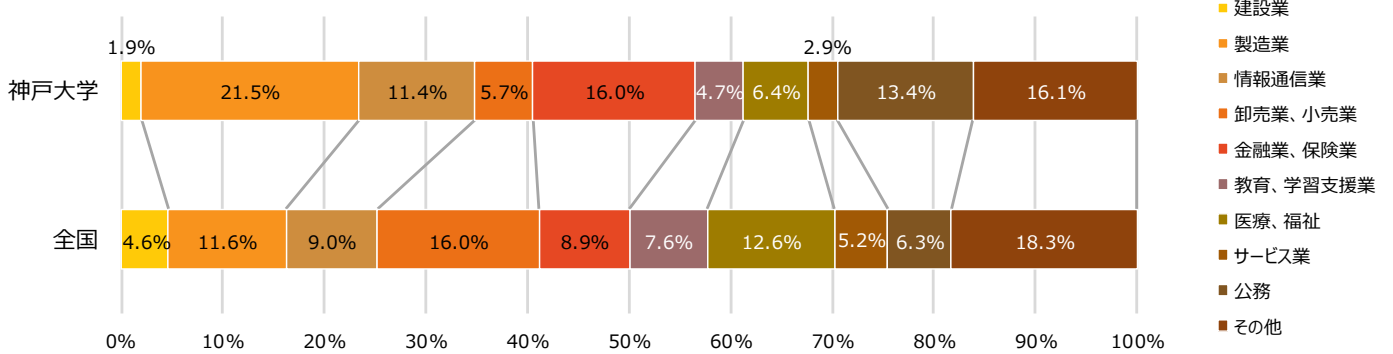


※小数第二位を四捨五入した数値を掲載しているため、合計が100%にならないものもある。

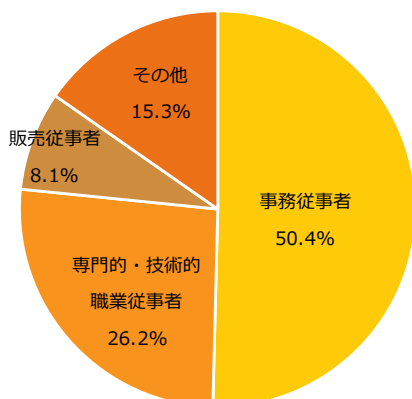
7-3 学部卒業生の産業別・職業別就職状況

- 全国と比較して、産業別では、「製造業」、「金融業、保険業」、「公務」に、職業別では、「事務従事者」にそれぞれ就職している割合が高い。

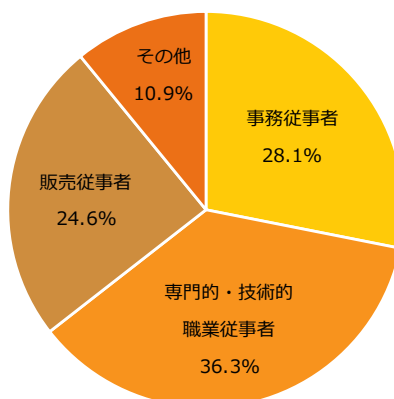
産業別就職状況



職業別（神戸大学）



職業別（全国）



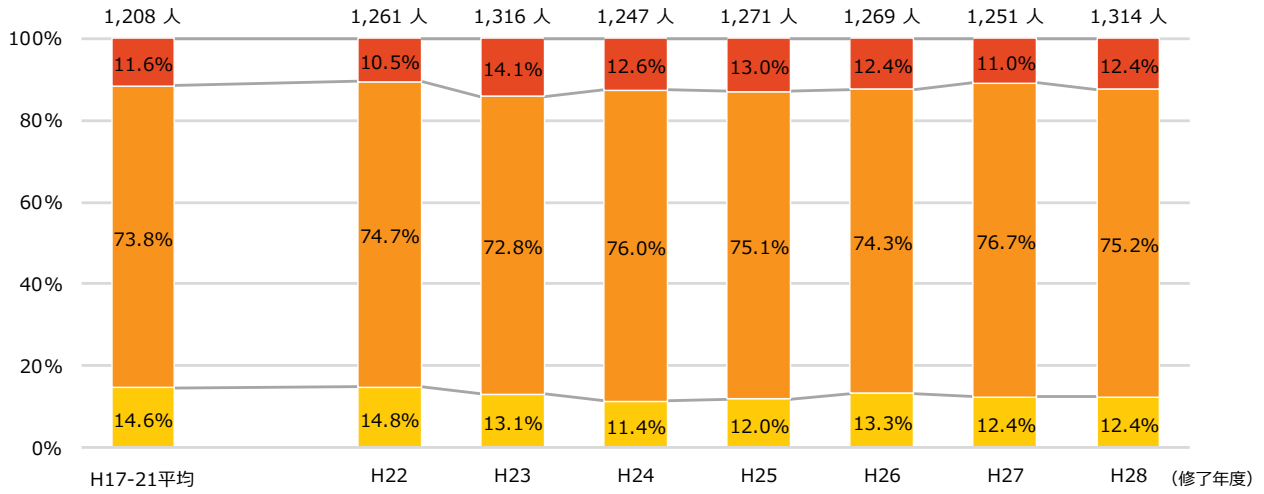
出典：文部科学省 学校基本調査
(H29年8月時点速報値 (H28年度卒業生))

※小数第二位を四捨五入した数値を掲載しているため、合計が100%にならないものもある。

7-4 研究科修了生の進路・就職状況

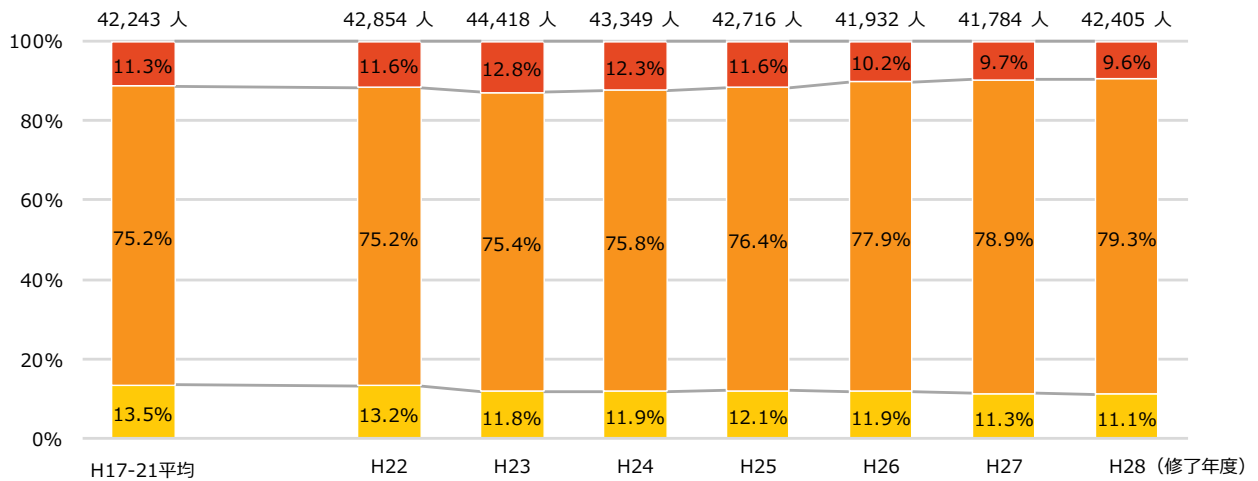
■ 進学者 ■ 就職者 ■ その他

修士・博士前期課程（神戸大学）



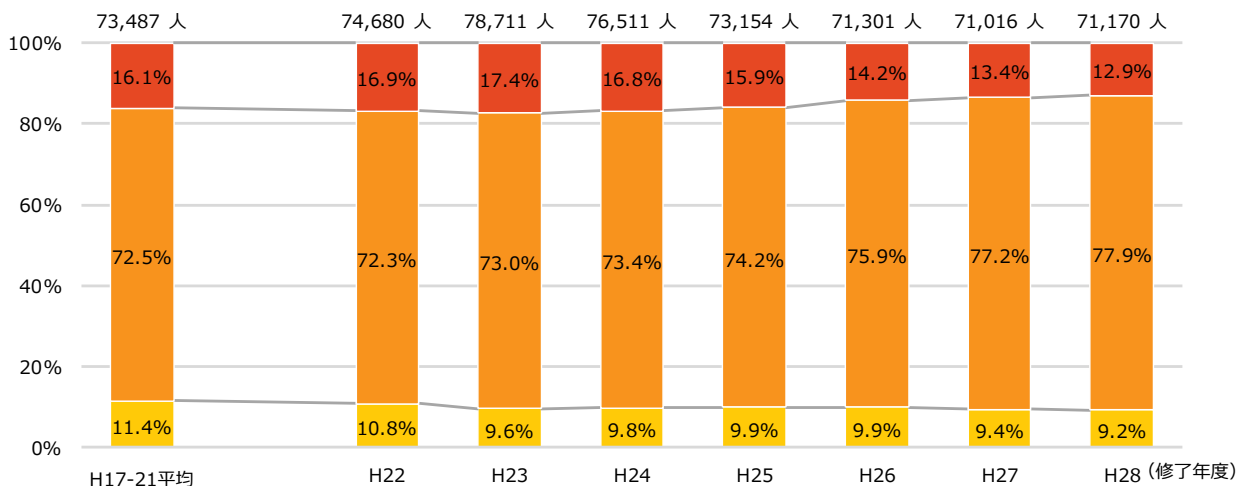
※文学研究科、総合人間科学研究科、自然科学研究科（いずれもH19年度入試より募集停止）、医学系研究科（H20年度より募集停止）の修了生についても計上している。
 ※学校基本調査と同様、「進学者のうち就職している者」は「進学者」としてカウントし、「就職者」には含まない。

修士・博士前期課程（国立大）



出典：文部科学省 学校基本調査（H28年度の値はH29年8月時点の速報値）

修士・博士前期課程（全国）



出典：文部科学省 学校基本調査（H28年度の値はH29年8月時点の速報値）

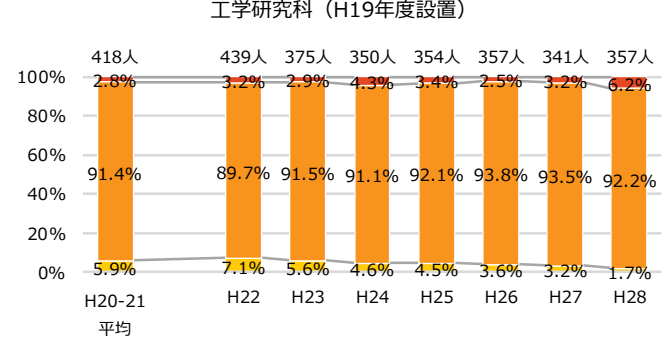
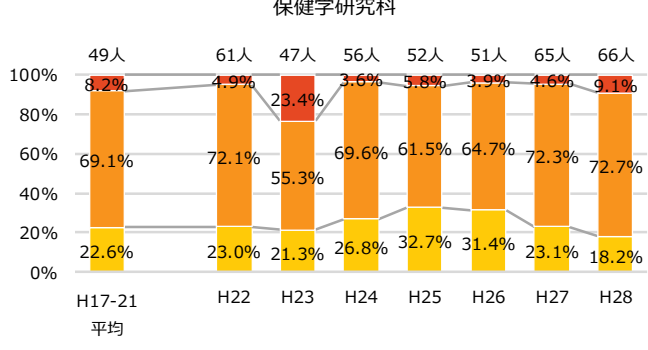
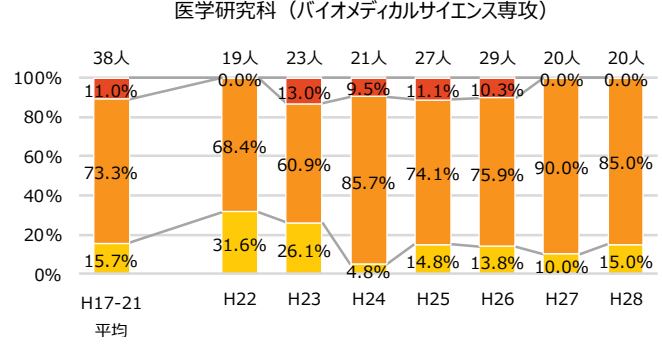
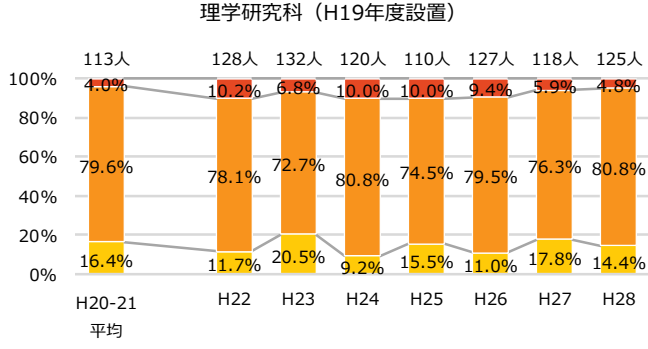
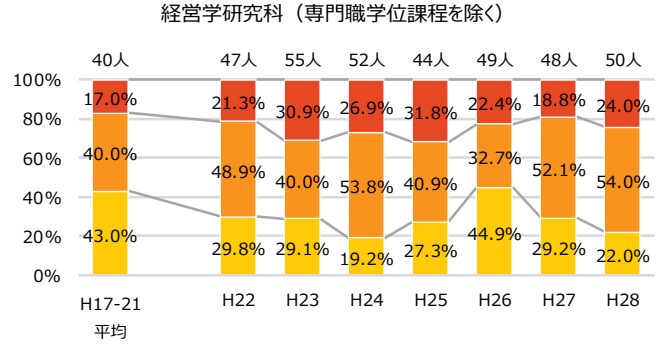
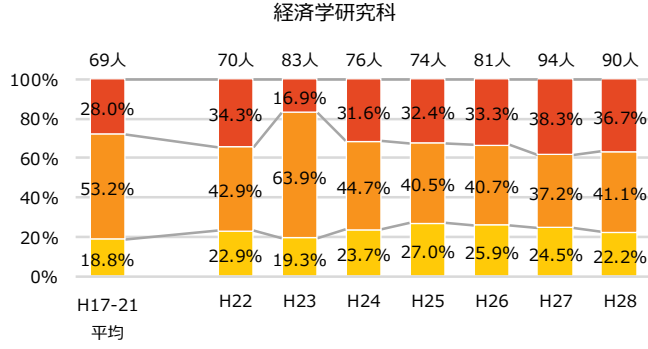
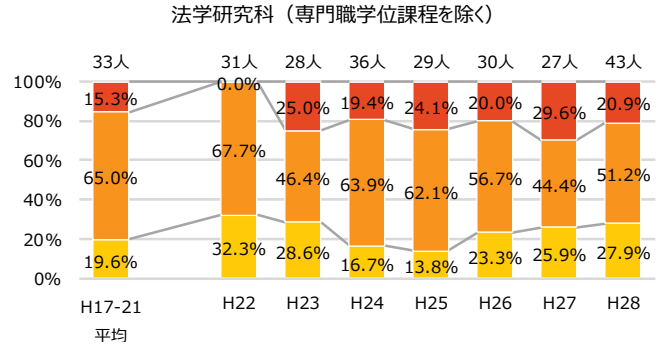
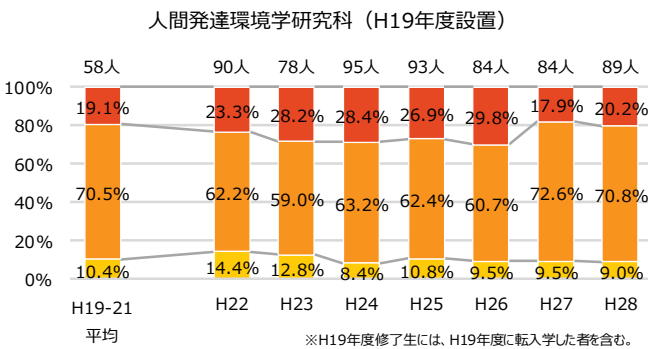
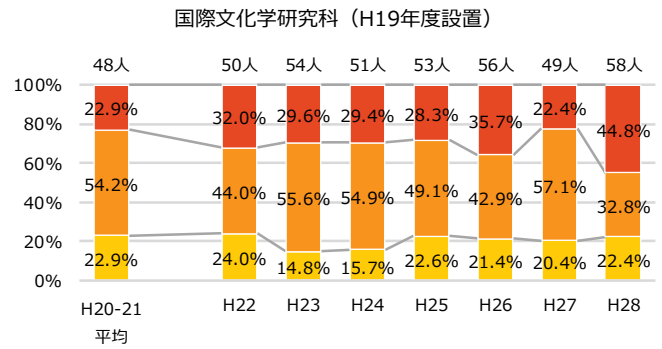
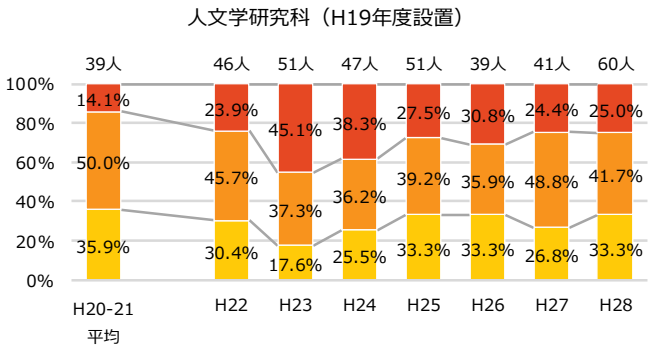
※小数第二位を四捨五入した数値を掲載しているため、合計が100%にならないものもある。

7-5 研究科修了生の進路・就職状況 — 研究科別 —

○ 修士・博士前期課程修了生については、文科系の研究科において進学率が比較的高く、学部卒業生とは異なる傾向がみられる。

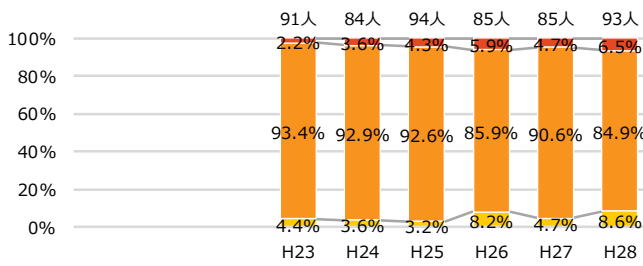
◆神戸大学◆ (修士・博士前期課程 修了年度)

■ 進学者 ■ 就職者 ■ その他

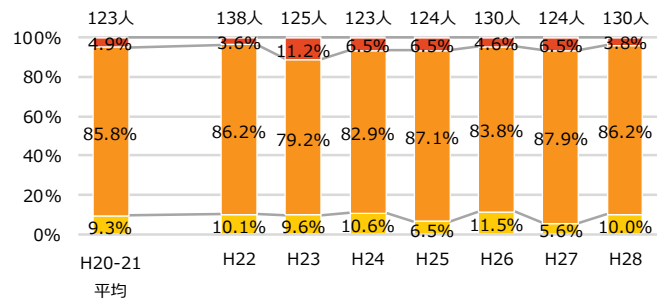


※保健学研究科の修了生には、医学系研究科保健学専攻(平成20年度入試より募集停止)の修了生を含む。

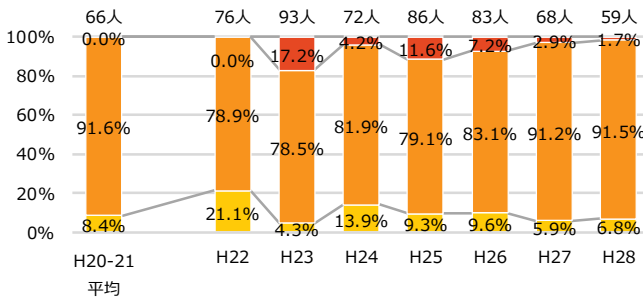
システム情報学研究科（H22年度設置）



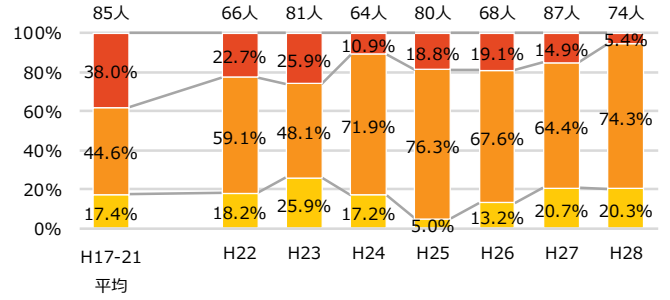
農学研究科（H19年度設置）



海事科学研究科（H19年度設置）



国際協力研究科

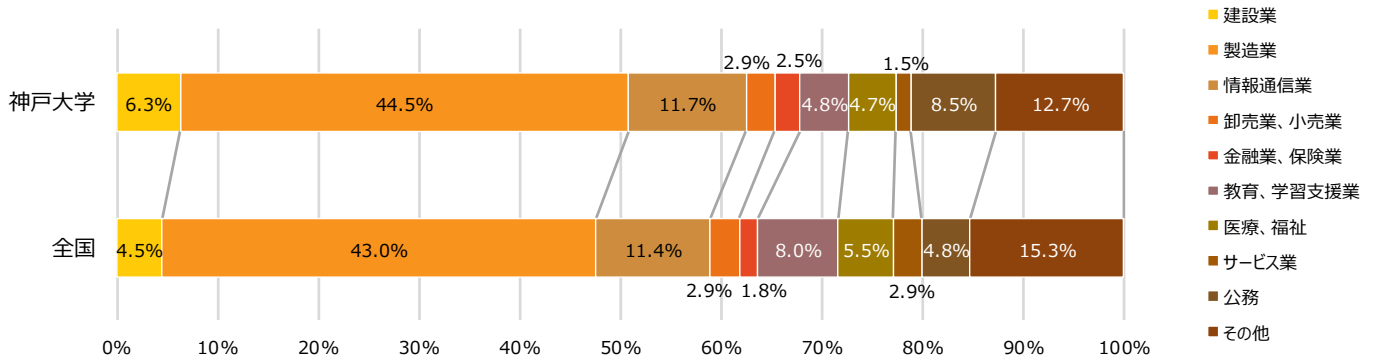


※「その他」には、公務員試験受験者、司法試験・公認会計士等の資格試験等受験者、専門学校入学者、海外語学研修生、研究生、帰国予定留学生等を含む。
 ※小数第二位を四捨五入した数値を掲載しているため、合計が100%にならないものもある。

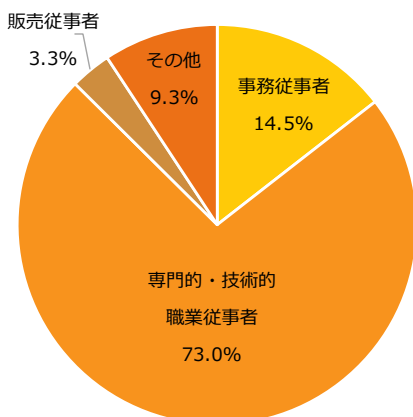
7-6 研究科修了生の産業別・職業別就職状況

○ 本学の修士・博士前期課程修了生の就職状況については、産業別、職業別ともに概ね全国における傾向と同様の傾向が見られる。

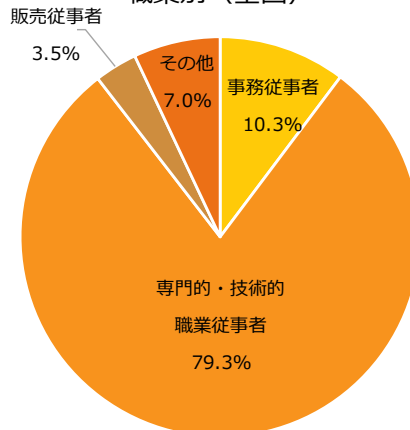
産業別就職状況



職業別（神戸大学）



職業別（全国）



出典：文部科学省 学校基本調査
 （H29年8月時点速報値（H28年度卒業生））

※小数第二位を四捨五入した数値を掲載しているため、合計が100%にならないものもある。

8. 資格試験合格状況

8-1 司法試験合格状況

○ 本学の司法試験合格状況について、毎年40人以上の合格者を安定して輩出していることがわかる。

【合格率推移（上位20大学）】

順位	平成25年度			平成26年度			平成27年度			平成28年度			平成29年度		
	大学名	合格率	合格者	大学名	合格率	合格者	大学名	合格率	合格者	大学名	合格率	合格者	大学名	合格率	合格者
1	慶應義塾大	56.8%	201	京都大	53.1%	130	一橋大	55.6%	79	一橋大	49.6%	63	京都大	50.0%	111
2	東京大	55.2%	197	東京大	52.0%	158	京都大	53.3%	128	東京大	48.1%	137	一橋大	49.6%	60
3	一橋大	54.5%	67	一橋大	47.1%	64	東京大	48.9%	149	京都大	47.3%	105	東京大	49.4%	134
4	京都大	52.4%	129	慶應義塾大	44.6%	150	神戸大	48.3%	72	慶應義塾大	44.3%	155	慶應義塾大	45.4%	144
5	愛知大	42.9%	12	大阪大	40.1%	55	慶應義塾大	45.5%	158	早稲田大	35.8%	152	大阪大	40.7%	66
6	首都大東京	40.6%	39	早稲田大	35.2%	172	愛知大	36.4%	8	神戸大	32.3%	41	神戸大	38.7%	55
7	中央大	40.0%	177	中央大	34.5%	164	中央大	35.8%	170	中央大	29.4%	136	愛知大	30.8%	4
8	早稲田大	38.4%	184	千葉大	31.0%	26	早稲田大	30.8%	145	九州大	28.8%	36	早稲田大	29.4%	102
9	千葉大	36.9%	24	神戸大	30.8%	44	大阪大	29.1%	48	大阪大	26.8%	42	首都大東京	27.0%	31
10	神戸大	36.8%	46	東北大	26.4%	42	北海道大	28.6%	42	愛知大	26.7%	4	中央大	26.2%	119
11	大阪大	36.4%	51	愛知大	25.9%	7	九州大	26.1%	40	名古屋大	25.0%	34	東北大	26.1%	18
12	北海道大	33.3%	50	創価大	25.7%	18	東北大	25.7%	35	東北大	24.0%	23	北海道大	24.6%	29
13	名古屋大	33.3%	40	北海道大	25.5%	41	名古屋大	25.0%	37	北海道大	23.4%	30	名古屋大	23.7%	28
14	大阪市立大	33.0%	35	首都大東京	22.9%	22	首都大東京	23.0%	26	広島大	20.3%	15	熊本大	20.0%	5
15	上智大	26.4%	46	九州大	22.8%	37	神奈川大	22.9%	8	千葉大	19.8%	17	鹿児島大	20.0%	3
16	創価大	25.0%	22	名古屋大	22.6%	30	大阪市立大	18.6%	22	首都大東京	19.5%	25	神戸学院大	20.0%	1
17	岡山県大	24.3%	17	上智大	19.6%	31	岡山県大	18.5%	12	創価大	19.4%	13	創価大	19.4%	13
18	九州大	24.1%	39	横浜国立大	19.4%	18	熊本大	18.4%	7	岡山県大	18.0%	11	琉球大	19.4%	6
19	東北大	22.5%	39	岡山県大	18.1%	13	創価大	17.9%	14	静岡大	16.7%	3	九州大	19.3%	17
20	同志社大	22.1%	42	大阪市立大	17.4%	19	同志社大	17.5%	33	神戸学院大	15.4%	2	関西学院大	18.4%	18

【既修者・合格率推移（上位20大学）】

順位	平成27年度			平成28年度			平成29年度		
	大学名	合格率	合格者	大学名	合格率	合格者	大学名	合格率	合格者
1	福岡大	100.0%	3	鹿児島大	100.0%	1	大阪法科大学院大	100.0%	1
2	京都大	69.8%	111	京都大	64.4%	96	福岡大	100.0%	1
3	東京大	64.2%	104	東京大	63.0%	104	東京大	68.7%	103
4	一橋大	63.0%	58	一橋大	61.7%	50	一橋大	65.0%	52
5	慶應義塾大	60.1%	128	慶應義塾大	58.8%	124	京都大	63.2%	96
6	神戸大	53.4%	55	創価大	56.3%	9	熊本大	60.0%	3
7	愛知大	50.0%	1	大阪法科大学院大	50.0%	1	慶應義塾大	58.6%	123
8	鹿児島大	50.0%	1	琉球大	50.0%	1	大阪大	53.1%	51
9	琉球大	50.0%	1	広島大	45.0%	9	金沢大	50.0%	4
10	中央大	43.0%	144	早稲田大	42.7%	103	岡山県大	50.0%	4
11	創価大	42.1%	8	名古屋大	41.0%	25	神奈川大	50.0%	1
12	早稲田大	40.2%	97	岡山県大	38.5%	5	関西学院大	50.0%	1
13	南山大	40.0%	2	九州大	37.5%	24	神戸大	45.0%	49
14	名古屋大	39.7%	25	神戸大	34.1%	29	早稲田大	35.5%	76
15	北海道大	37.1%	36	名城大	33.3%	3	東北大	34.9%	15
16	九州大	35.0%	28	静岡大	33.3%	1	創価大	33.3%	5
17	新潟大	33.3%	1	中央大	33.3%	1	名古屋大	32.1%	17
18	信州大	33.3%	1	大阪大	32.9%	28	北海道大	31.0%	22
19	中央大	33.3%	1	中央大	32.6%	108	首都大東京	30.9%	29
20	東北大	32.9%	28	北海道大	29.2%	21	中央大	29.5%	100

【未修者・合格率推移（上位20大学）】

順位	平成27年度			平成28年度			平成29年度		
	大学名	合格率	合格者	大学名	合格率	合格者	大学名	合格率	合格者
1	一橋大	42.0%	21	神戸大	28.6%	12	愛知大	36.4%	4
2	神戸大	37.0%	17	愛知大	28.6%	4	東京大	25.6%	31
3	愛知大	35.0%	7	一橋大	28.3%	13	神戸学院大	25.0%	1
4	東京大	31.5%	45	東京大	27.5%	33	大阪大	22.7%	15
5	大阪大	25.0%	19	早稲田大	26.8%	49	京都大	21.4%	15
6	慶應義塾大	22.4%	30	慶應義塾大	22.3%	31	琉球大	20.0%	6
7	神奈川大	21.4%	6	中央大	21.4%	28	鹿児島大	20.0%	3
8	京都大	21.0%	17	九州大	19.7%	12	慶應義塾大	19.6%	21
9	早稲田大	20.9%	48	大阪大	19.4%	14	早稲田大	19.5%	26
10	熊本大	20.0%	7	神戸学院大	16.7%	2	一橋大	19.5%	8
11	中央大	18.6%	26	北海道大	16.1%	9	神戸大	18.2%	6
12	広島修道大	17.8%	8	東北大	15.2%	5	名古屋大	16.9%	11
13	九州大	16.4%	12	金沢大	15.2%	5	中央大	16.4%	19
14	大阪市立大	16.4%	10	千葉大	14.3%	4	創価大	15.4%	8
15	岡山県大	16.0%	8	首都大東京	13.6%	3	千葉大	15.4%	4
16	白鷗大	15.8%	3	福岡大	13.3%	6	島根大	15.4%	2
17	首都大東京	15.4%	4	新潟大	13.3%	4	同志社大	15.2%	7
18	琉球大	15.2%	5	静岡大	13.3%	2	北海道大	14.9%	7
19	横浜国立大	14.8%	12	関西学院大	12.7%	9	大阪市立大	14.6%	6
20	広島大	14.3%	10	岡山県大	12.5%	6	大阪学院大	14.3%	2
	信州大	14.3%	6				愛知学院大	14.3%	1

出典：法務省ホームページ「司法試験の結果について」

※ このランキングは法科大学院卒業生のみを対象とし、予備試験合格者については含めていない。

8-2 各種資格試験・採用試験合格状況

○ 各種資格試験・採用試験において、安定して合格者を輩出している。

国家公務員総合職			弁理士			公認会計士			一級建築士		
順位	大学名	合格者	順位	大学名	合格者	順位	大学名	合格者	順位	大学名	合格者
1 (1)	東京大	433	1 (1)	東京大	37	1	慶應義塾大	139	1	日本大	180
2 (2)	京都大	183	2 (2)	京都大	29	2	中央大、早稲田大	96	2	東京理科大	123
3	早稲田大	133	3 (3)	東北大	16	4	明治大	72	3	芝浦工業大	90
4	慶應義塾大	98	4 (4)	東京工業大	15	5 (1)	東京大	36	4	早稲田大	81
5 (3)	東北大	85	5	東京理科大	12	6	同志社大	33	5	近畿大	69
6 (4)	大阪大	83	6 (5)	大阪大	9	7	立命館大	29	6 (1)	神戸大	65
7 (5)	北海道大	82	6	慶應義塾大、早稲田大	9	8	関西学院大、法政大	27	7 (2)	九州大	61
8 (6)	九州大	63	9	日本大	8	10 (2)	神戸大	26	7	工学院大	61
9	中央大	51	10 (6)	筑波大、名古屋大、北海道大	6				9	法政大	57
10 (7)	東京工業大	49	13 (9)	広島大	5				10	明治大	52
11 (8)	名古屋大	48	13	大阪府立大、関西大、中央大	5						
12	東京理科大	47	17 (10)	九州大、熊本大	4						
13 (9)	一橋大	43	17	芝浦工業大、上智大、明治大	4						
14 (10)	神戸大	40	22 (12)	静岡大、千葉大、電気通信大、横浜国立大	3						
			22	立教大	3						
			27 (16)	神戸大、その他12大学	2						
13.7 (9.3)	神戸大 過去三カ年平均	33.0	14.3 (9.3)	神戸大 過去三カ年平均	8.0	7.3 (1.0)	神戸大 過去三カ年平均	30.3	11.3 (2.3)	神戸大 過去三カ年平均	46.7

技術士			医師国家試験			看護師			保健師		
順位	大学名	合格者	順位	大学名	合格率	順位	大学名	合格者	順位	大学名	合格者
1 (1)	北海道大	150	1	和歌山県立医科大、自治医科大	99.1%	1	順天堂大[医療看護]	195	1	順天堂大[医療看護]	150
2 (2)	京都大	146	3	東京医科大	98.5%	2	聖隷クリストファー大	157	2	順天堂大[保健看護]	111
3 (3)	東京大	126	4	順天堂大、東京慈恵会医科大	98.2%	3	日本赤十字広島看護大	146	3	兵庫県立大	103
3	日本大	126	6	横浜市立大	97.8%	4	帝京大	141	4	自治医科大	101
5 (4)	九州大	105	7	日本大	97.5%	5	日本赤十字看護大	137	5	獨協医科大	97
6	早稲田大	102	8	福島県立医科大	97.2%	6	杏林大	132	6	北里大	96
7 (5)	東北大	89	9 (1)	千葉大	96.6%	7	広島国際大	128	7	日本赤十字秋田看護大	92
8 (6)	大阪大	86	10	札幌医科大	96.2%	8	日本赤十字豊田看護大	127	8 (1)	千葉大、新潟大	91
9 (7)	東京工業大	84	11 (2)	佐賀大	96.0%	9	広島化学学園大	125	8	新潟県立看護大	91
10	東京理科大	67	13 (3)	浜松医科大	95.8%	10	大阪府立大	124	11 (3)	金沢大	90
11 (8)	名古屋大	59									
12 (9)	名古屋工業大	58				94 (1)	新潟大	84	-	神戸大	4
13 (10)	神戸大、山口大	57									
			61 (34)	神戸大	89.6%	102 (2)	神戸大	83			
15.0 (11.0)	神戸大 過去三カ年平均	50.3	39.3 (19.0)	神戸大 過去三カ年平均	91.5%	104.7 (10.7)	神戸大 過去三カ年平均	77.3	100.0 (18.3)	神戸大 過去三カ年平均	76.3

臨床検査技師			作業療法士			理学療法士		
順位	大学名	合格者	順位	大学名	合格者	順位	大学名	合格者
1	熊本保健科学大	117	1	国際医療福祉大 [保健医療]	99	1	帝京科学大[医療科学]	108
2	藤田保健衛生大	101	2	帝京平成大[健康メディアカル]	72	2	国際医療福祉大 [保健医療]	101
3	北里大[医療衛生]	99	3	目白大	54	3	新潟医療福祉大	89
4	帝京大	92	4	健康科学大	53	4	北海道文教大	84
5	岐阜医療科学大	87	5	九州栄養福祉大、杏林大	51	5	健康科学大	83
6	杏林大	85	7	国際医療福祉大 [福岡保健医療]	50	6	藍野大	79
7	新潟医療福祉大	80	8	兵庫医療大	49	7	九州栄養福祉大	77
8	神戸常盤大[保健科学]	79	9	北里大、国際医療福祉大[小田原保健医療]	47	8	文教学院大	72
9	麻布大	62				9	目白大	70
10	文教学院大	60				10	金城大	68
14 (1)	熊本大	43						
15 (2)	信州大	41				66 (1)	広島大	27
16 (3)	岡山大、東北大、鳥取大、弘前大	40	34 (1)	広島大	33	72 (2)	群馬大	24
			44 (2)	金沢大	25	74 (3)	名古屋大	22
29 (11)	神戸大、東京医科歯科大	36	50 (3)	群馬大、名古屋大、弘前大	21	88 (12)	神戸大	13
			61 (11)	神戸大、京都大	16			
19.7 (5.7)	神戸大 過去三カ年平均	39.7	47.0 (5.3)	神戸大 過去三カ年平均	19.7	66.5 (3.0)	神戸大 過去二カ年平均	21.0

※保健師の合格者数について
保健師養成課程を学部から大学院に移したことに伴い、2016年度以降の本学における受験資格取得者は毎年5名程度となっているため、保健師の合格者数は過年度と比較して大幅に減少している。

※合格者数の単位：人
()内は国立大学内の順位

出典：朝日新聞出版
「大学ランキング2018年版」より作成。
(データは2016年の数値、過去三カ年平均値は2013～2015年の平均値)

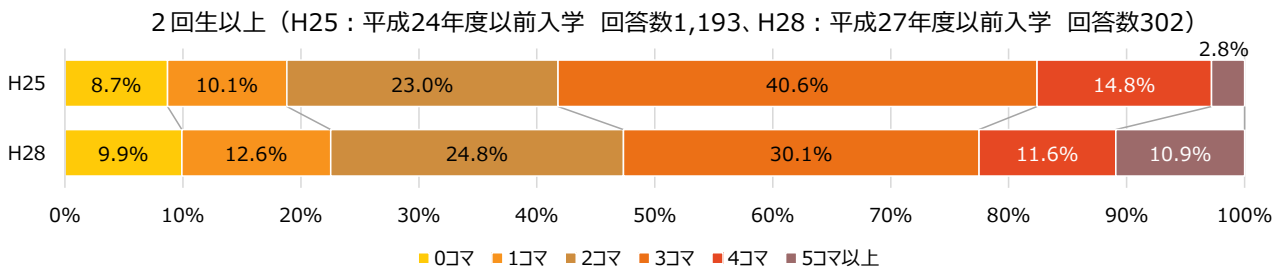
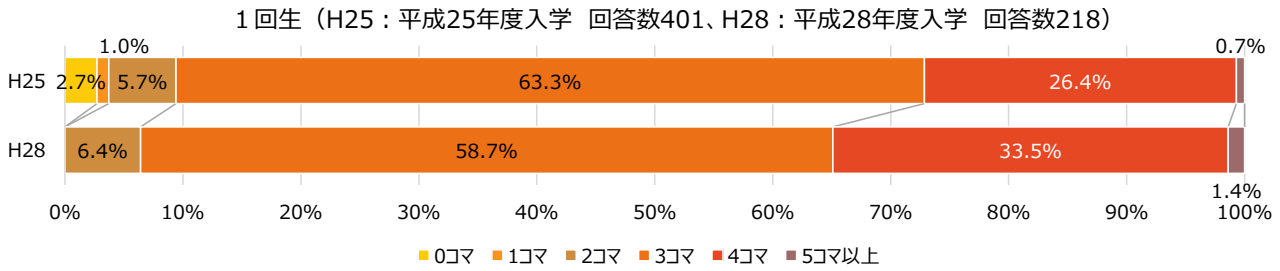
※ただし、理学療法士は2014年が圏外であったため、2013年、2015年の二カ年データの平均となっている。

9. 学生生活状況

9-1 学部学生の学修時間等について

◆学部学生の平日1日当たりの授業時間の推移（1コマ90分）

- 1回生においては、前回（平成25年度）調査時同様、「3コマ」あるいは「4コマ」と回答する学生が約9割を占めている。
- 2回生以上になると、「2コマ」以下と回答した学生の割合が大きくなる一方、今回（平成28年度）調査においては、「5コマ以上」と回答した学生の割合も1割ほど存在することから、学生による履修コマ数のばらつきが1回生以上に見られる。

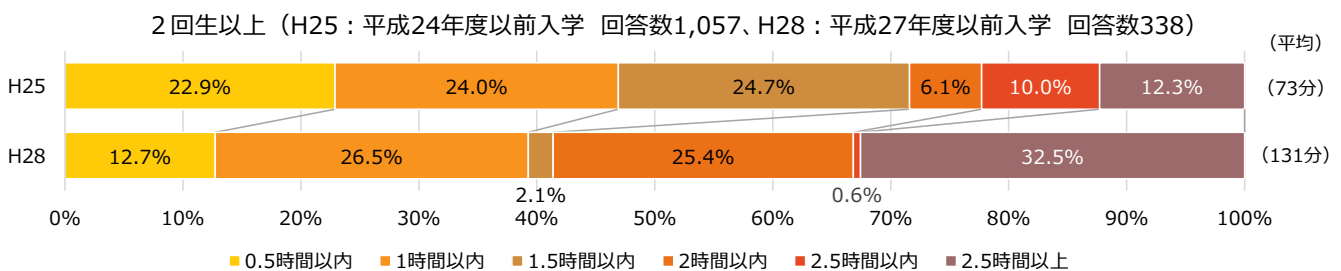
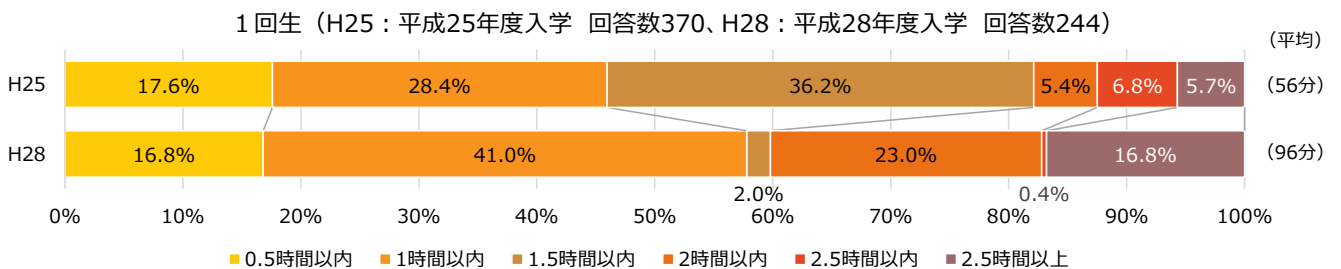


注：小数第二位を四捨五入した数値を掲載しているため、合計が100%にならないものもある。

出典：各年度神戸大学学生生活実態調査より作成

◆学部学生の平日1日当たりの自主学修時間の推移

- 1回生においては、前回調査時と比較して「2時間以内」、「2.5時間以内」及び「2.5時間以上」と回答した学生の合計、つまり「平日1日当たり1時間半以上自主学修を行う学生」の割合が増加し、平均自主学修時間は約1.7倍に増加した。
- 2回生以上においても同様の傾向が見られ、平均自主学修時間は3年で約1.8倍となった。また、1回生と比較すると、2回生以上の方がより自主学修時間が多い傾向にある。

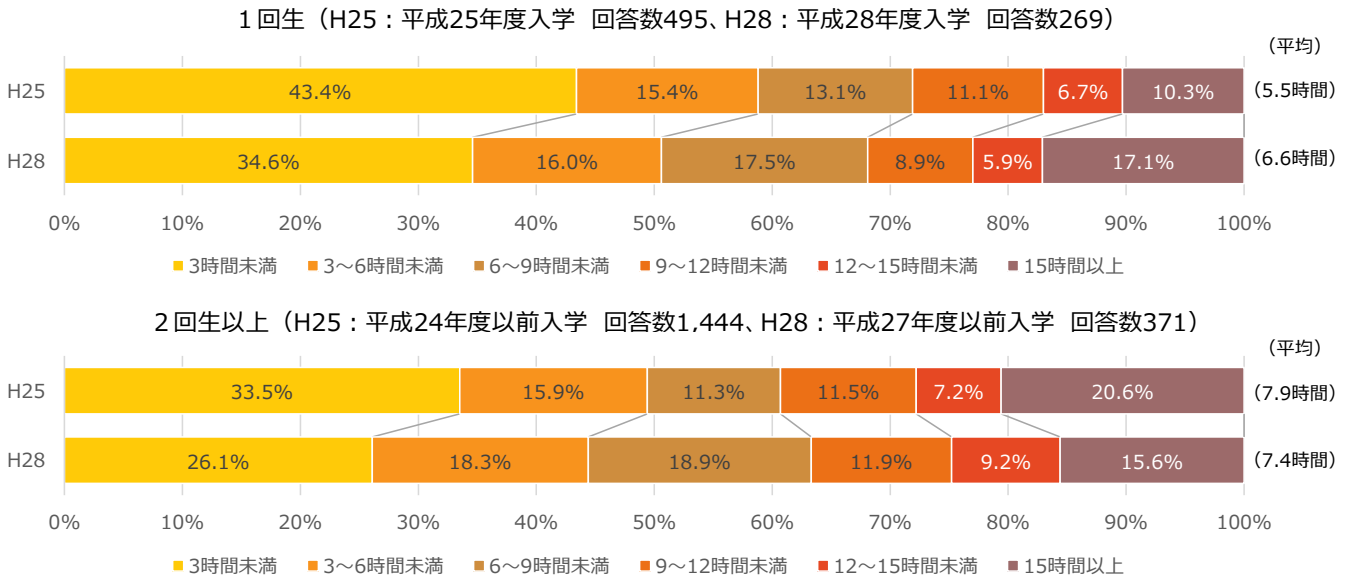


注：小数第二位を四捨五入した数値を掲載しているため、合計が100%にならないものもある。

出典：各年度神戸大学学生生活実態調査より作成

◆学部学生の1週間当たりの就業時間の推移

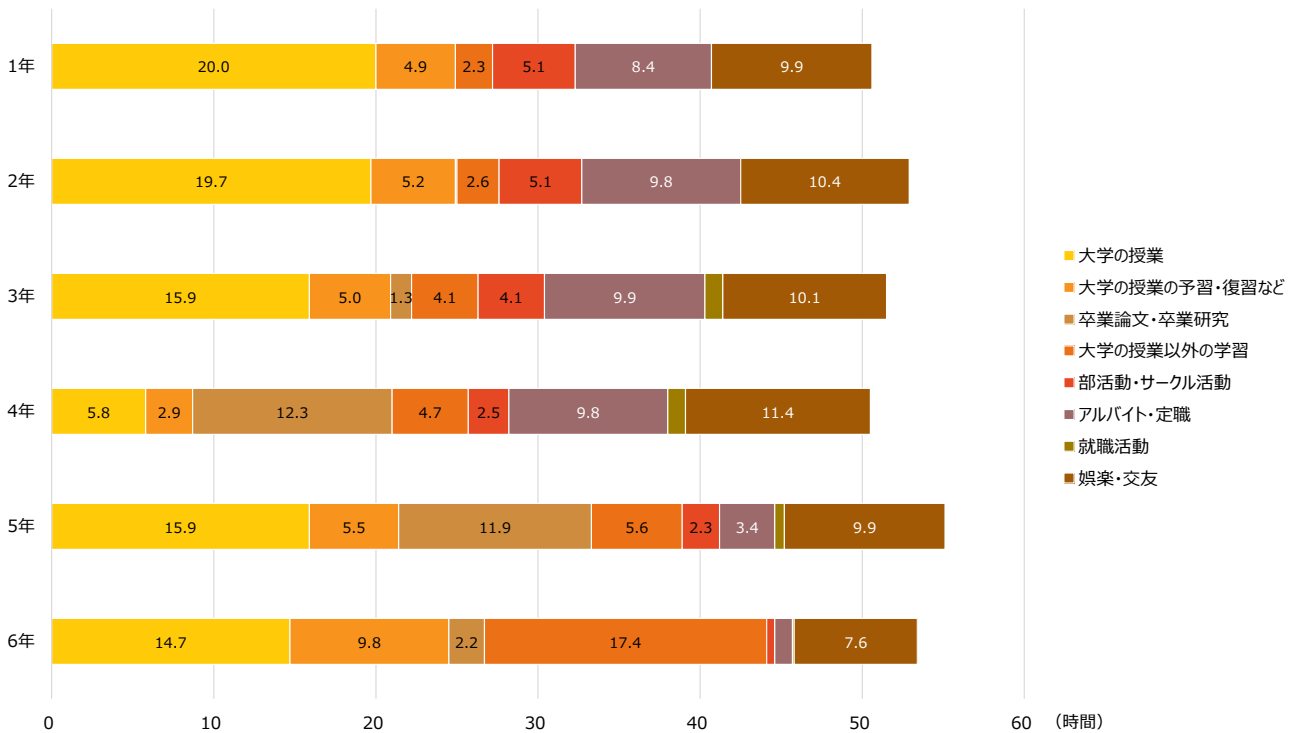
○ 1週間当たりの平均就業時間について、1回生は前回調査時から増加した一方、2回生以上は微減した。これにより、1回生と2回生以上の間の1週間当たりの就業時間の差は小さくなっている。



注: 小数第二位を四捨五入した数値を掲載しているため、合計が100%にならないものもある。

出典: 平成28年度神戸大学学生生活実態調査より作成

◆ (参考) 全国における学部学生の1週間当たりの学修時間等の現状



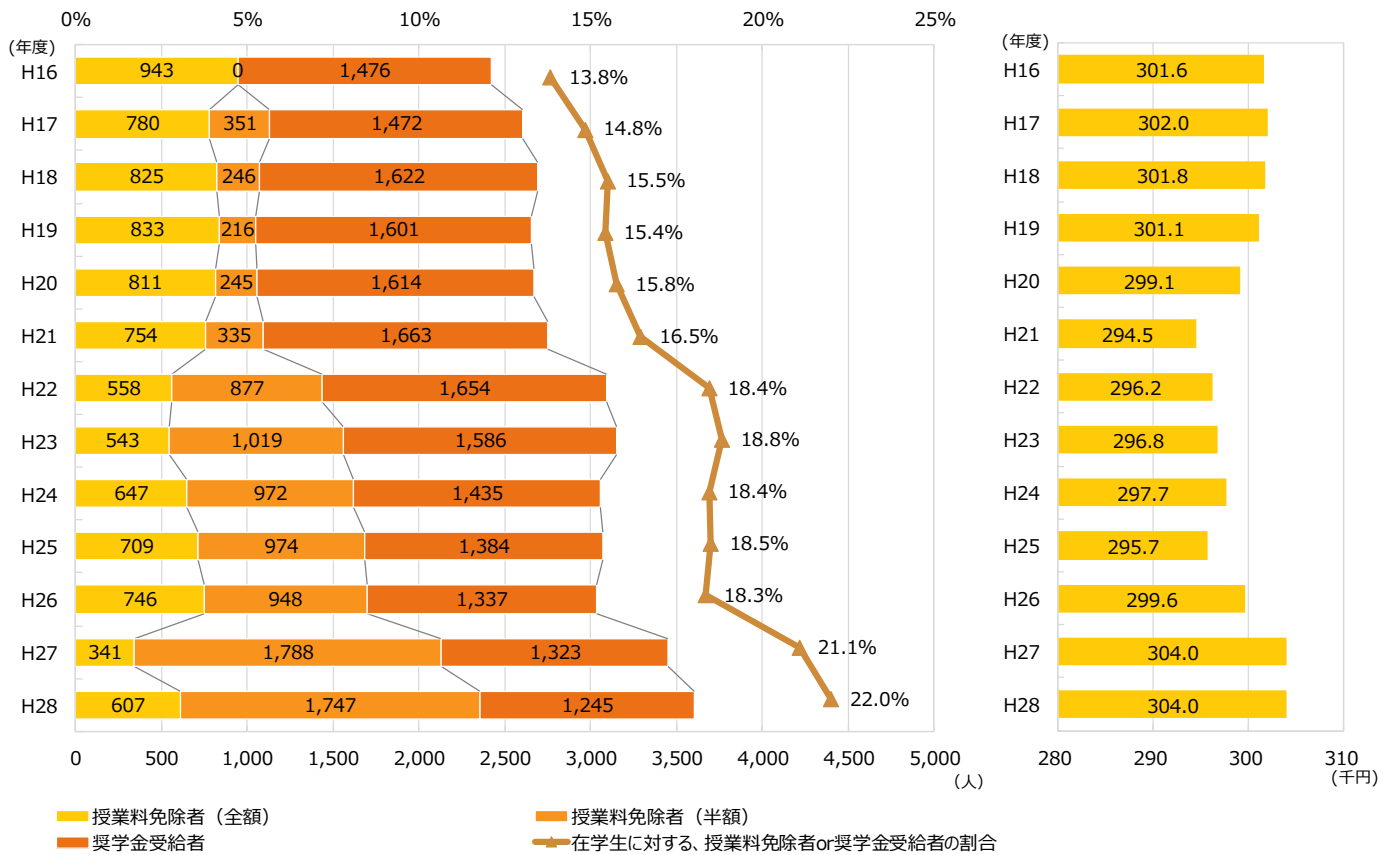
文部科学省 国立教育政策研究所「大学生の学習実態に関する調査研究について(概要)」2016年 (http://www.nier.go.jp/05_kenkyu_seika/seika_digest_h27a.html) に基づき本学作成

9-2 経済支援について

- 神戸大学では平成22年度より授業料の半額免除枠を拡大し、多くの学生の経済的支援を行っている。平成27年度には広報を見直し、ウェブサイトや入学者用の案内書類等で授業料免除制度を広く周知したことにより申請者数が大幅に増加、それに伴い半額免除者の割合を増やし、許可者数も増加した。
- 奨学金受給者は減少傾向にあるが、これは授業料免除枠が拡大したことによるものと考えられ、授業料免除もしくは奨学金受給のいずれかの経済的支援を受けている学生数、割合共に、全体としては増加している。
- 一般労働者の所定内給与額は近年回復傾向にあり、平成27年度及び平成28年度は過去12年で最高額となっている。一方、授業料免除もしくは奨学金を受給している学生の割合も過去最高の22.0%と、5人に一人は授業料免除もしくは奨学金を受給している状況にある。

授業料免除もしくは日本学生支援機構による奨学金を受給した学生数(延べ人数)及びその割合

所定内給与額の推移



※授業料免除者については、前期分のみ的人数を計上している。

出典(所定内給与額) : 厚生労働省「賃金構造基本統計調査」

10. 研究論文

10-1 インパクトの高い論文数分析による日本の研究機関ランキング

- 本学の2006年1月から2016年12月の約11年間における高被引用論文数は、国内で16位となっている。
- 総合で20位以内にランクインした国立大学は、すべて国立大学法人運営費交付金の支援枠の重点支援3（卓越した成果を創出している海外大学と伍して、全学的に世界で卓越した教育研究、社会実装を推進する大学）の枠組みであった。
- ただし、出典の「InCites™」は自然科学・生命医学系の学術論文を中心に収録しているデータベースであることに留意が必要である。（「10.研究論文」全体の項目について）

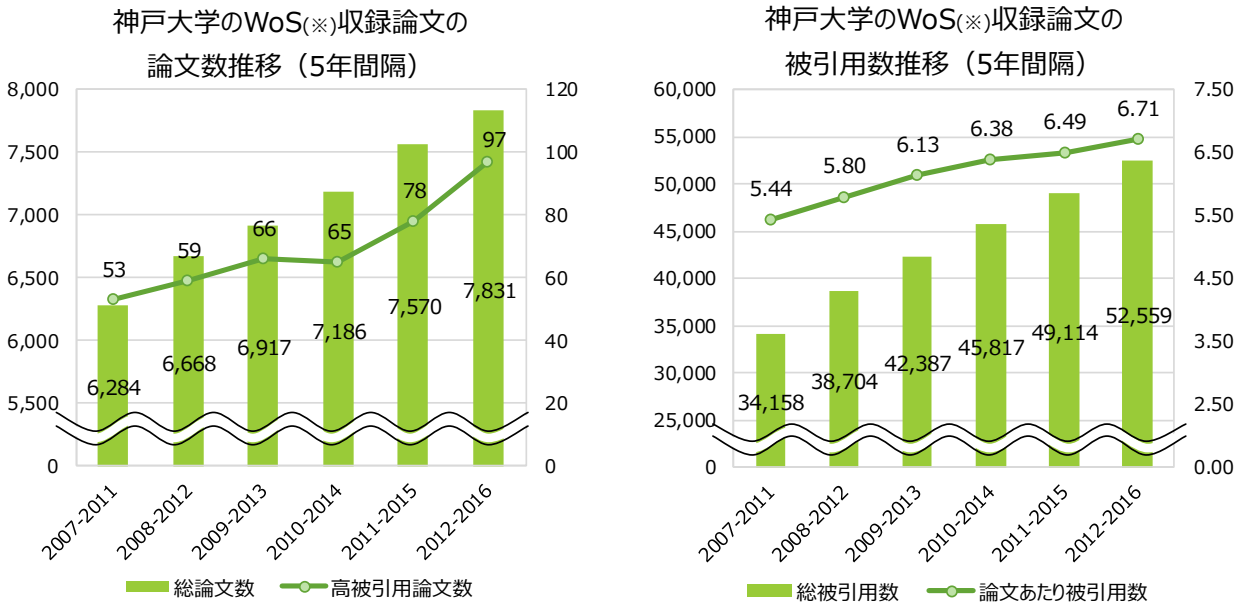
順位	機関名	高被引用論文数	当該大学の論文数に占める割合
1	東京大学	1,326	1.6%
2	京都大学	764	1.2%
3	国立研究開発法人 理化学研究所	623	2.4%
4	大阪大学	540	1.1%
5	東北大学	497	1.0%
6	名古屋大学	395	1.2%
7	国立研究開発法人 産業技術総合研究所	327	1.2%
8	九州大学	319	0.9%
9	東京工業大学	304	1.2%
10	国立研究開発法人 物質・材料研究機構	303	2.1%
11	筑波大学	252	1.2%
12	北海道大学	233	0.7%
13	岡山大学	186	1.2%
13	広島大学	186	1.0%
15	早稲田大学	165	1.4%
16	神戸大学	158	1.0%
17	慶應義塾大学	153	0.9%
18	大学共同利用機関法人 自然科学研究機構	148	1.2%
19	国立がん研究センター	133	2.1%
20	大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構	132	2.1%

出典：クラリベイト・アナリティクス社プレスリリース「インパクトの高い論文数分析による日本の研究機関ランキングを発表」より

※当データは、同社のデータベース「InCites™」に収録されている世界の研究機関情報から、同データベースの22研究分野において被引用数が上位1%の高被引用論文を集計し、ランキング化したものである。

10-2 論文の量と質についての比較 - 推移 -

○ 総論文数・高被引用論文数・総被引用数・論文あたり被引用数のすべてにおいて増加傾向にあり、特に近年の論文で高被引用論文が多くなっている。

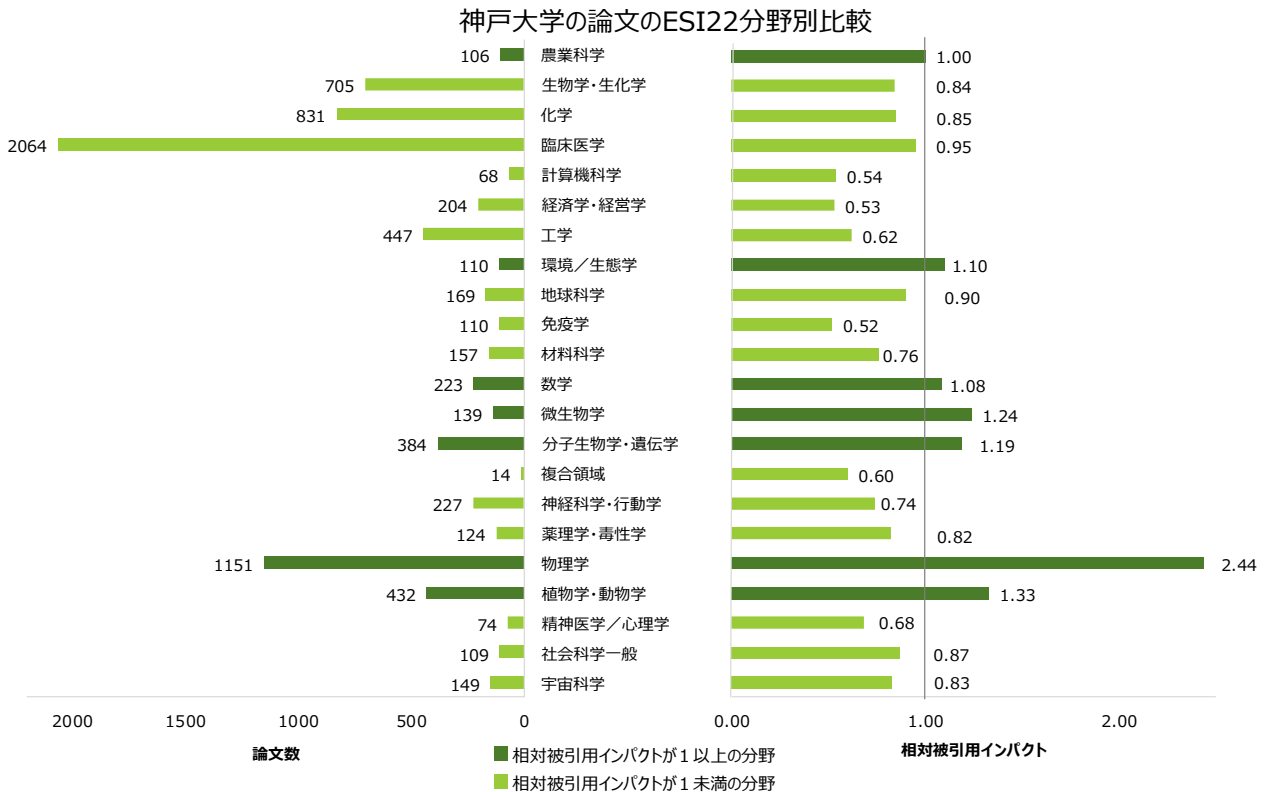


出典：「InCites™ Essential Science Indicators™」より

総論文数、高被引用論文数、総被引用数は5年間の累計値となる。なお、データは2017年8月21日現在の数値である。
※「WoS」=「Web of Science™」(クラリベイト・アナリティクス社が提供する学術文献データベース)の略。

10-3 論文の量と質についての比較 - ESI22分野別 -

○ InCites™を用いて、本学の研究をESI22分野別に比較した結果である。グラフ内の濃緑色に塗られた分野においては、相対被引用インパクトが世界平均1.0以上であり、質の高い研究が行われていることを示している。



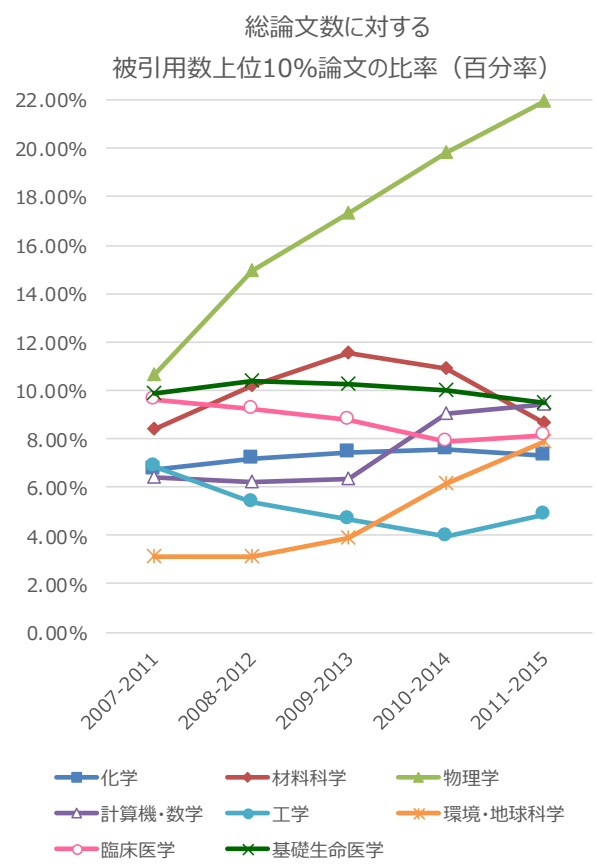
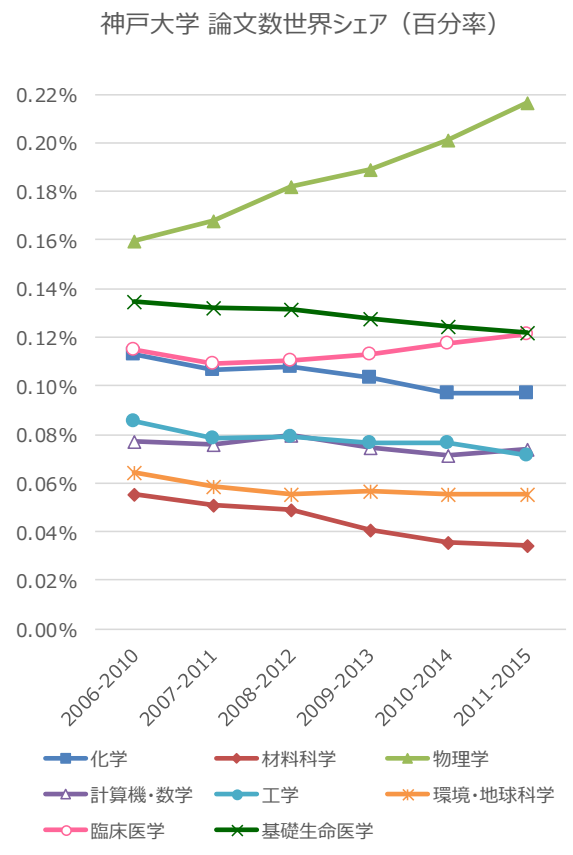
※2012年～2016年の論文において、「InCites™ Essential Science Indicators™」の22分野別でデータを分析。なお、データは2017年7月22日現在の数値である。

○相対被引用インパクト：各分野における1論文あたりの被引用数を世界平均1.0とした場合の相対的な割合を示す数値。

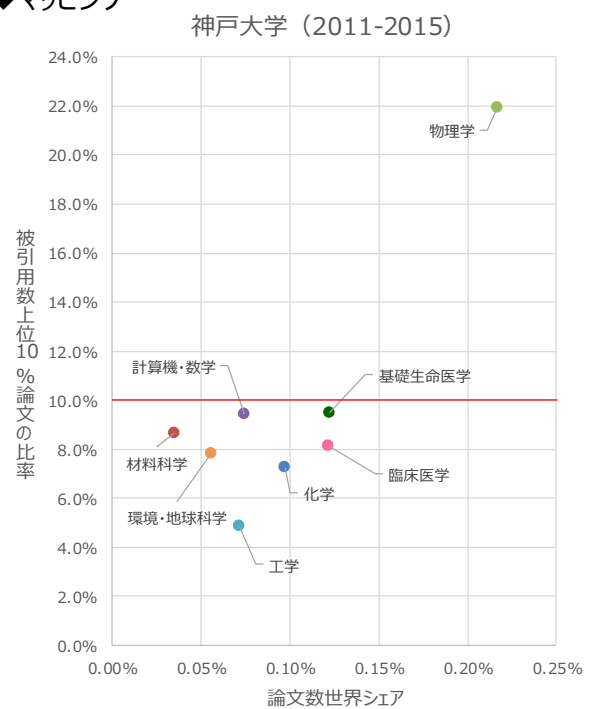
10-4 論文の量と質についての比較 - NS 8 分野別 -

○ 科学技術・学術政策研究所（NISTEP）が定義した研究ポートフォリオ8分野別に、本学の論文を分析した結果である。近年、物理学分野で大きな伸びを見せている。

◆ 推移（2007-2015年、5年間隔）



◆ マッピング

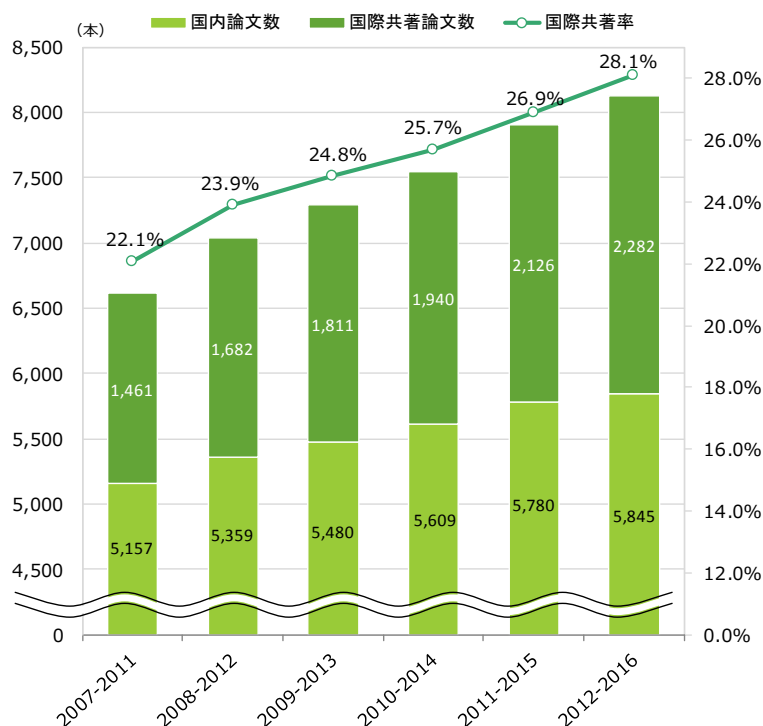


※「InCites™」により、4つのドキュメントタイプ（Article, Letter, Note, Review）の論文について、科学技術・学術政策研究所「研究論文に着目した日本の大学ベンチマーキング2015」において用いられていた「研究ポートフォリオ8分野（ESI22分野のうち19分野を再分類したもの）」別にデータを分析した。共著論文のカウント方法は整数カウント法である。また、本データは2017年7月22日現在の数値である。

10-5 論文の量と質についての比較 — 国際共著 —

○ 本学の国際共著論文数・国際共著率はともに増加傾向にある。分野別で見ると、物理学や天文学など広い分野で積極的に国際連携して研究を行っていることが分かる。

◆神戸大学の国際共著論文数の推移（5年毎の合計値）



◆神戸大学の国際共著論文の多い分野（2012-2016年の合計）

分野名 (Web of Science251分野)	国際共著論文数	国際共著率
PHYSICS, PARTICLES & FIELDS (物理学、粒子、界)	531	90.9%
ASTRONOMY & ASTROPHYSICS (天文学、宇宙物理学)	327	78.0%
PHYSICS, NUCLEAR (物理学、核)	137	89.0%
BIOCHEMISTRY & MOLECULAR BIOLOGY (生化学、分子生物学)	128	27.3%
PHYSICS, MULTIDISCIPLINARY (物理学、総合)	116	52.3%
BIOTECHNOLOGY & APPLIED MICROBIOLOGY (バイオテクノロジー、応用微生物学)	85	24.2%
CELL BIOLOGY (細胞生物学)	77	25.6%
PLANT SCIENCES (植物学)	65	26.3%
ECONOMICS (経済学)	61	27.0%
PHYSICS, APPLIED (物理学、応用)	57	19.9%
MATHEMATICS (数学)	51	29.3%
GENETICS & HEREDITY (遺伝学・遺伝)	50	28.4%
VIROLOGY (ウイルス学)	48	66.7%
MATERIALS SCIENCE, MULTIDISCIPLINARY (物質科学、総合)	47	19.1%
IMMUNOLOGY (免疫学)	40	33.3%

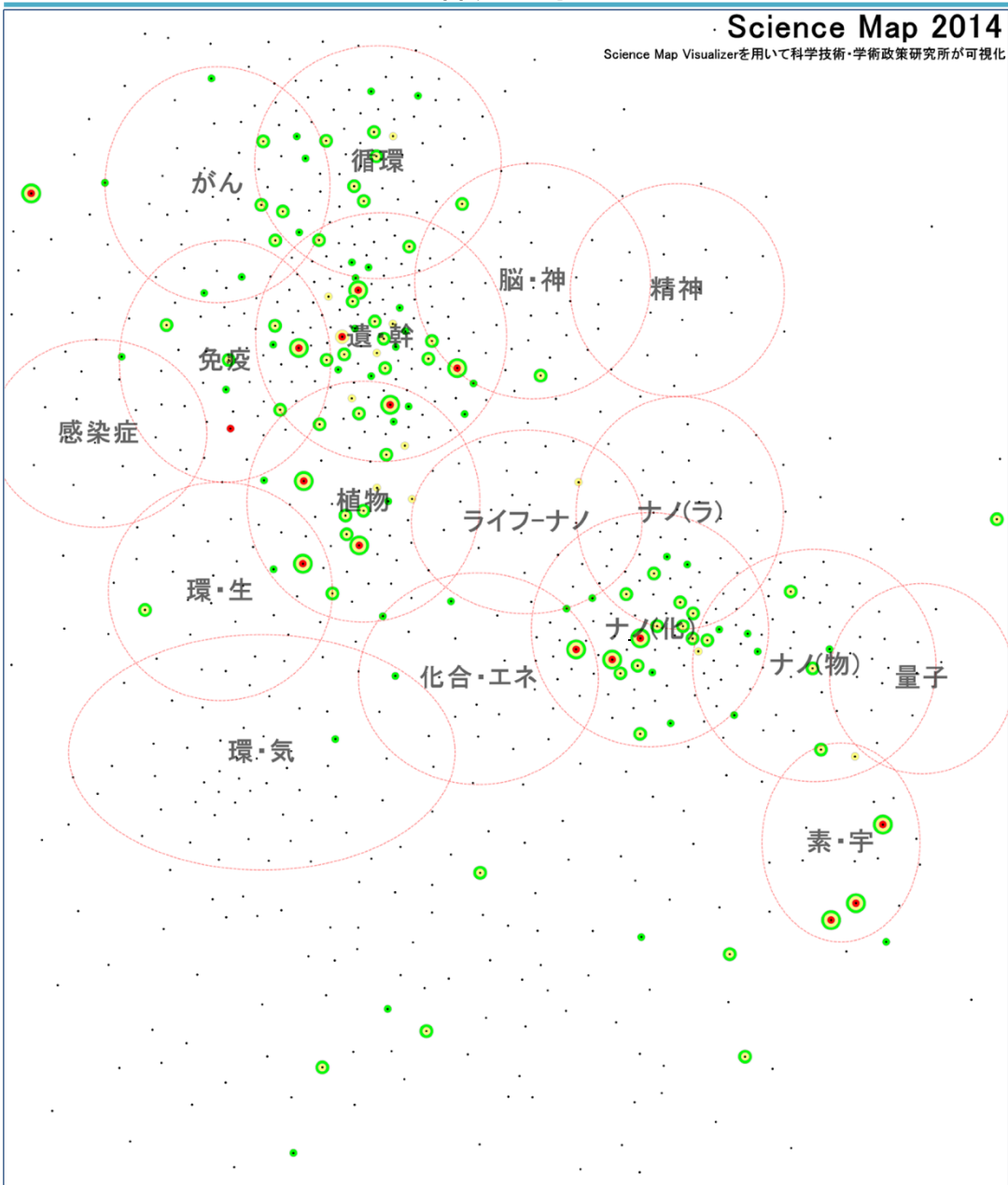
※「InCites™」より、4つのドキュメントタイプ (Article, Letter, Note, Review) の論文についてデータを分析した。また、本データは2017年7月22日現在の数値である。

10-6 サイエンスマップから見る本学の強みである研究領域

- NISTEP（科学技術・学術政策研究所）が2016年9月に公表した「サイエンスマップ2014」によると、神戸大学では遺伝子発現制御・幹細胞研究、植物・微生物研究、化学的アプローチによるナノサイエンス研究、素粒子・宇宙論研究の4分野を中心に、世界をリードする研究が行われていることがわかる。
- またペーパー数では、コアペーパーは伸び悩んでいるものの、サイティングペーパーは着実に増加している。

サイエンスマップとは？
論文データベース分析により国際的に注目を集めている研究領域を定量的に把握し、それらが、互いにどのような位置関係にあるのか、どのような発展を見せているのかを示した科学研究の地図。

神戸大学



- ◆研究領域群名
- 【がん】 がん研究
 - 【循環】 循環器疾患研究
 - 【感染症】 感染症・公衆衛生
 - 【免疫】 免疫研究（遺伝子発現制御を含む）
 - 【遺・幹】 遺伝子発現制御・幹細胞研究
 - 【脳・神】 脳・神経疾患研究
 - 【精神】 精神疾患研究
 - 【植物】 植物・微生物研究（遺伝子発現制御を含む）
 - 【環・生】 環境・生態系研究
 - 【環・気】 環境・気候変動研究（観測、モデル）
 - 【ライフ・ナノ】 生物メカニズムとナノレベル現象の交差（ライフ・ナノブリッジ）
 - 【化合・エネ】 化学合成研究・エネルギー創出
 - 【ナノ(ラ)】 ナノサイエンス研究（ライフサイエンス）
 - 【ナノ(化)】 ナノサイエンス研究（化学）
 - 【ナノ(物)】 ナノサイエンス研究（物理学）
 - 【量子】 量子物性科学
 - 【素・宇】 素粒子・宇宙論研究

- ◆用語
- 研究領域**
2009～2014年の6年間に発行された論文の中で、各年、ESI22分野の被引用数Top1%論文に対し、「共引用」を用いたグループ化を行うことにより得られた844の領域。
- コアペーパー**
各研究領域を構成しているTop1%論文。
- サイティングペーパー**
コアペーパーを引用している論文。

- 研究領域のコアペーパー、サイティングペーパー(Top10%)、サイティングペーパーに入っている場合
- 研究領域のコアペーパー、サイティングペーパー(Top10%)に入っている場合
- 研究領域のサイティングペーパー(Top10%)に1件入っている場合
- 研究領域のサイティングペーパーに入っている場合(2件以上)
- 参照していない場合

神戸大学	コアペーパー		サイティングペーパーのうちTop10%論文		サイティングペーパー	
	該当領域数	ペーパー数	該当領域数	ペーパー数	該当領域数	ペーパー数
サイエンスマップ2008	12	21	79	188	100	592
サイエンスマップ2010	26	33	100	207	118	642
サイエンスマップ2012	21	53	76	284	106	821
サイエンスマップ2014	16	41	79	278	114	926

出典：文部科学省 科学技術・学術政策研究所、サイエンスマップ2014、NISTEP REPORT No.169、2016年9月（サイエンスマップ2008、2010、2012については、NISTEP REPORT No.159、2014年7月より出典）

11. 科学研究費

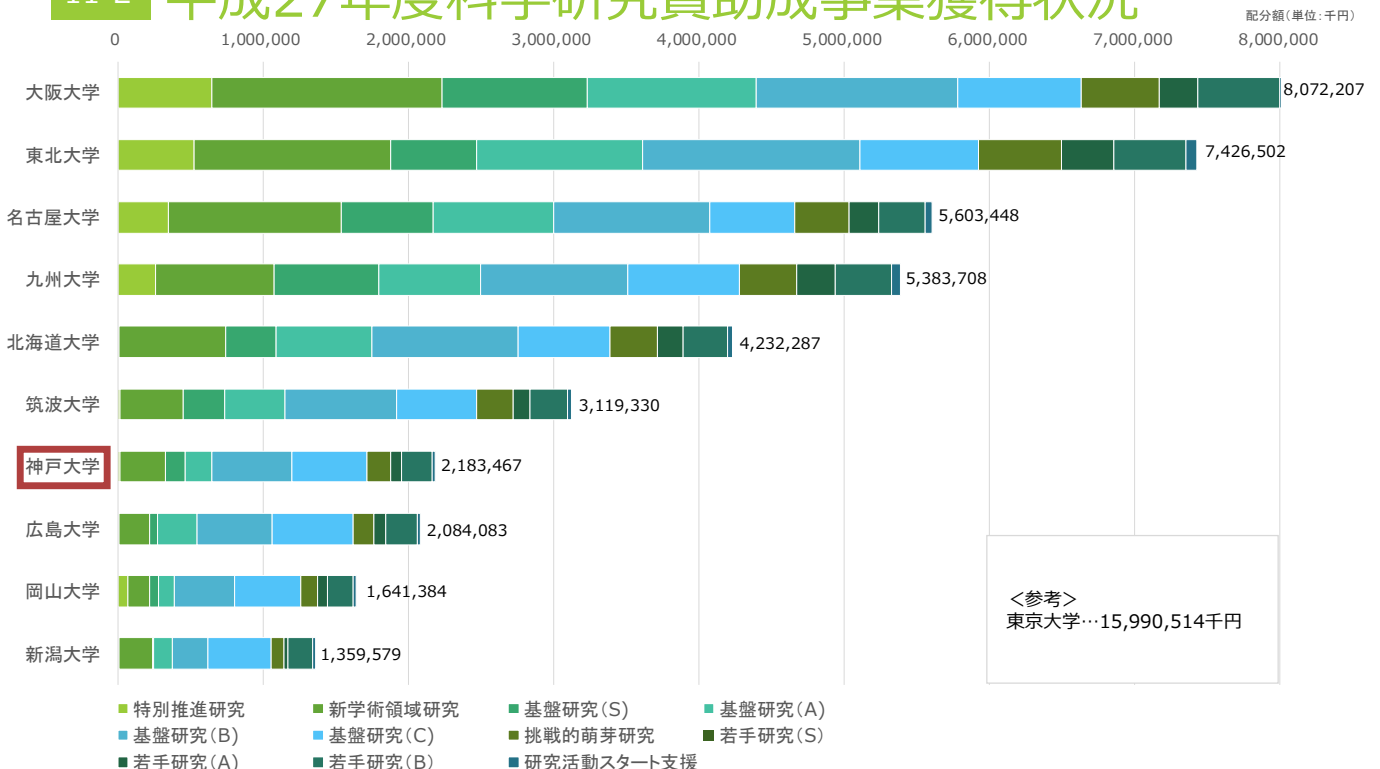
11-1 平成29年度科学研究費助成事業獲得状況

種 目	新規獲得件数	採択件数			新規採択率	配分額（新規+継続）		
		新規	継続	合計		直接経費（千円）	間接経費（千円）	合計（千円）
特別推進研究	1	0	0	0	-	0	0	0
	2	0	0	0	-	0	0	0
新学術領域研究	80	12	15	27	15.0%	221,400	66,420	287,820
	82	8	18	26	9.8%	241,600	72,480	314,080
基盤研究（S）	12	2	3	5	16.7%	126,900	38,070	164,970
	12	1	4	5	8.3%	129,300	38,790	168,090
基盤研究（A）	49	14	19	33	28.6%	281,400	84,420	365,820
	62	9	17	26	14.5%	202,590	60,600	263,190
基盤研究（B）	218	54	144	198	24.8%	675,100	202,530	877,630
	220	75	120	195	34.1%	679,207	202,470	881,677
基盤研究（C）	425	161	352	513	37.9%	515,300	154,590	669,890
	392	156	334	490	39.8%	535,400	160,633	696,033
挑戦的研究（開拓）	19	2	-	2	10.5%	9,600	2,880	12,480
	-	-	-	0	-	-	-	0
挑戦的研究（萌芽）	227	27	-	27	11.9%	124,500	37,350	161,850
	-	-	-	0	-	-	-	0
挑戦的萌芽研究	-	-	105	105	-	83,400	25,020	108,420
	257	60	101	161	23.3%	172,100	51,630	223,730
若手研究（A）	23	7	15	22	30.4%	90,000	27,000	117,000
	17	5	13	18	29.4%	79,520	23,490	103,010
若手研究（B）	246	77	135	212	31.3%	217,700	65,310	283,010
	279	84	131	215	30.1%	242,200	72,660	314,860
研究活動スタート支援	38	-	13	13	-	12,400	3,720	16,120
	34	12	7	19	35.3%	20,600	6,180	26,780
国際共同研究加速基金	-	-	20	20	-	141,700	42,510	184,210
	15	7	13	20	46.7%	124,800	37,440	162,240
合計	1,338	356	821	1,177	26.6%	2,499,400	749,820	3,249,220
	1,372	417	758	1,175	30.4%	2,427,317	726,373	3,153,690

○「国際共同研究加速基金」：平成27年度から公募が始まった新規研究種目である。
 ○「挑戦的研究（開拓）」、「挑戦的研究（萌芽）」：平成29年度から公募が始まった新規研究種目である。
 ※「挑戦的萌芽研究」は平成28年度限りで新規の公募を終了した。

上段：平成29年度採択状況（H29.7現在）
 下段：平成28年度採択状況（最終版）
 ※表中の件数欄の「-」は該当なし又は申請中を示す。

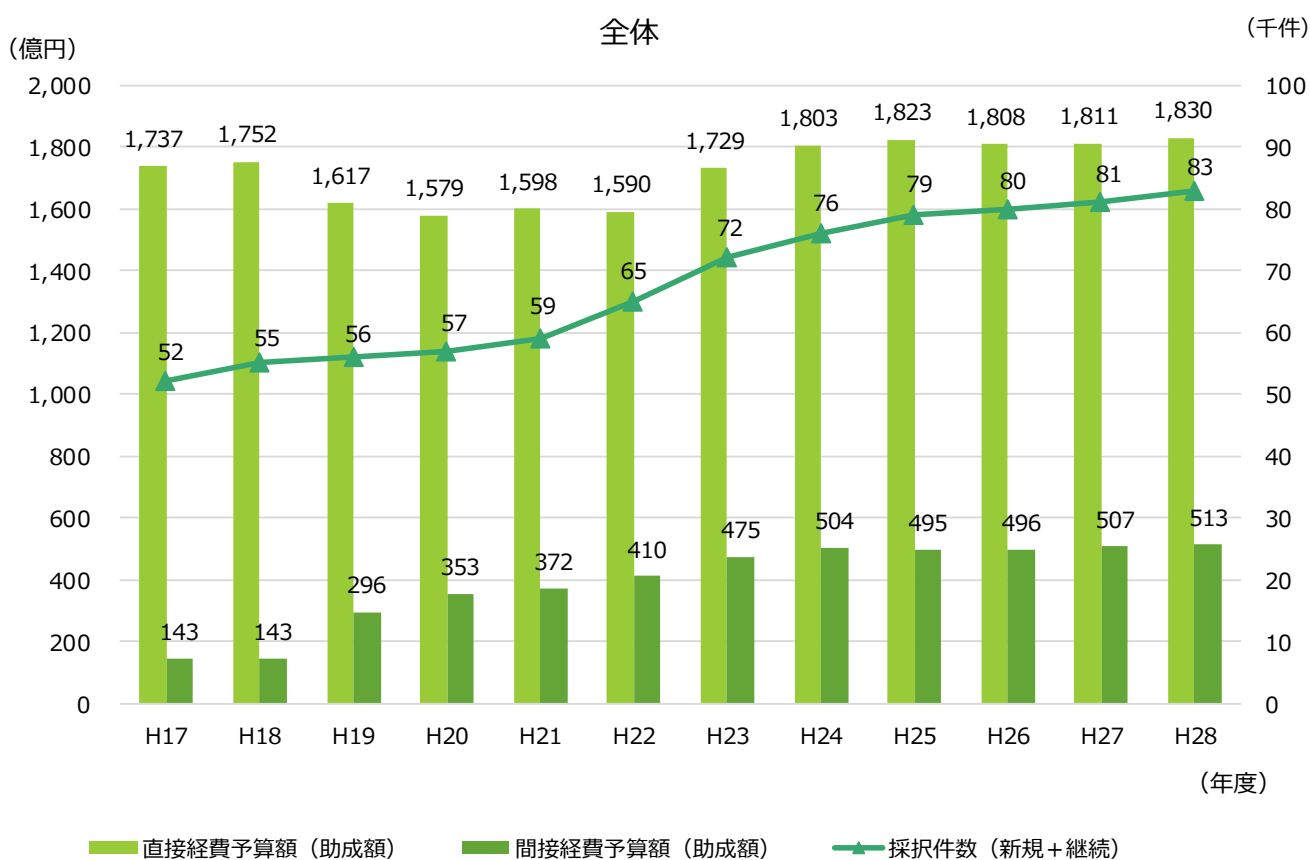
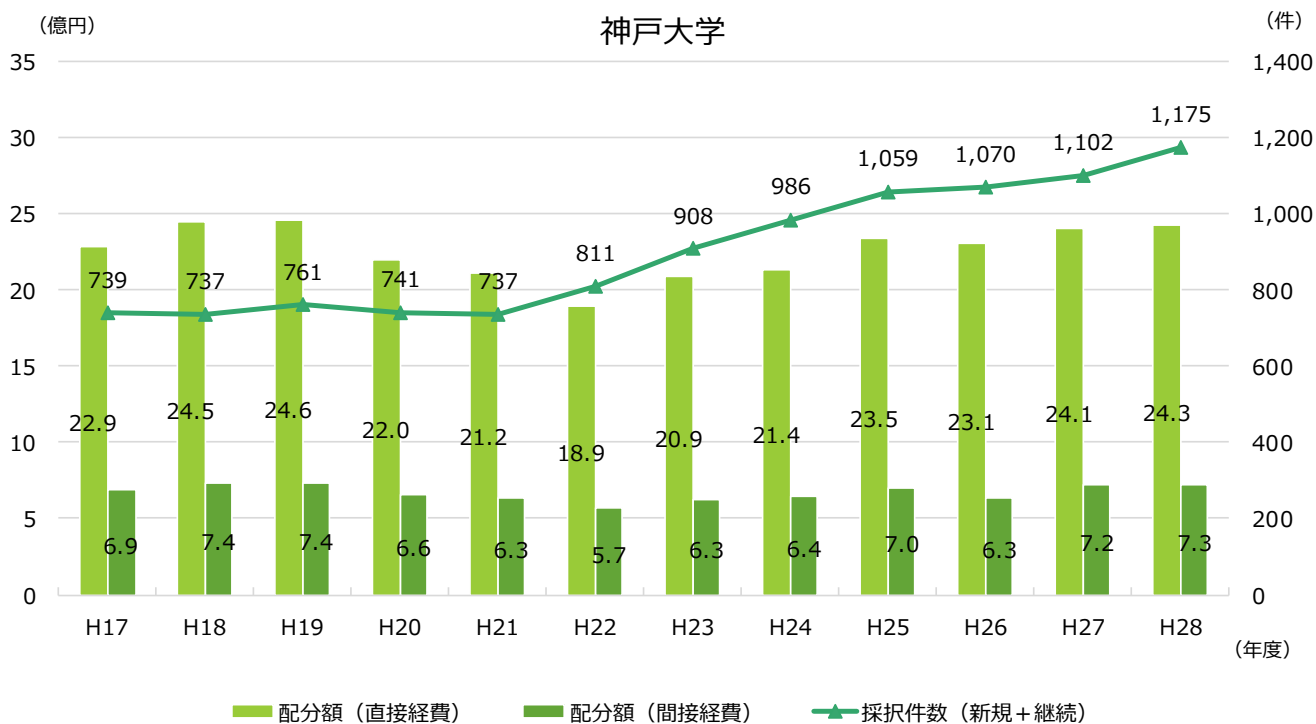
11-2 平成27年度科学研究費助成事業獲得状況



※学生収容定員1万人以上の国立大学法人を比較対象とし、各大学財務諸表（平成27年度版）の附属明細書より科学研究費の明細が示されているものを集計した。
 ※配分額は直接経費相当額のみを示している。

11-3 科学研究費助成事業採択状況 — 推移 —

○ 平成25年度以降、科学研究費助成事業全体の傾向として緩やかな伸びになっており、本学も類似した傾向にある。

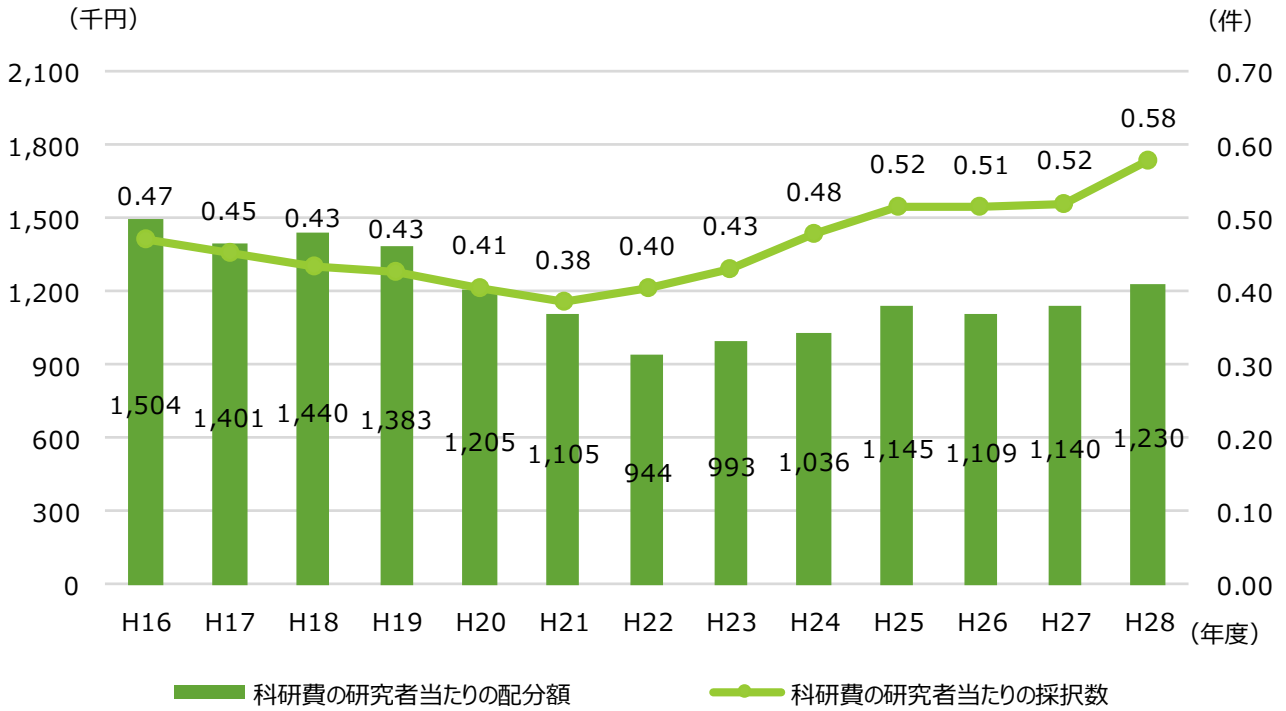


※H22までは、予算額=助成額、H23以降は助成額を記載。

出典：日本学術振興会ウェブサイトから作成。

11-4 科研費の研究者当たりの配分額・採択数 — 推移 —

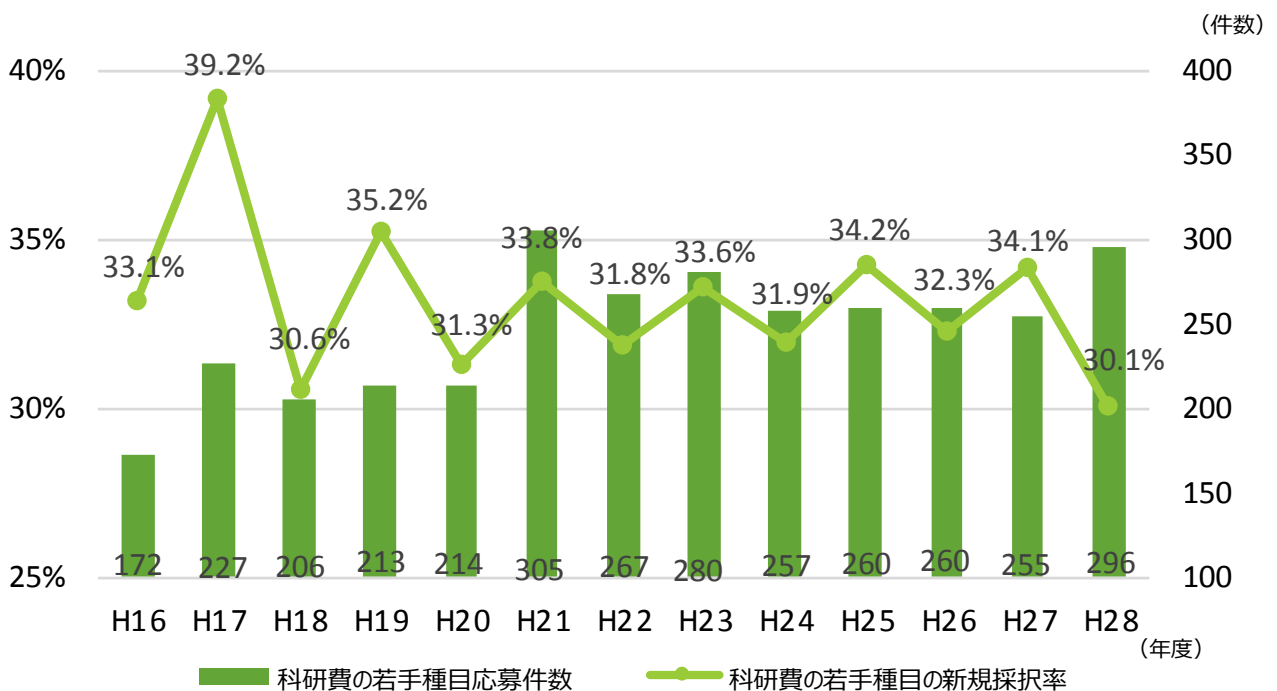
○ 科研費の研究者当たりの配分額及び採択数は平成21～22年度に底を打ち、緩やかな増加傾向後にやや停滞気味であったが、平成28年度の採択数は再び増加した。



※科研費の研究者当たりの配分額 = 採択額 (直接経費) / 科研費応募資格者
 ※科研費の研究者当たりの採択数 = 科研費採択件数 (新規+継続) / 科研費応募資格者

11-5 科研費若手種目の新規採択率と応募件数 — 推移 —

○ 平成28年度は、前年度と比べて科研費の若手種目の応募件数は増加したが、新規採択率は減少し、採択件数は前年度とほぼ同様であった。



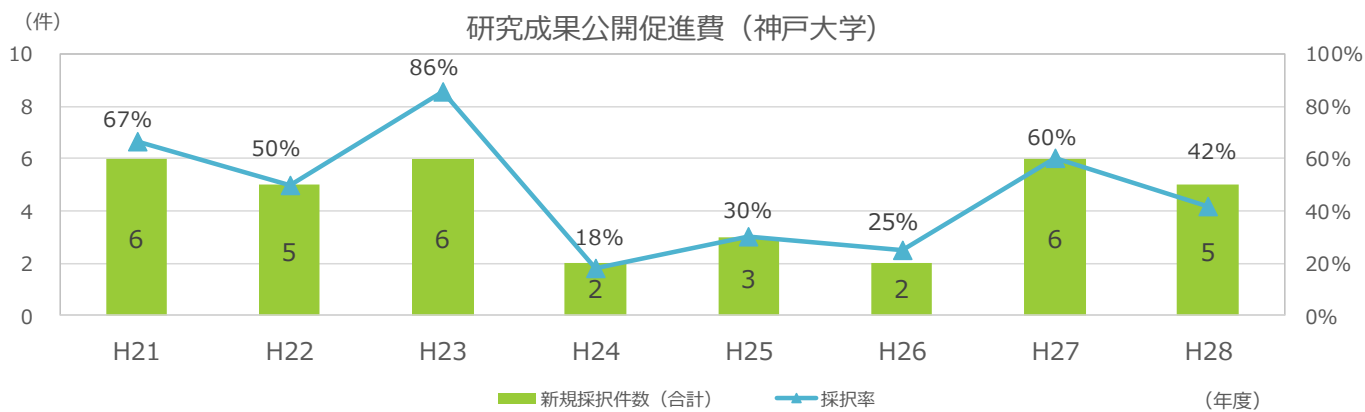
※科研費の若手種目の新規採択率 = 新規採択件数 (若手研究(A)+若手研究(B)) / 応募件数(若手研究(A)+若手研究(B))

11-6 研究成果公開促進費 — 推移 —

○ 研究成果公開促進費とは？

科学研究費助成金の種目で、研究成果の公開発表、重要な学術研究の成果の発信及び、データベースの作成・公開について助成することによって、我が国の学術の振興と普及に資するとともに、学術の国際交流に寄与することを目的とするものであり、優れた研究成果の公的流通の促進を図るものである。

- 平成28年度は、新規採択件数5件、採択率42%となっており、5件の内訳は学術図書3件、データベース2件となっている。



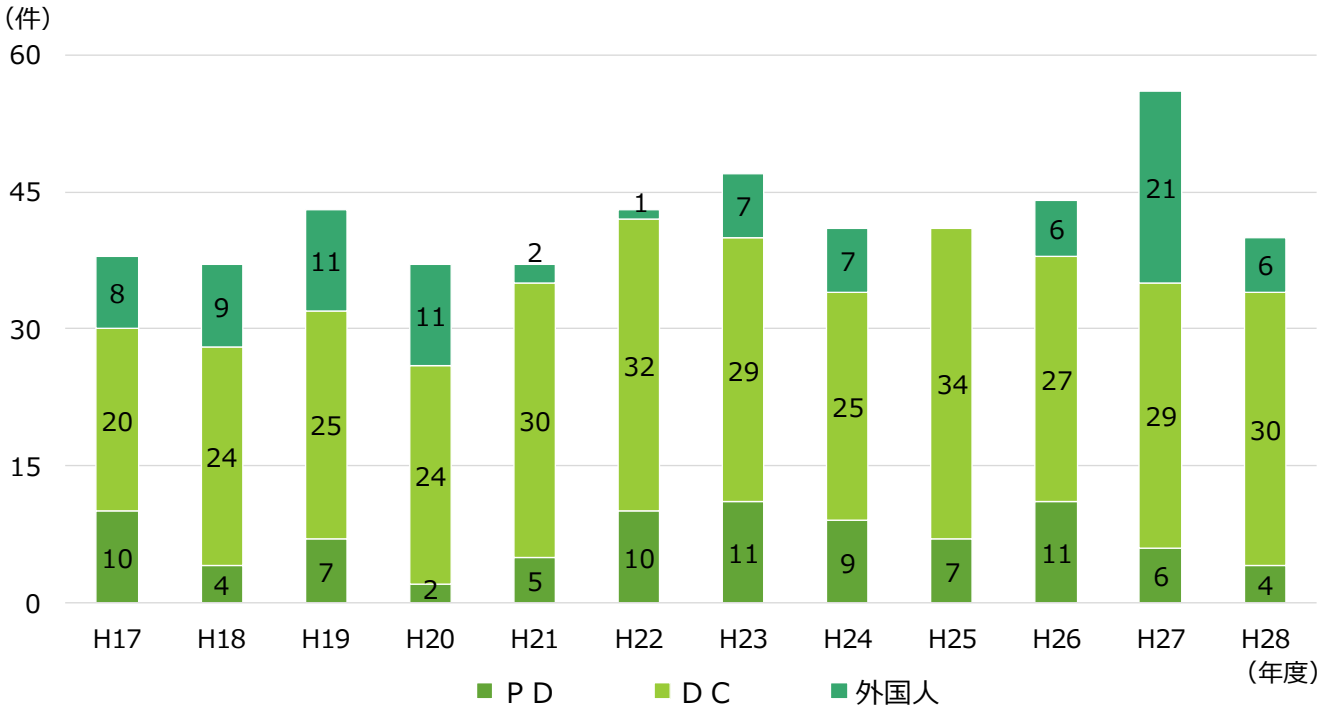
11-7 平成24-28年度科学研究費助成事業新規採択状況

分野	分科	細目数	細目別採択数上位10機関に本学がランクインしている細目名	
情報学	情報学基礎、計算基盤、 人間情報学、情報学フロンティア	5/24	(旧) 計算機システム・ネットワーク	情報セキュリティ
			ソフトウェア	ウェブ情報学・サービ情報学
			学習支援システム	
環境学	環境解析学、環境保全学、環境創成学	3/13	環境モニタリング・保全修復技術	自然共生システム
			環境政策・環境社会システム	
複合領域	デザイン学、生活科学、科学教育・教育工学、 科学社会学・科学技術史、文化財科学・博物館学、 地理学、社会・安全システム科学、 人間工学、健康・スポーツ科学、子ども学、 生体分子科学、脳科学	7/24	デザイン学	家政・生活学一般
			食生活学	科学教育
			科学社会学・科学技術史	医用システム
			医療技術評価学	
総合人文社会	地域研究、ジェンダー、観光学	1/3	地域研究	
人文学	哲学、芸術学、文学、言語学、 史学、人文地理学、文化人類学	10/26	宗教学	思想史
			美学・芸術諸学	英米・英語圏文学
			ヨーロッパ文学	外国語教育
			日本史	ヨーロッパ史・アフリカ史
			人文地理学	文化人類学・民俗学
社会科学	法学、政治学、経済学、経営学、 社会学、心理学、教育学	19/29	基礎法学	公法学
			国際法学	社会法学
			刑事法学	民事法学
			新領域法学	政治学
			国際関係論	理論経済学
			経済学説、経済思想	経済政策
			財政・公共経済	金融・ファイナンス
			経済史	経営学
			商学	会計学
			教育心理学	
総合理工	ナノ・マイクロ科学、応用物理学、 量子ビーム科学、計算科学	1/18	プラズマエレクトロニクス	
数物系科学	数学、天文学、物理学、 地球惑星学、プラズマ科学	3/20	数学基礎・応用数学	固体地球惑星物理学
			気象・海洋物理・陸水学	
化学	基礎化学、複合化学、材料化学	2/14	物理化学	グリーン・環境化学
工学	機械工学、電気電子工学、 土木工学、建築学、材料工学、 プロセス・化学工学、総合工学	12/39	機械材料・材料力学	地盤工学
			水工学	土木計画学・交通工学
			建築構造・材料	建築環境・設備
			都市計画・建築計画	建築史・意匠
			化工物性・移動操作・単位操作	触媒・資源化学プロセス
			生物機能・バイオプロセス	船舶海洋工学
総合生物	神経科学、実験動物学、腫瘍学、 ゲノム科学、生物資源保全学	2/14	(旧)応用ゲノム化学	システムゲノム科学
生物学	生物科学、基礎生物学、人類学	4/15	機能生物化学	生物多様性・分類
			生態・環境	応用人類学
農学	生産環境農学、農芸化学、森林園科学、 水圏応用科学、社会経済農学、 農業工学、動物生命科学、境界農学	13/34	作物生産科学	園芸科学
			(旧) 植物病理学	植物保護科学
			生物有機化学	(旧) 水産化学
			(旧) 農業経済学	(旧) 農業土木学・農村計画学
			経営・経済農学	地域環境工学・計画学
			農業環境・情報工学	(旧) 畜産学・草地学
			動物生産科学	
医歯薬学	薬学、基礎医学、境界医学、社会医学、 内科系臨床医学、外科系臨床医学、 薬学、看護学	12/78	薬理学一般	医化学一般
			病態医学	人類遺伝学
			ウイルス学	代謝学
			内分泌学	小児科学
			放射線科学	整形外科学
			生涯発達看護学	地域看護学

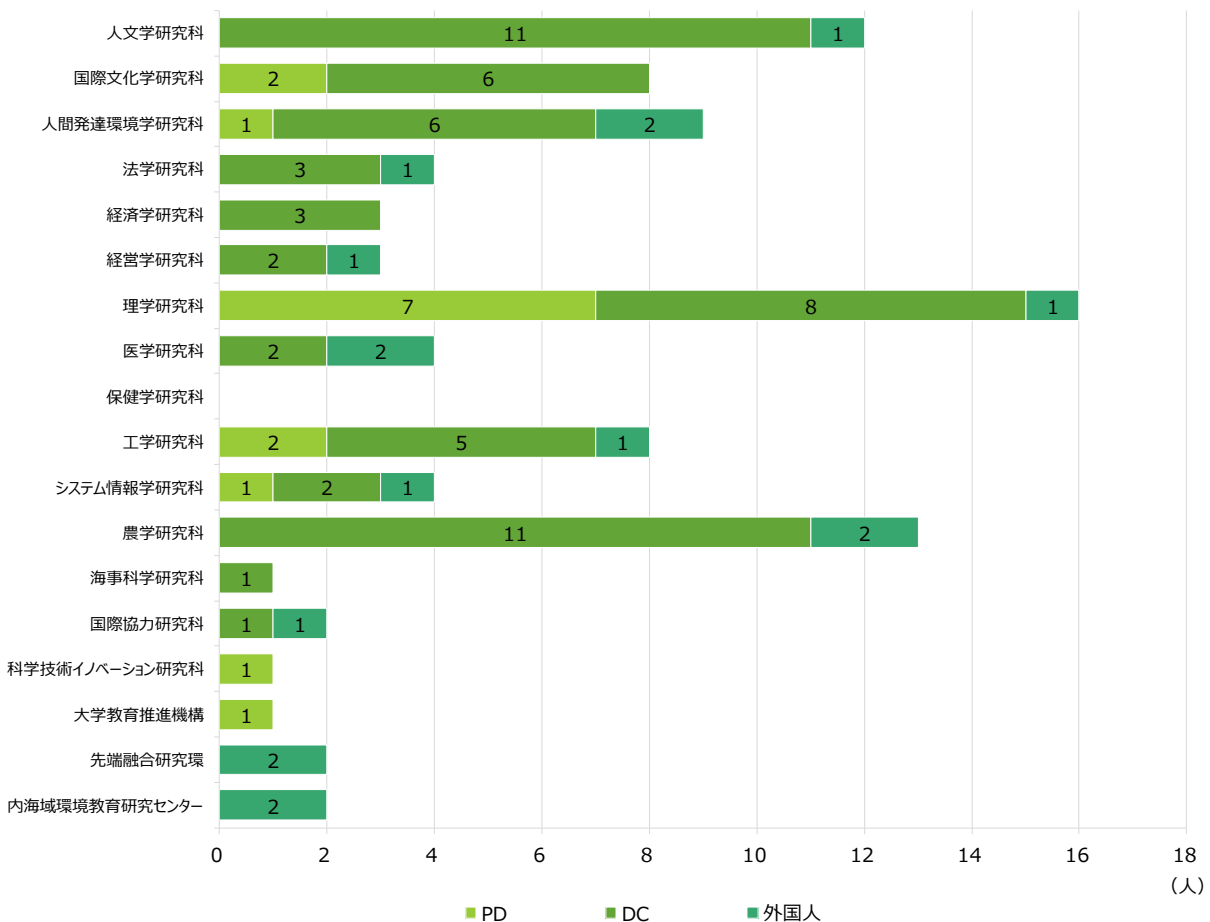
出典：「平成28年度科学研究費助成事業の配分について」から作成
平成24年度から平成28年度までの各年度の科学研究費(新規採択分)のうち、「基盤研究(A)(B)(C)」(特設分野研究は除く)、「挑戦的萌芽研究」、
「若手研究(A)(B)」、「研究活動スタート支援」の研究課題について、集計・分類したもののうち、本学は細目別採択数上位10機関にランクインしているものを集計した。

12. 日本学術振興会特別研究員

12-1 全学の受入れ状況 — 新規 —



12-2 研究科別受入れ状況 — 在籍者 —



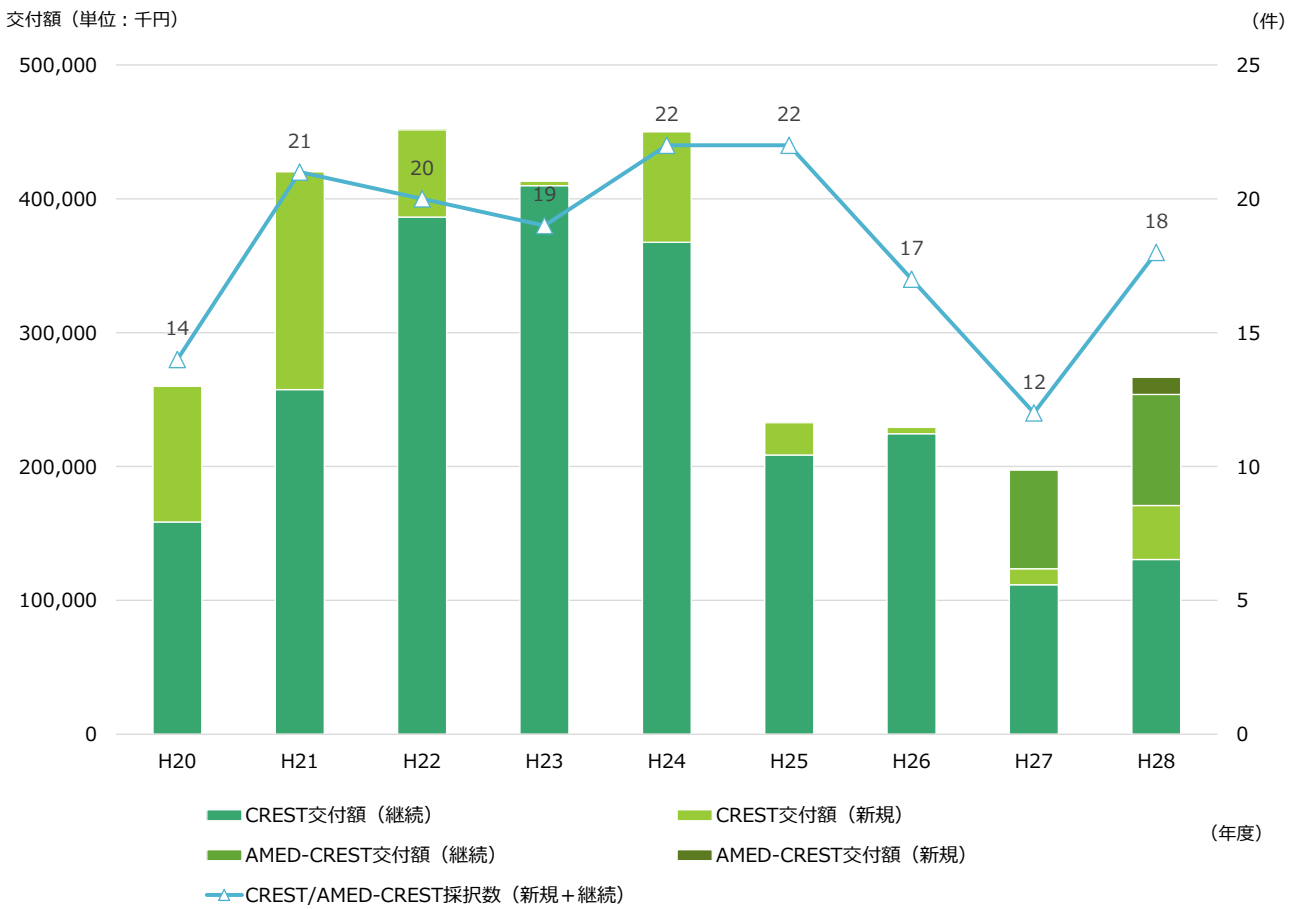
※平成28年度内に在籍した者を集計。

PD : 博士の学位を取得後5年未満の日本学術振興会特別研究員
 DC : 博士課程に在籍中の日本学術振興会特別研究員
 外国人 : 博士の学位を取得前後の外国人日本学術振興会特別研究員

13. 研究プログラムの採択状況

13-1 戦略的創造研究推進事業（CREST）、革新的先端研究開発支援事業（AMED-CREST）

- 「CREST」：国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）による、国が定める戦略目標の達成に向けて、課題型基礎研究を推進し、科学技術イノベーションを生み出す革新的技術シーズを創出するためのチーム型研究プログラム。
- 「AMED-CREST」：国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）による、画期的シーズの創出に向けて国際的に高い水準の成果を目指すユニット型研究プログラム。
- 採択件数については、平成21年度以降20件前後を保っており、一旦落ち込んだものの平成28年度は再び同程度となった。



※グラフの「交付額」及び「採択数」には、分担研究分も含む。
 ※平成26年度以前のCRESTには、AMED設立に伴い、平成27年度以降AMED-CRESTへ承継された課題を含む。

CREST/AMED-CREST 継続中のプログラム一覧 (代表研究のみ)

プログラム名・取組名		実施担当部局
CREST	分極制御非鉛圧電薄膜による高効率MEMS振動発電素子の創製	工学研究科
	放牧牛のインタラクション分析による革新的飼養管理技術の開発	システム情報学研究科
	活性酸素生成抑制システムの非破壊評価系の確立とフィールドへの応用～危機早期診断システムの構築～	農学研究科
AMED-CREST	包括的メタボミクス・ターゲットプロテオミクスによるがん診断・薬効診断マーカー探索と革新的統合臨床診断ネットワーク構築	医学研究科
	機械受容応答を支える膜・糖鎖環境の解明と筋疾患治療への展開	医学研究科

13-2 戦略的創造研究推進事業（さきがけ）、革新的先端研究開発支援事業（PRIME）

- 「さきがけ」：国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）による、戦略目標に基づいて未来のイノベーションの芽を育む個人型研究プログラム。
- 「PRIME」：国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）による、画期的シーズの源泉となる成果の創出を目指す個人型研究プログラム。
- 採択件数については、平成28年度には新規と継続プログラムを合わせて9件と、2年連続で過去最多となった。



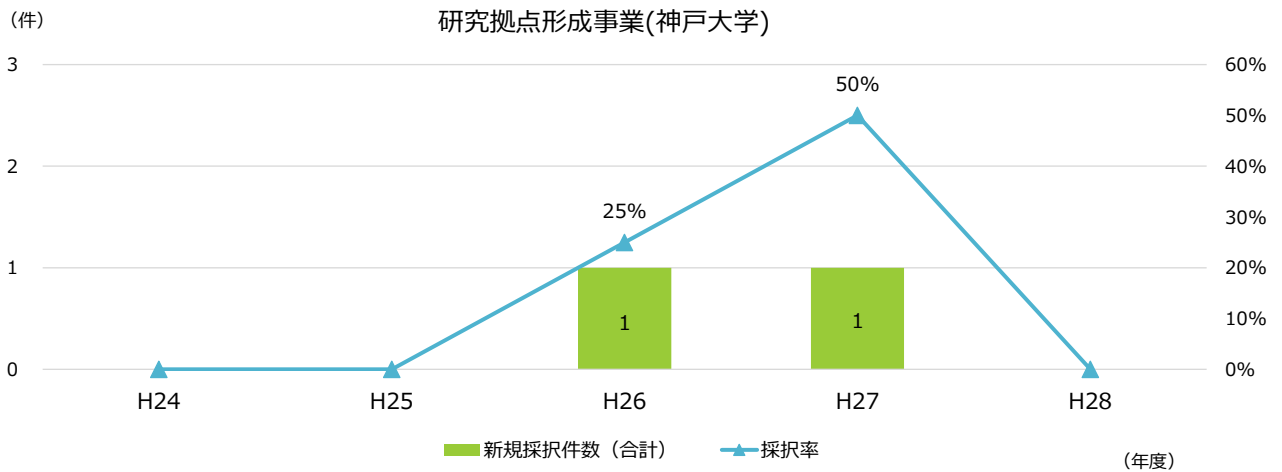
さきがけ/PRIME 継続中のプログラム一覧

プログラム名・取組名		実施担当部局
さきがけ	ナノ粒子の高次空間制御による高効率光エネルギー変換系の創製	理学研究科
	身体疾患で惹起される免疫変容が起こす神経回路恒常性の破綻と精神症状の解明	医学研究科
	「提示系心理情報学」確立のためのウェアラブルシステムプラットフォーム	工学研究科
	マグネシウムイオンを用いた電気化学デバイス創成のための電極/電解質界面設計	工学研究科
	革新的分子励起状態理論を基盤とする有機材料高次機能の制御設計	システム情報学研究科
	情報幾何学と離散力学の融合と社会ネットワーク解析への応用	システム情報学研究科
	気候変動と病原菌の進化に頑強な作物設計システムの構築	先端融合研究環
	脳性麻痺障害者の個人適応型コミュニケーション支援システムの開発	都市安全研究センター
PRIME	癌細胞の浸潤・転移を司る細胞膜の張力を介したシグナル伝達機構の解明	医学研究科

13-3 研究拠点形成事業

○ 研究拠点形成事業とは？

我が国において先端的かつ国際的に重要と認められる研究課題、または地域における諸課題解決に資する研究課題について、我が国と世界各国の研究教育拠点機関をつなぐ持続的な協力関係を確立することにより、当該分野において世界的水準または地域における中核的な研究交流拠点の構築とともに、次世代の中核を担う若手研究者の育成を目的とした事業である。



14. 研究業績に関する主な受賞者一覧

○所属教員

賞名等	氏名	決定年	所属(旧所属)	官職
【文化勲章】	西塚 泰美	昭和63年	医学部	教授・学長
【文化功労者】	西塚 泰美	昭和62年	医学部	教授・学長
	五百旗頭 真	平成23年	法学研究科	名誉教授
	中井 久夫	平成25年	医学部	名誉教授
【紫綬褒章】	岩井 誠三	平成元年	医学部	教授
	三嶋 豊	平成6年	医学部	教授
	天野 明弘	平成12年	経営学部	教授
	岡村 均	平成19年	医学系研究科	教授
	春日 雅人	平成19年	医学系研究科	教授
	清野 進	平成23年	医学研究科	教授
【ウルフ賞】	西塚 泰美	平成6年	医学部	教授・学長
【アルバート・ラスカー医学研究賞】 基礎医学研究賞	西塚 泰美	平成元年	医学部	教授・学長
【ガードナー国際賞】	西塚 泰美	昭和63年	医学部	教授・学長
【朝日賞】	西塚 泰美	昭和61年	医学部	教授・学長
	戸田 達史	平成20年	医学研究科	教授
【京都賞】基礎科学部門	西塚 泰美	平成4年	医学部	教授・学長
【女性化学賞】	相馬 芳枝	平成23年	自然科学研究科	客員教授・特別顧問
【武田医学賞】	西塚 泰美	昭和57年	医学部	教授・学長
	春日 雅人	平成19年	医学系研究科	教授
	高井 義美	平成26年	医学研究科	教授
【日本学士院賞】	戸田 達史	平成29年	医学研究科	教授
【日本学士院会員】	西塚 泰美	平成3年	医学部	教授・学長
	河本 一郎	平成7年	法学部	名誉教授
	三宅 一郎	平成11年	法学部	名誉教授
	西村 和雄	平成24年	社会科学系教育研究府	特命教授

※本学在籍時の受賞等のみ掲載

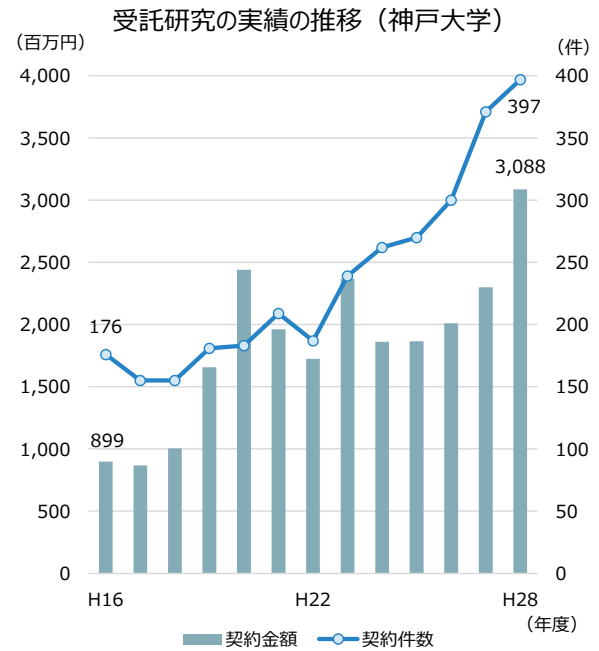
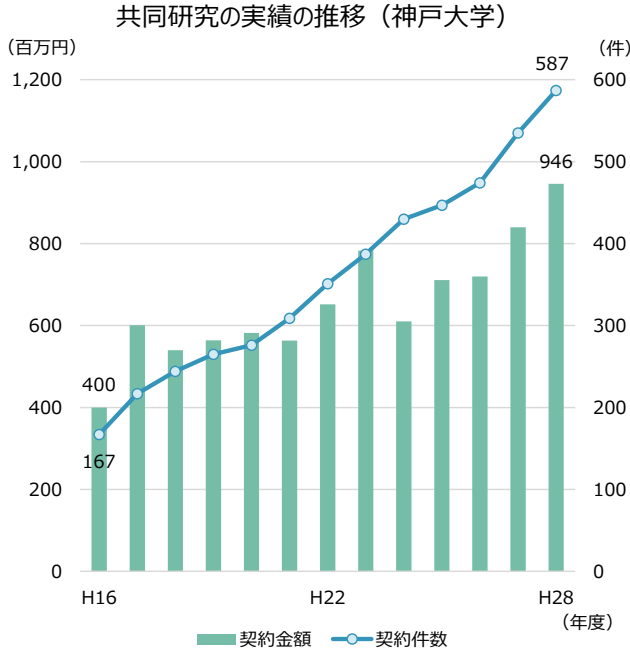
○神戸大学出身者の主な受賞一覧

氏名	賞名等	受賞部門	決定年	卒業校等
河合 隼雄	【朝日賞】	-	平成9年	神戸工業専門学校卒 (神戸大学工学部の前身)
山中 伸弥	【ノーベル賞】	生理学・医学賞	平成24年	神戸大学医学部卒
	【文化勲章】	-	平成24年	
	【ウルフ賞】	医学部門	平成23年	
	【アルバート・ラスカー医学研究賞】	基礎医学研究賞	平成21年	
	【ガードナー国際賞】	-	平成21年	
	【レニウム技術賞】	-	平成24年	
	【京都賞】	先端技術部門	平成22年	
	【武田医学賞】	-	平成20年	
	【朝日賞】	-	平成19年	
	【恩賜賞・日本学士院賞】	-	平成22年	
【日本学士院会員】	-	平成22年		
脇田 晴子	【文化勲章】	-	平成22年	神戸大学文学部卒
佐川 真人	【朝日賞】	-	平成2年	神戸大学工学部卒
	【日本国際賞】	-	平成24年	神戸大学大学院工学研究科修了
江崎 玲於奈	【ノーベル賞】	物理学賞	昭和48年	兵庫県師範学校附属小学校高等科 (神戸大学附属中等教育学校の前身)
	【文化勲章】	-	昭和49年	
	【日本国際賞】	-	平成10年	
野依 良治	【ノーベル賞】	化学賞	平成13年	兵庫師範学校男子部附属小学校卒 (神戸大学附属小学校の前身)
	【文化勲章】	-	平成12年	
	【ウルフ賞】	化学部門	平成13年	
	【朝日賞】	-	平成4年	

15. 産学官連携状況

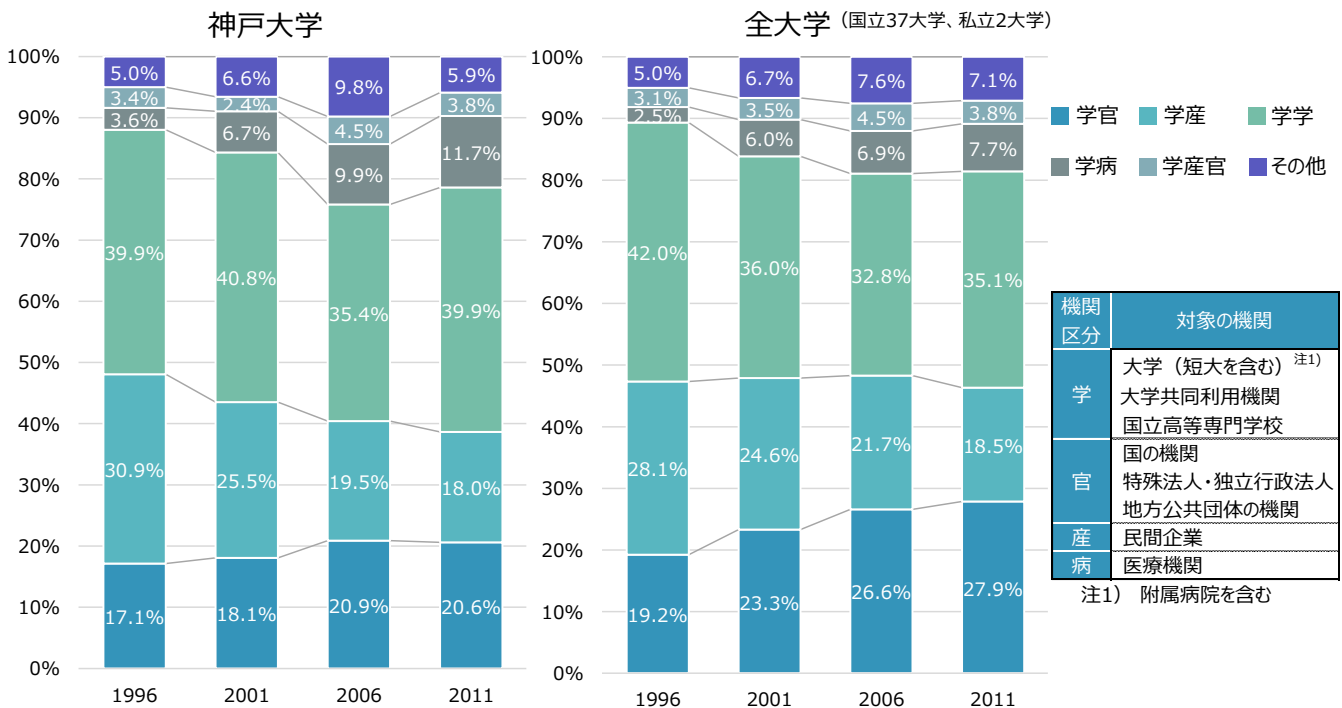
15-1 共同研究・受託研究の状況

- 本学の共同研究・受託研究については、いずれも順調に件数を伸ばしていることがわかる。
- 平成28年度には法人化時と比べて共同研究は**3倍以上**、受託研究については**2倍以上**の件数となっている。



15-2 共著関係から見る産学官連携パターン

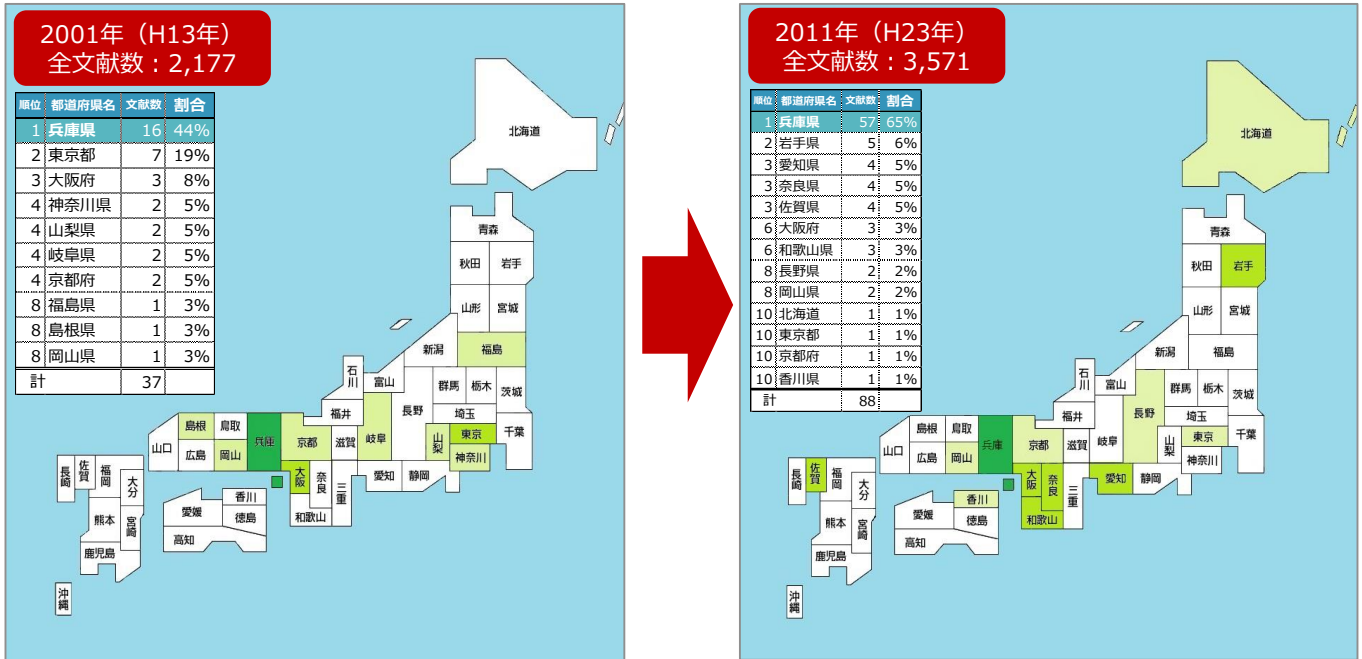
- JSTが収集しデータベース化している予稿集・会議録記事の書誌データによると、全国的には学官連携、学病連携の比率が上昇傾向にあるが、神戸大学では比較的学官連携の伸びは小さく、**学病連携の伸びが大きい**ことがわかる。（2011年では全国平均の約1.5倍）



※出典：科学技術振興機構（JST）「共著関係からみる産学官連携パターン」より作成

15-3 地方公共団体関係機関との共著文献数

- 神戸大学と公設試験研究機関などの地方公共団体の機関との共著関係に着目し、その連携度合いを色の濃さで判別することができるよう日本地図上に表したもの。大学が「地域のハブ」とどのくらい連携しているかを捉えている。
- 10年間で共著文献数は37件から88件へと約2.5倍に増えており、地方公共団体との連携が全国的に広がるとともに、特に兵庫県との連携が深まっていることがわかる。



出典：科学技術振興機構（JST）「地域との連携（各県の共著関係）」、「地域との連携（対象文献数）」より作成

15-4 マッチングプランナープログラム(研究成果展開事業) 採択数ランキング

- 平成28年度企業ニーズ解決試験の採択数において、神戸大学は**5位**であり、科学技術イノベーション研究を重視する本学の特徴が現れているといえる。

◆平成28年度企業ニーズ解決試験

順位	研究機関名	採択数
1	大阪府立大学	11
2	九州大学	9
3	関西大学	8
	山口大学	8
5	神戸大学	7
6	大阪市立大学	6
	長崎大学	6
8	岩手大学	5
	東北大学	5
	産業技術総合研究所	5
	大阪大学	5
	近畿大学	5
	広島大学	5
	熊本大学	5
	大分大学	5

以下省略（全113機関）

マッチングプランナープログラムとは

地域の企業が持つ開発課題（企業ニーズ）を把握し、全国の大学等の研究成果（大学シーズ）の中から解決に資するものと結びつける専門人材「マッチングプランナー」を配置して大学シーズによる地域企業の開発課題の解決、事業化を目指す段階までを支援し、地域科学技術イノベーション創出を目的としたプログラム。

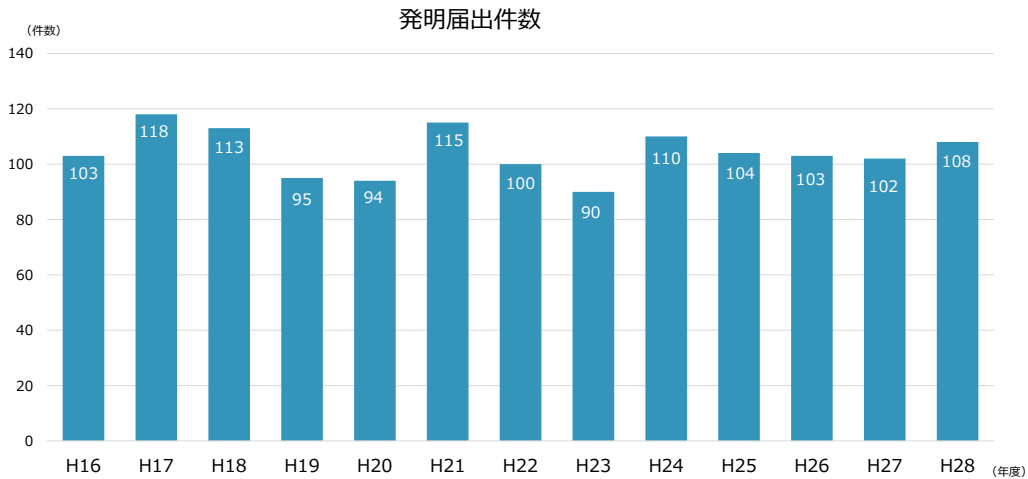
企業ニーズ解決試験とは

マッチングプランナープログラムの事業のひとつで、マッチングプランナーが把握した企業ニーズを解決するために、対象とする大学シーズが適しているかを検証する試験研究費を支援するもの。マッチングプランナーが発掘した企業ニーズに基づいて大学等が申請を行う。平成28年度は647件の申請があり、そのうち255件が採択された。

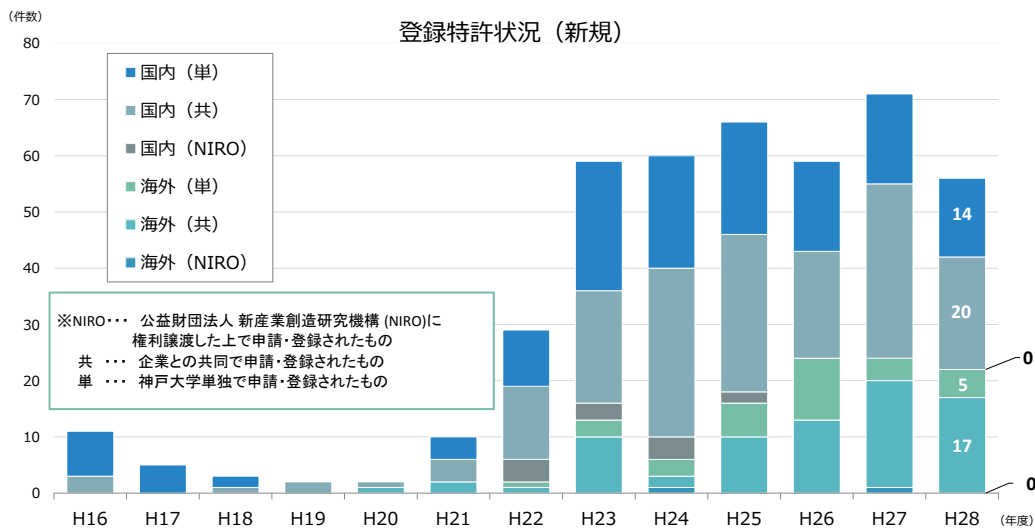
出典：科学技術振興機構（JST）HP（マッチングプランナープログラム採択課題掲載ページ）より作成

15-5 神戸大学の知的財産の状況

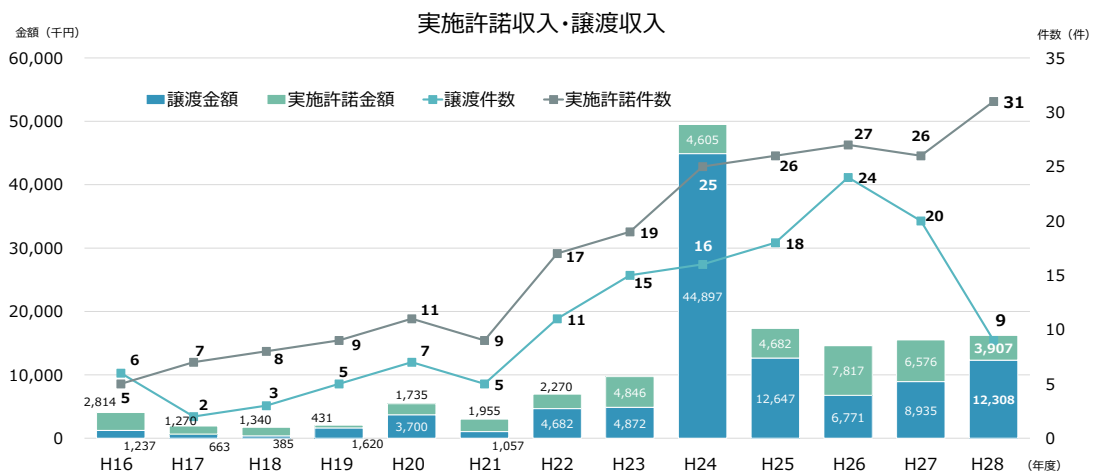
○ 発明届出件数は、過去13年間で、**100件程度/年**を推移している。



- 登録特許は、平成21年度以降**増加傾向**。特許の登録には、通常申請から5～6年の審査期間を要するため、法人化後に特許申請に力を注いできたことが、この時期から結果として現れている。
- 近年は**60件/年**程度を推移しており、海外への登録件数も増えてきたことがわかる。



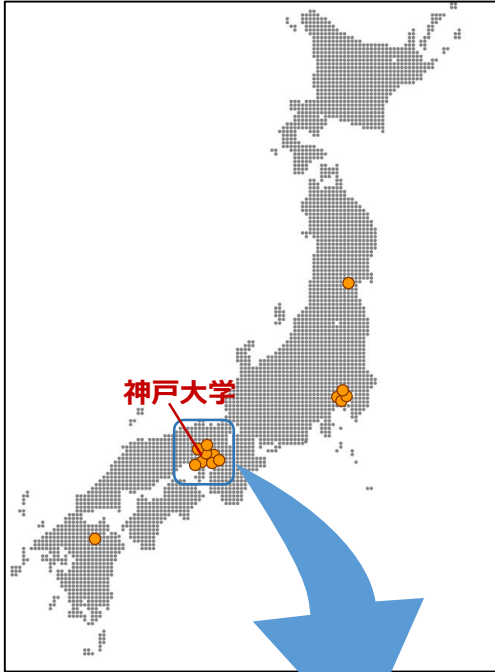
- 実施許諾件数は**増加傾向**、譲渡件数は平成27年度から減少しているが、譲渡金額は平成16年度と比較すると、**約10倍**と大きく伸びていることがわかる。



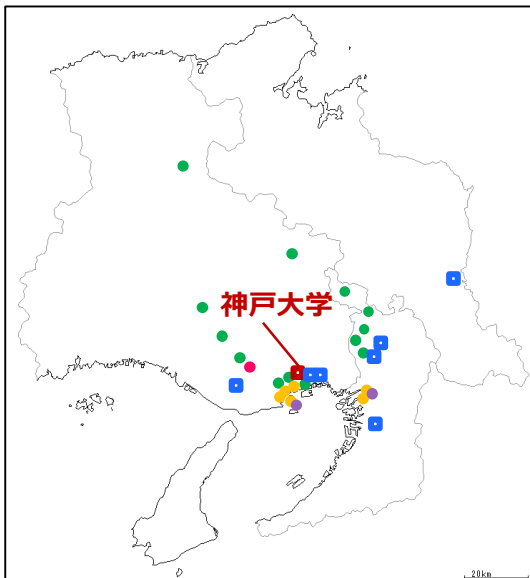
16. 国内の大学等との連携協定

○ 神戸大学は、国内の数多くの機関や企業と連携協定を結び、研究・教育・医療の各分野において、充実した社会発展への寄与に取り組んでいる。

◆ 大学間連携協定等締結状況 (H29.7.1現在)



◆ 近畿地方の大学間連携協定等締結先 (H29.7.1現在)



- = 大学 (本部所在地)
- = 自治体等 (庁舎等所在地)
- = 民間企業 (本社所在地)
- = 国立研究開発法人等 (所在地)
- = 官公庁 (庁舎)

(注) このページにて記されている連携協定は神戸大学が締結した「大学間連携協定等」であり、部局において締結された連携協定については記載していない。

○ 東北地方の連携先との大学間連携協定

区分	協定名称	協定締結機関	締結日
大	国立大学法人神戸大学と国立大学法人東北大学との災害科学分野における連携協力に関する協定	東北大学	H23.10.23

○ 関東地方の連携先との大学間連携協定等 (一部近畿地方の連携先含む)

区分	協定名称	協定締結機関	締結日
大・研	国立大学法人神戸大学、兵庫県立大学及び独立行政法人海洋研究開発機構 ^(※) の教育研究に関する包括協定	兵庫県立大学 国立研究開発法人海洋研究開発機構 (JAMSTEC)	H19.8.6
大	一橋大学、神戸大学及び大阪市立大学における教育交流に関する協定	一橋大学 大阪市立大学	H22.2.1
民	国立大学法人神戸大学と一般社団法人日本プロジェクト産業協議会との連携協力に関する協定	一般社団法人日本プロジェクト産業協議会	H26.4.1
民	国立大学法人神戸大学と一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会との連携協力に関する協定	一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会	H26.6.23
独	国立大学法人神戸大学と独立行政法人国際協力機構との連携協定	(独) 国際協力機構 (JICA)	H23.3.1
独	独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構と国立大学法人神戸大学との間における包括的連携・協力関係の推進に関する協力協定	(独) 石油天然ガス・金属鉱物資源機構	H29.6.7
研	国立大学法人神戸大学と独立行政法人海洋研究開発機構 ^(※) との包括連携協定	国立研究開発法人海洋研究開発機構 (JAMSTEC)	H24.12.20
研	現代中国地域研究に関する研究協力協定	大学共同利用機関法人人間文化研究機構	H25.8.1

○ 近畿地方の連携先との大学間連携協定等

区分	協定名称	協定締結機関	締結日
大	国立大学法人神戸大学と学校法人神戸薬科大学との連携に関する協定	神戸薬科大学	H19.7.17
大	国立大学法人神戸大学と国立大学法人京都大学との計算科学分野における連携協力に関する協定	京都大学	H22.4.1
大	京都大学、大阪大学及び神戸大学における相互の協力に関する協定	京都大学、大阪大学	H25.12.21
自	国立大学法人神戸大学と神戸市灘区との連携協力に関する協定	神戸市灘区	H16.12.2
自	国立大学法人神戸大学と小野市との連携協力に関する協定	小野市	H17.1.26
自	国立大学法人神戸大学と兵庫県朝来郡生野町 (現・朝来市) との連携協力に関する協定	朝来市	H17.3.23
自	国立大学法人神戸大学と加西市との連携協力に関する協定	加西市	H21.5.19
自	国立大学法人神戸大学と兵庫県との連携に関する協定	兵庫県	H22.8.2
自	国立大学法人神戸大学と篠山市との連携協力に関する協定	篠山市	H22.8.30
自	教員養成のための神戸大学と豊能地区3市2町教育委員会との連携協力に関する協定	大阪府豊能地区 (豊中市、池田市、箕面市、豊能町、能勢町) 教育委員会	H24.12.18
自	国立大学法人神戸大学と神戸市との連携に関する協定	神戸市	H25.5.24
自	三木市と国立大学法人神戸大学との連携に関する協定	三木市	H25.6.27
自	神戸大学と兵庫県教育委員会との連携に関する協定	兵庫県教育委員会	H26.1.30
自	国立大学法人神戸大学と神戸市教育委員会との連携に関する協定	神戸市教育委員会	H27.11.6
民	国立大学法人神戸大学と川崎重工業株式会社との産学連携の推進に関する協定	川崎重工業株式会社	H18.10.23
民	連携協力協定	本水四国連絡高速道路株式会社	H21.7.1
民	神戸大学と池田銀行 (現・池田泉州銀行) の連携協力に関する協定	池田泉州銀行	H21.8.6
民	国立大学法人神戸大学と株式会社カネカとの包括的な産学連携推進に関する協定	株式会社カネカ	H22.12.14
民	国立大学法人神戸大学と株式会社神戸新聞社との連携に関する協定	神戸新聞社	H26.7.7
民	国立大学法人神戸大学とバンドー化学株式会社との包括的な産学連携推進に関する協定	バンドー化学株式会社	H26.9.24
民	国立大学法人神戸大学と阪神高速道路株式会社との連携に関する協定	阪神高速道路株式会社	H27.12.15
研	国立大学法人神戸大学と独立行政法人理化学研究所 ^(※) 計算科学研究機構との計算科学、計算機科学及びこれらに関連する分野における連携・協力に関する協定	国立研究開発法人理化学研究所計算科学研究機構 (AICS)	H24.5.15
研	独立行政法人防災科学技術研究所 ^(※) 兵庫県工学研究センターと国立大学法人神戸大学との連携に関する協定	国立研究開発法人防災科学技術研究所兵庫県工学研究センター	H26.9.29
官	国立大学法人神戸大学と国土交通省近畿地方整備局との連携・協力に関する協定	国土交通省近畿地方整備局	H27.7.8
官	サイバー空間の脅威に対処するための連携及び協力に関する協定	兵庫県警察本部、兵庫県立大学	H28.2.19

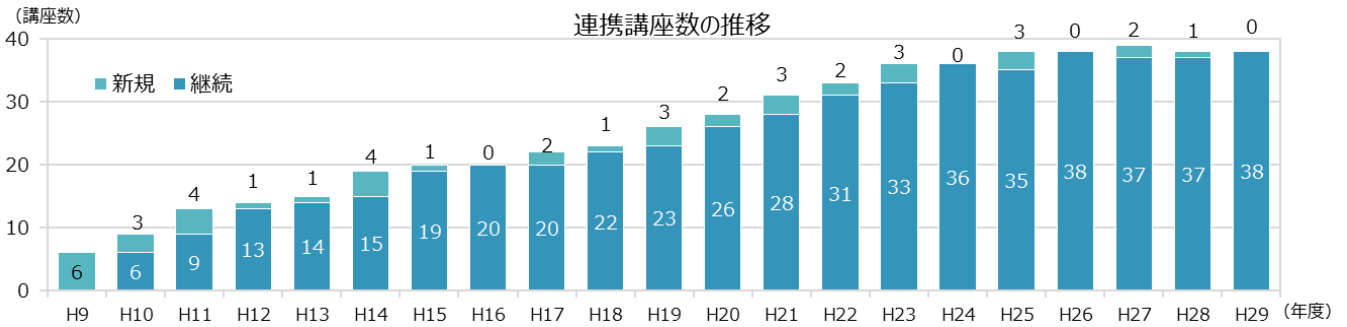
○ 九州地方の連携先との大学間連携協定

区分	協定名称	協定締結機関	締結日
自	国立大学法人神戸大学と中津市との連携に関する協定	大分県中津市	H28.4.22

[区分] 大…大学、自…自治体等、民…民間企業等、独…独立行政法人、研…国立研究開発法人等、官…官公庁等
 (※)…平成27年4月1日、国立研究開発法人となった。

17. 連携大学院実施状況

○ 神戸大学では、ほとんどの研究科において、多様な分野で官・民・病等の組織と連携講座を設けており、その数も増加傾向にある。



※グラフの講座数は下記一覧の「講座名」数を表す。

◎連携講座一覧（平成29年5月1日現在）

研究科名	専攻名	講座名	連携先	開始年度
人文学研究科	社会動態専攻	文化資源論	(財)大和文華館 (独)国立文化財機構 奈良国立博物館	平成19年度
国際文化学研究科	グローバル文化専攻	先端コミュニケーション論	(株)国際電気通信基礎技術研究所	平成19年度
人間発達環境学研究科	人間環境学専攻	環境先端科学	国立研究開発法人国立環境研究所 国立研究開発法人産業技術総合研究所	平成19年度
経営学研究科	経営学専攻・現代経営学専攻	マネジメント・システム設計	(株)野村総合研究所	平成10年度
		事業価値評価	GCA(株)	平成18年度
		経営戦略システム設計	アクセンチュア(株)	平成11年度
理学研究科	化学専攻	構造解析化学	(財)高輝度光科学研究センター	平成19年度
		理論生物化学	国立研究開発法人理化学研究所 計算科学研究機構	平成23年度
	生物学専攻	発生生物学	国立研究開発法人理化学研究所 多細胞システム形成研究センター	平成19年度
		生物制御科学	住友化学(株) 健康・農業関連事業研究所	平成27年度
	惑星学専攻	惑星地球変動史	国立研究開発法人海洋研究開発機構 大学共同利用機関法人自然科学研究機構 国立天文台	平成25年度
応用惑星学	気象庁気象研究所	平成28年度		
医学研究科	医科学専攻	生理学・細胞生物学	国立研究開発法人理化学研究所 多細胞システム形成研究センター	平成14年度
			(株)カン研究所	平成22年度
			アスピオファーマ(株)	平成23年度
		生化学・分子生物学	(財)高輝度光科学研究センター	平成12年度
			(株)カン研究所	平成22年度
		微生物感染症学	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所	平成19年度
		地域社会医学・健康科学	兵庫県立健康生活科学研究所	平成20年度
		内科学	(独)医薬品医療機器総合機構	平成23年度
			(株)カン研究所	平成22年度
			兵庫県立姫路循環器病センター	平成27年度
		内科系	兵庫県立粒子線医療センター	平成13年度
			(財)先端医療振興財団 先端医療センター	平成13年度
			(財)先端医療振興財団 先端医療センター	平成20年度
外科系	兵庫県立こども病院	平成25年度		
	兵庫県立総合リハビリテーションセンター	平成19年度		
	兵庫県立西播磨総合リハビリテーションセンター	平成25年度		
外科学	兵庫県立こども病院	平成25年度		
外科学	兵庫県立姫路循環器病センター	平成27年度		
保健学研究科	保健学専攻	リハビリテーション科学	国立研究開発法人情報通信研究機構 脳情報通信融合研究センター	平成25年度
工学研究科	建築学専攻	地域減災計画	総務省消防庁消防大学校消防研究センター	平成19年度
		電気電子工学専攻	機能性薄膜学	パナソニック(株) 先端技術研究所
	機械工学専攻	知的製造システム	(株)神戸製鋼所技術開発本部 神戸総合技術研究所	平成19年度
		機能適応モデル	国立研究開発法人情報通信研究機構	平成19年度
		開閉型ものづくり	川崎重工(株) 技術開発本部	平成21年度
	応用化学専攻	局所場反応・物性解析学	国立研究開発法人産業技術総合研究所 関西センター	平成19年度
		化学エネルギー変換プロセス学	国立研究開発法人産業技術総合研究所 関西センター	平成19年度
		生物機能工学	(財)ザントリー生物有機科学研究所	平成21年度
		製剤設計生産工学	アステラス製薬(株)	平成22年度
ケミカル・バイオセンシング	国立研究開発法人産業技術総合研究所	平成23年度		
システム情報学研究科	システム科学専攻	応用システム	三菱電機(株)	平成19年度
	情報科学専攻	感性アートメディア	(株)国際電気通信基礎技術研究所	平成19年度
	計算科学専攻	応用計算科学	国立研究開発法人海洋研究開発機構	平成22年度
大規模計算科学	国立研究開発法人理化学研究所 計算科学研究機構	平成25年度		
農学研究科	資源生命科学専攻	食料生産フィールド科学	兵庫県立農林水産技術総合センター	平成19年度
海事科学研究科	海事科学専攻	海洋環境計測科学	国立研究開発法人海洋研究開発機構	平成19年度
		地域環境科学	(財)ひょうご環境創造協会 兵庫県環境研究センター	平成21年度

18. 教育関係共同利用拠点

- 平成26年度、教育関係共同利用拠点への認可申請を行い、以下の3施設について認可された。
(認定期間：平成26年7月31日～平成31年3月31日)

内海域環境教育研究センター マリンサイト (平成28年度～自然科学系先端融合研究環より移行)

拠点名：都市域沿岸の海洋生物・生態系と環境管理に関わる教育共同利用拠点

平成28年度共同利用状況 (学内を除く)

区分	所属機関数	利用人数	延べ人数
国立大学	13	46	208
公立大学	1	2	4
私立大学	8	22	69
大学共同利用機関法人	0	0	0
民間・独立行政法人等	10	11	26
外国の研究機関	0	0	0
計	32	81	307



平成28年度実施プログラム (抜粋)

課題	概要
全国公開臨海実習 Aコース	沿岸域生態系の主要な構成要素の1つである海藻類を対象に、その生物多様性を、分類・生態・形態・生理・進化・遺伝子などの多様な側面から学んだ。(利用者数：7機関12名)
全国公開臨海実習 Bコース	ため池と河川の生物群集が陸域からの資源供給に支えられていることを実測するとともに、それら陸域-淡水域間の相互作用が河口付近に形成される干潟の生物群集とどのように関係しているか検証した。(利用者数：6機関9名)
全国公開臨海実習 Cコース	調査実習船「おのころ」、練習船「深江丸」による海上実習を行い、海水の水温・塩分・溶存酸素濃度・光量・流速などの観測、海水・プランクトン・海底堆積物の採取・分析を通して、内湾環境の多様性とその原因を考察した。(利用者数：2機関4名)
奈良女子大学 臨海実習	藻類の多様性と進化・沿岸環境との関わりについての講義、船舶を用いた沿岸環境の観察、淡路島の沿岸における海藻類・海産底生動物の生態観察・採集、実験室における海藻類・海産底生動物の同定、標本作製、組織観察などを行った。(利用者数：1機関19名)
藻場モニタリングワークショップ	モニタリング1000プロジェクトに参加して藻場の構成要素である海藻類の多様性と生態および長期モニタリングの基礎について学んだ。(利用者数：2機関3名)

大学院農学研究科附属 食資源教育研究センター

拠点名：農場と食卓をつなぐフィールド教育拠点

平成28年度共同利用状況 (学内を除く)

区分	所属機関数	利用人数	延べ人数
国立大学	8	24	24
公立大学	6	69	121
私立大学	10	172	236
大学共同利用機関法人	0	0	0
民間・独立行政法人等	1	54	108
外国の研究機関	0	0	0
計	25	319	489



平成28年度実施プログラム (抜粋)

課題	概要
農場から食卓まで・実践食料生産 (大阪市立大学)	利用大学開講科目「QOLプロモーション演習Ⅰ・Ⅱ」の一環として実施。日帰り(5月)と2泊3日(9月)の日程で、イネの手植え・収穫、ウシの体重測定・鼻紋採取、ブドウの収穫などを実習した。(利用者数：21名)
農場から食卓まで (兵庫大学)	利用大学開講科目「食品学実験Ⅱ」の一環として実施。ウシの管理、ナシの摘果、イネの手植えなどを実習した。(利用者数：78名)
食料生産実習 (大阪府立大学)	利用大学開講科目「食料生産実習」を本学で実施。2泊3日の日程で鶏卵の鮮度測定、ウシの去勢・除角、トラクター操作、里山散策などを実習した。(利用者数：17名)
農場から食卓まで (吉備国際大学)	利用大学開講科目「フィールド実習Ⅱ」の一環として実施。ウシの飼養管理・鼻紋採取、カキの収穫と脱洗などを実習した。(利用者数：33名)
農場から食卓まで (兵庫県立大学)	利用大学開講科目「専門ゼミナール」「卒業研究」の一環として実施。ウシの飼育管理、キャベツの収穫・調製などを実習し、その経済性について学んだ。(利用者数：24名)

大学院海事科学研究科附属 練習船深江丸

拠点名：グローバル海上輸送に関わる海事技術・海洋環境とヒューマンファクタの教育のための
共同利用拠点

平成28年度共同利用状況（学内を除く）

区分	所属機関数	利用人数	延べ人数
国立大学	1	95	135
公立大学	2	32	52
私立大学	7	135	254
大学共同利用機関法人	0	0	0
民間・独立行政法人等	1	33	33
外国の研究機関	0	0	0
計	11	295	474



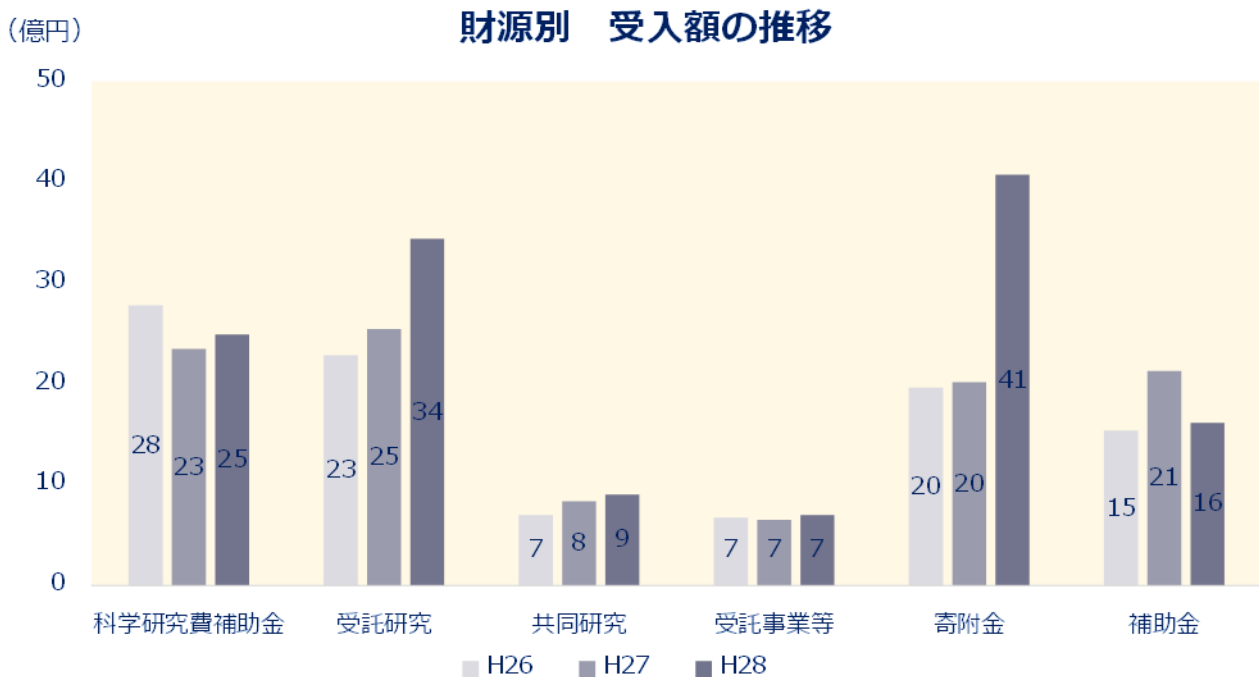
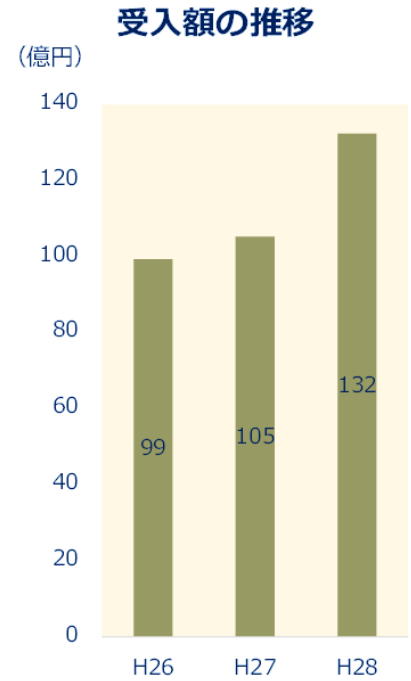
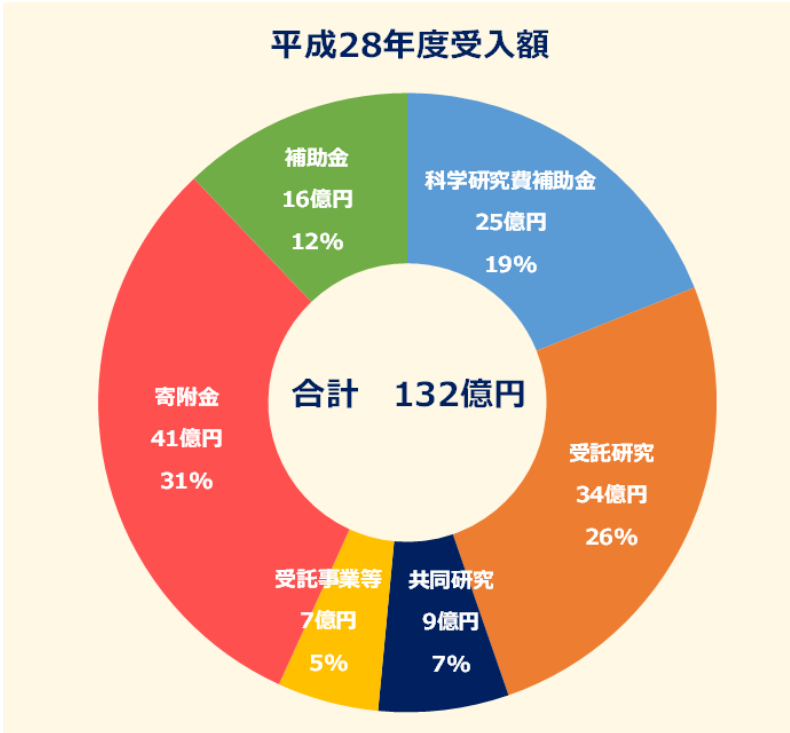
平成28年度実施プログラム（抜粋）

課題	概要
中京大学 応用心理学実習	神戸・深江港から高松港までの2泊3日の船舶研修を実施した。航海中に、機関当直、船橋当直、結索実習プログラムに参加し、船舶における職階とその任務、海上交通と安全などの講義を通して実り多い実習となった。 (利用者数：35名)
大阪大学 船に乗って船を知ろう	練習船深江丸に乗船し、船の歴史、船の仕組み、船の運航、船の種類等、船について様々な観点から学ぶとともに、自ら課題を見つけ、乗組員にインタビューをすることにより、船に関する知識を身につけた。 (利用者数：40名)
大阪府立大学 船舶工学特殊講義	船舶工学の中でも特に他の講義では深く取り扱うことのない舶用機関、及び舶用機関と船舶推進装置の関係などに関して基礎から概説・詳述するため、練習船深江丸による演習航海を通して、船舶の運航に関する理解を深めた。(利用者数：20名)
神戸女学院大学 演習 I B	船舶（船内・海上）における安全意識・安全対策に関する体験実習として、練習船深江丸に乗船し、船舶実習を行った。(利用者数：24名)
大阪大学 船舶設計製図	船舶の全体形状、居住施設、船倉、設備等を示した見取り図である船体一般配置図の船舶設計における重要性と、各種船舶の一般配置図の概要を学び、課題船舶の一般配置図を製図するため、練習船深江丸に乗船し、船内の調査を行った。(利用者数：40名)

19. 外部資金

19-1 外部資金の受入額

○ 国立大学の法人化以降、運営費交付金は機能強化促進係数（※平成27年度までは「大学改革促進係数」）により毎年減額されているため、受託研究や共同研究、寄附金などの外部資金の重要性がより高まっている。



◆外部資金受入額詳細(区分別・年度別)

(単位：百万円)

区 分	平成26年度 受入額	平成27年度 受入額	平成28年度 受入額	前年比較 受入額
受託研究等	3,660	4,031	5,047	1,016
受託研究	2,285	2,545	3,444	899
共同研究	701	836	903	67
受託事業	674	651	700	49
寄附金	1,964	2,017	4,080	2,062
科学研究費補助金等(直接経費相当額)	2,780	2,347	2,493	145
科学研究費補助金(文部科学省)	2,467	2,299	2,456	156
厚生労働科学研究費補助金(厚生労働省)	275	29	25	△ 3
先導的産業技術創出事業費補助金(NEDO)	10	4	-	△ 4
環境研究総合推進費補助金(環境省)	18	11	7	△ 4
建設技術研究開発費補助金(国土交通省)	10	-	-	-
その他	-	4	4	0
補助金等	1,537	2,131	1,614	△ 517
研究拠点形成費等補助金	77	44	59	15
卓越した大学院拠点形成支援補助金(研究拠点形成費)	-	-	-	-
先進的医療イノベーション人材養成事業	53	-	-	-
がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン	24	22	20	△ 2
未来医療研究人材養成拠点形成事業	-	22	17	△ 5
成長分野を支える情報技術人材の育成拠点の形成	-	-	22	22
大学改革推進等補助金	50	110	148	38
大学病院における医師等の勤務環境改善のための人員の雇用	-	-	-	-
大学病院人材養成機能強化事業	15	-	-	-
基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成	16	10	9	△ 1
情報技術人材育成のための実践教育ネットワーク形成事業	18	15	-	△ 15
大学教育再生加速プログラム	-	19	17	△ 2
地(知)の拠点大学による地方創生推進事業	-	65	122	57
その他の補助金	1,434	1,977	1,439	△ 538
国立大学法人設備整備費補助金	21	-	113	113
国際化拠点整備事業費補助金	131	117	47	△ 70
科学技術人材育成費補助金	194	89	92	3
国宝重要文化財等保存整備費補助金	-	-	-	-
感染症予防事業費等国庫負担(補助)金	12	12	13	1
政府開発援助国際化拠点整備事業費補助金	41	33	-	△ 33
先導的創造科学技術開発費補助金	34	-	-	-
地域産学官連携科学技術振興事業費補助金	573	503	521	18
中小企業経営支援等対策費補助金	-	-	16	16
地域医療確保対策事業	-	-	91	91
研究大学強化促進費補助金	200	194	172	△ 21
周産期医療施設設備整備事業補助金	-	-	12	12
戦略的国際研究交流推進事業費補助金	43	48	20	△ 28
DMATカー整備事業	19	-	-	-
国立大学改革強化推進補助金	59	767	151	△ 616
シミュレーション実習機器等整備事業補助金	15	5	9	4
沖縄県地域医療介護総合確保基金事業補助金	30	30	30	0
小児救急医療拠点病院設備整備事業補助金	-	-	10	10
人生の最終段階における医療体制整備事業委託費	-	-	34	34
医療研究開発推進事業費補助金	-	-	14	14
埼玉県産学連携研究開発プロジェクト補助金	-	-	13	13
その他	63	181	49	△ 132
合 計	9,941	10,527	13,233	2,707

19-2 補助金等による主な採択プログラム一覧

(単位：千円)

事業・プログラム名/取組名	実施担当部局	研究代表者名	補助金 交付済総額	採択期間
イノベーションシステム整備事業・先端融合領域イノベーション創出拠点形成プログラム				
バイオロダクシオン次世代農工連携拠点	科学技術イノベーション研究科	学長 (武田 廣)	2,903,115	H20～H30 (予定)
感染症研究国際展開戦略プログラム				
インドネシアにおける新興・再興感染症の国際共同研究拠点形成	医学研究科	森 康子	889,472	H22～H31
戦略的創造研究推進事業				
多孔性電極中のイオン輸送現象の解明と高出力電池への展開	工学研究科	水畑 穰	120,250	H24～H29
大学の世界展開力強化事業 ～海外との戦略的高等教育連携支援～ ICI-ECPプロジェクト				
日・EU間学際的先端教育プログラム (EU-JAMM)	国際連携推進機構 国際教育総合センター	萩原泰治	14,125	H25～H29
臨床研究・治験推進研究事業				
小児難治性ネフローゼ症候群に対する新規治療法の開発を目指した全国多施設共同臨床試験	医学研究科	飯島 一誠	219,660	H25～H29
地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム (SATREPS)				
インドネシアにおける統合バイオリアイナリシステムの開発	工学研究科	荻野 千秋	127,943	H25～H29
研究大学強化促進事業				
URA機能の強化と活用、学術研究推進体制の機能強化	全学	全学	932,621	H25～H34 (予定)
SIP (戦略的イノベーション創造プログラム) /革新的設計生産技術				
リアクティブ3Dプリンタによるテーラーメイドラバー製品の設計生産と社会的価値共創に関する研究開発	学術研究推進機構 システム情報学研究所 工学研究科 経営学研究所	貝原 俊也	284,368	H26～H30
医療分野研究成果展開事業 (先端計測分析技術・機器開発プログラム)				
次世代乳癌スクリーニングのためのマイクロ波散乱場断層イメージングシステムの開発	理学研究科	木村 建次郎	92,050	H27-H30
大学教育再生加速プログラム (AP) テーマⅣ 長期学外学修プログラム (ギャップイヤー)				
神戸グローバルチャレンジプログラム	全学 (学部対象)	全学 (学部対象)	36,962	H27～H31
地 (知) の拠点大学による地方創生推進事業 (COC+)				
地域創生に応える実践力養成ひょうご神戸プラットフォーム	地域連携推進室	学長 (武田 廣)	166,390	H27～H31
世界に誇る地域発研究開発・実証拠点 (リサーチコンプレックス) 推進プログラム				
健康"生き活き"羅針盤リサーチコンプレックス	科学技術イノベーション研究科	近藤 昭彦	47,840	H27～H31
「スーパーグローバルハイスクール」に関する研究開発				
地球安全保障への提言を目指す「グローバルキャリア人材育成神戸モデル」	附属中等教育学校	学長 (武田 廣)	18,999	H27～H31
平成29年度科学技術試験研究委託事業				
太陽系外惑星 (第二の地球) の誕生と太陽系内惑星環境変動の解明 (生命を育む惑星の起源・進化と惑星環境変動の解明)	理学研究科	牧野 淳一郎	60,000	H28～H29
地域科学技術実証拠点整備事業				
国産医療用ロボット等革新的医療機器の統合型研究開発・創出拠点	医学研究科、医学部附属病院	藤澤 正人	400,000	H28～H29
植物等の生物を用いた高機能品生産技術の開発				
高生産性微生物創製に資する情報解析システムの解析	科学技術イノベーション研究科	近藤 昭彦	340,355	H28～H30
植物等の生物を用いた高機能品生産技術の開発				
植物の生産性制御に係る共通基盤技術開発 ゲノム編集の国産技術基盤プラットフォームの確立	科学技術イノベーション研究科	西田 敬二	46,000	H28～H30
IoT 推進のための横断技術開発プロジェクト				
Sensor-to-Cloud Security ～ビッグデータを守る革新的IoTセキュリティ基盤技術の研究開発	科学技術イノベーション研究科	永田 真	51,224	H28～H30
日本学術振興会研究拠点形成事業 - A. 先端拠点形成型 -				
日欧亜におけるコミュニティの再生を目指す移住・多文化・福祉政策の研究拠点形成	国際文化学研究所	坂井一成	17,550	H28～H32
大学の世界展開力強化事業				
～アジア諸国等との大学間交流の枠組み強化～ (タイプA-① キャンパス・アジア (CA) 事業の推進) 東アジアにおけるリスク・マネジメント専門学養成プログラム	国際協力研究科	陳 光輝	19,947	H28～H32
Visegrad University Studies Grant (VUSG)				
Comparative Studies on Migration and Social Movements in V4 Countries, Japan and Asia ※V4 Countries : Visegrad (ヴィシエグラード) 4か国 = チェコ、ハンガリー、ポーランド、スロバキア	人文学研究科	油井 清光	2,013	H29～H30

19-3 神戸大学基金

○ 平成18年12月に設置された「神戸大学基金」は多くの支援を賜り、様々な分野において活用されている。

使途指定基金

平成28年度	
寄附受入額	8億 968万円
支援実績額	6億2,739万円
基金残高増減額	1億8,229万円

寄附講座の設置、冠奨学金の設立、課外活動団体OBからの使途指定寄附など、寄附者のご意志による使途指定事業へのご寄附です。

修学支援事業

平成28年度	
寄附受入額	1,180万円
支援実績額	1,500万円
基金残高増減額	▲320万円

経済的な理由で修学が困難である学生等を支援する事業へのご寄附です。

基盤事業（大学全般）基金

平成28年度	
寄附受入額	3,569万円
支援実績額	5,244万円
基金残高増減額	▲1,675万円

学生支援を中心とした多彩な活動を継続的に支援していく基盤事業へのご寄附です。

基盤事業基金残高の推移



基盤事業・修学支援事業 2016 (H28) 年度実績

奨学金制度 1,975万円

「神戸大学基金」緊急奨学金 支給者数：19名／年間
 「神戸大学基金」奨学金（学部新1年次生） 支給者数：60名／年間

現在、神戸大学基金で実施している新1年次生向けの奨学金制度には、例年受給資格のある申込が募集数の2倍強ございます。

皆様には、神戸大学生が勉学に打ち込める環境を整えていけるよう、今後も神戸大学基金へ継続的なご支援を賜りたく、どうぞご協力お願い申し上げます。



国際化対応 2,050万円

- ◆海外留学・研修への派遣支援
利用者数：141名／年間
 - ①協定校等への海外派遣助成
 - ②部局企画プログラム
(留学・研修・海外ボランティア等)
 - ③大学院学生国際学会等派遣事業
- ◆神戸グローバルチャレンジプログラム
利用者数：68名／年間
- ◆アカデミック・ランゲージ&コミュニケーションサポート (KALCS) への助成
利用者数：延べ559名／年間
英語論文校正・学会発表指導等
- ◆海外からの優秀な留学生の受入
利用者数：延べ13名／年間



課外活動（含ボランティア活動）の支援 391万円

課外活動支援 支援数：40件／年間



▲女子タッチフットボール「Rooks」
全日本王座決定戦さくらボウル3連覇達成

東日本大震災関連ボランティア活動支援

被災地派遣学生数：延べ83名／年間



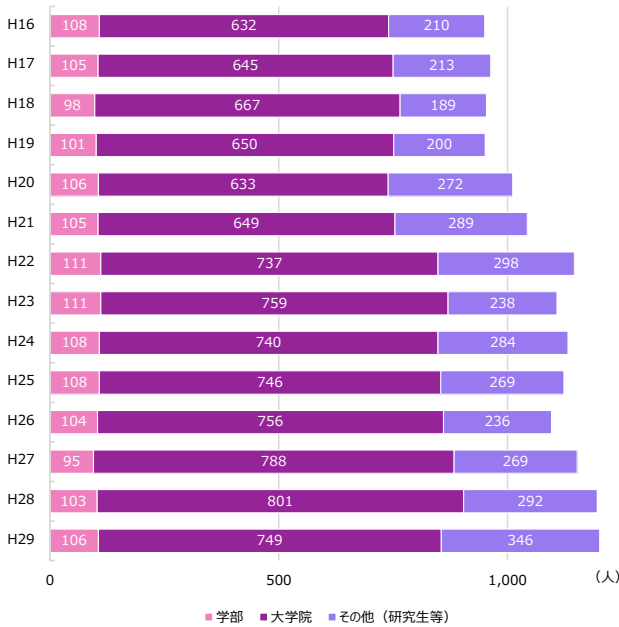
20. 留学

○ 留学生の受入れについて、平成29年度（5月1日時点）は前年度の1,196名を上回り、**過去最多**となる**1,201名**を受け入れた。

20-1 外国人留学生受入れ状況 – 在籍段階別 –

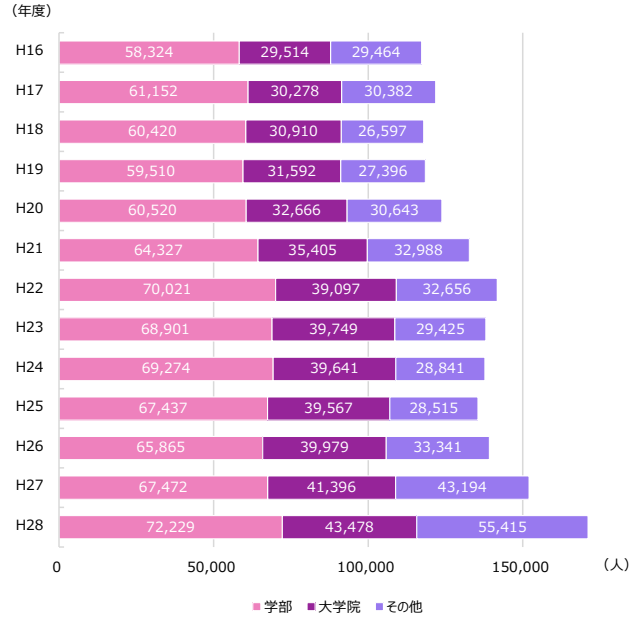
◆神戸大学◆

留学生の受入れ人数の推移（各年度5月1日現在）



◆全国◆

留学生の受入れ人数の推移（各年度5月1日現在）

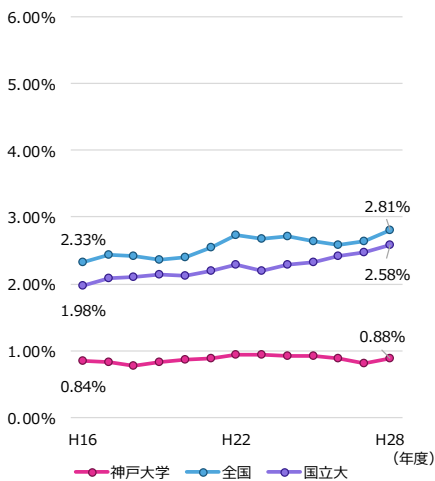


注)「その他」の内訳は、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）、準備教育課程の留学生。

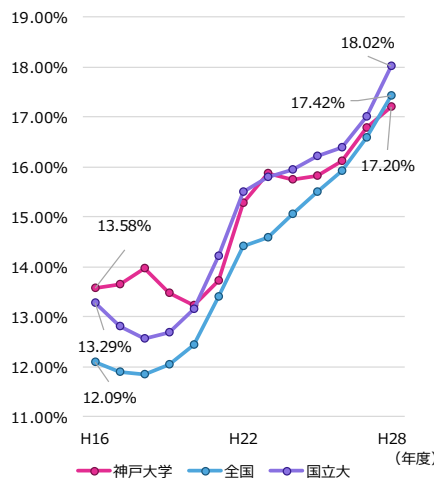
出典(全国)：JASSO「外国人留学生在籍状況調査」

20-2 在籍学生に占める外国人留学生の比率

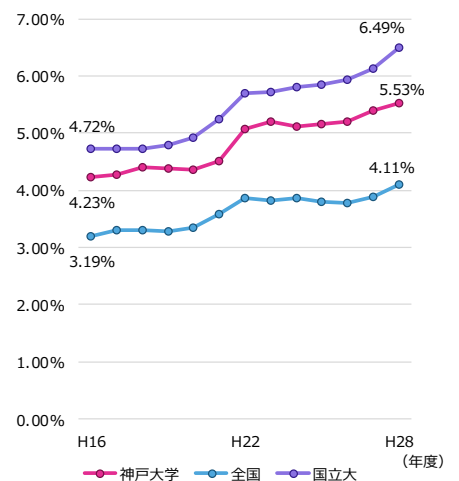
学部留学生比率



大学院留学生比率



学部・大学院留学生比率



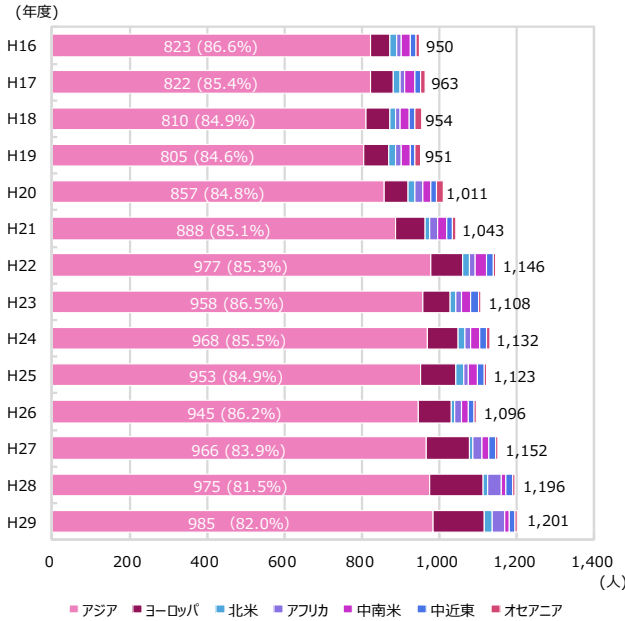
注) 留学生比率(学部・大学院留学生比率) = (学部留学生数 + 大学院留学生数) ÷ (学部学生数 + 大学院学生数) × 100 ※ 研究生・聴講生・科目等履修生等は含まない。

出典(国立大、全国)：JASSO「外国人留学生在籍状況調査」(留学生数)、文部科学省「学校基本調査」(学生数)

20-3 外国人留学生受入れ状況 - 地域別 -

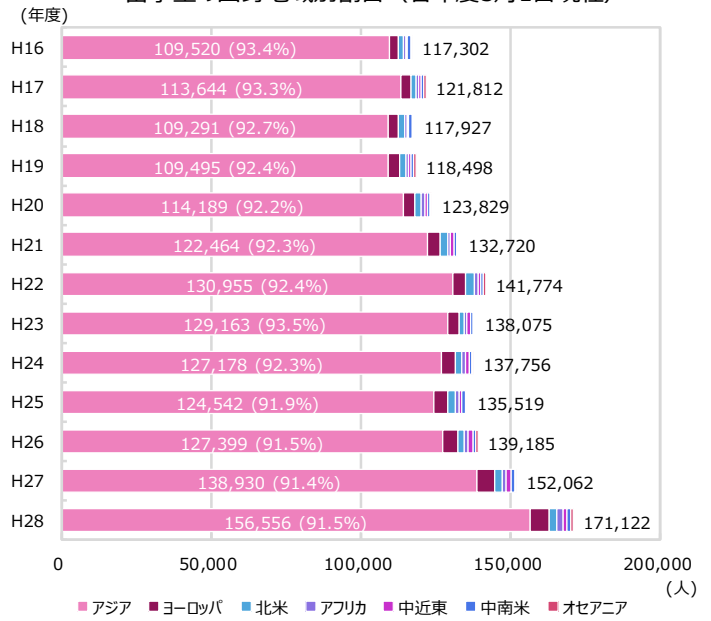
◆神戸大学◆

留学生の出身地域別割合（各年度5月1日現在）

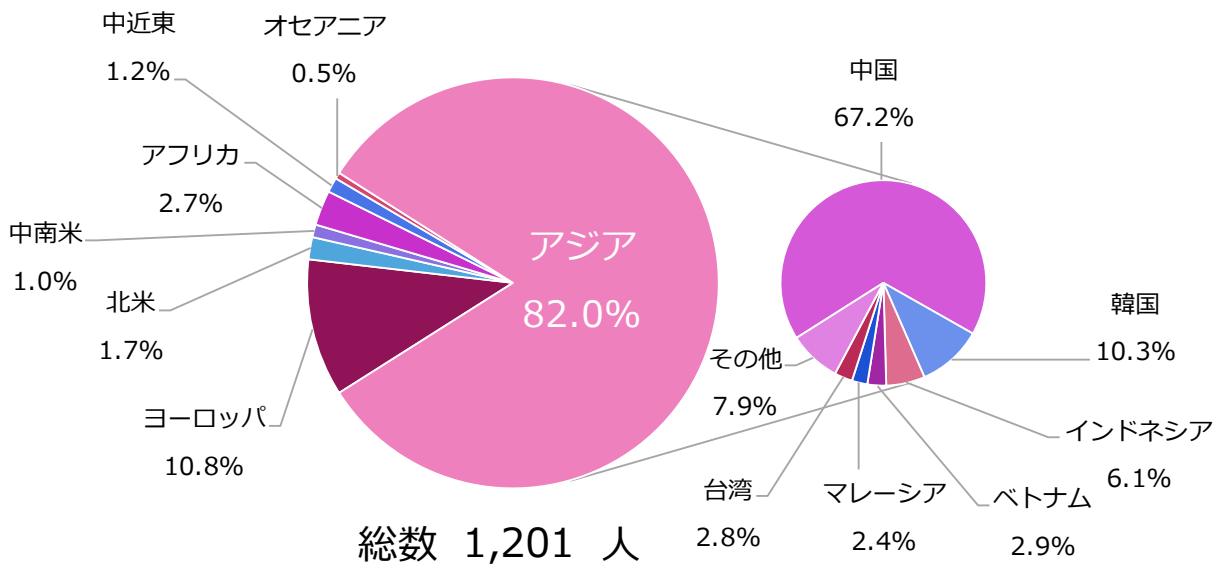


◆全国◆

留学生の出身地域別割合（各年度5月1日現在）



受入れ留学生数の地域別割合（平成29年5月1日現在）



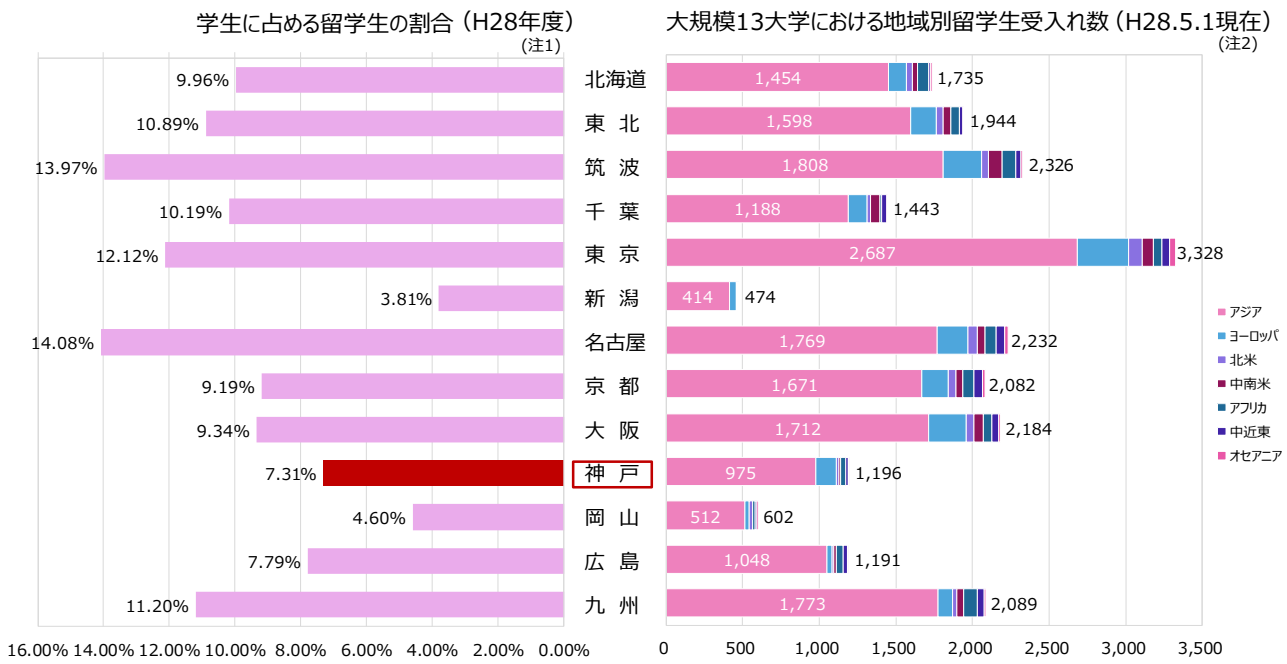
出典（全国）：JASSOF「外国人留学生在籍状況調査」

注1）（ ）内は各年度における全体に対するアジア出身留学生の割合。

注2）全国の留学生には、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）、準備教育課程の留学生を含む。

注3）四捨五入により小数第一位までの数値を掲載しているため、合計が100%にならないものもある。

20-4 大規模13大学の外国人留学生受入れ状況

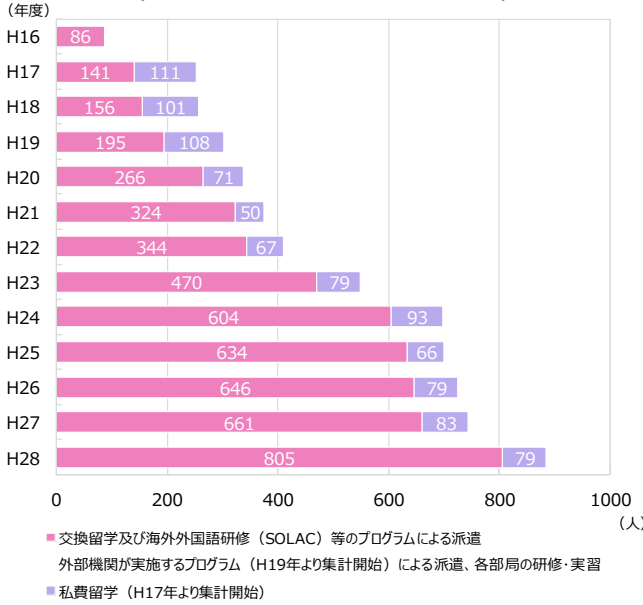


(注1) 留学生の割合 = (学部留学生数 + 大学院留学生数) ÷ (学部学生数 + 大学院学生数) × 100
 (注2) 千葉大学はH27.5.1付データ、新潟大学はH28.11.1付データ
 出典：各大学公表資料

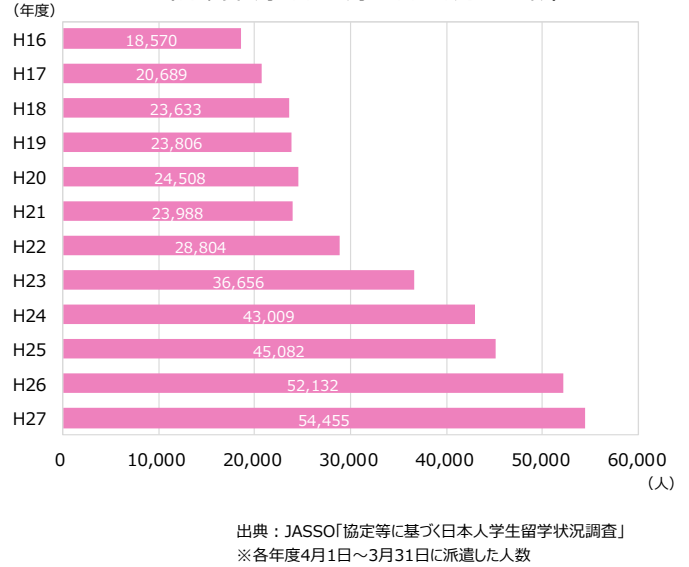
○ 学生の海外派遣数について、神戸大学は年々増加傾向にある。その地域別割合を見ると、他大学と比して、北米地域やオセアニアへの学生派遣比率が低い一方、ヨーロッパへの派遣比率は高く、EUの中心地であるブリュッセルにオフィスを構え、ヨーロッパ諸国との国際連携活動を展開している本学の特徴と言える。

20-5 学生の海外派遣数の推移

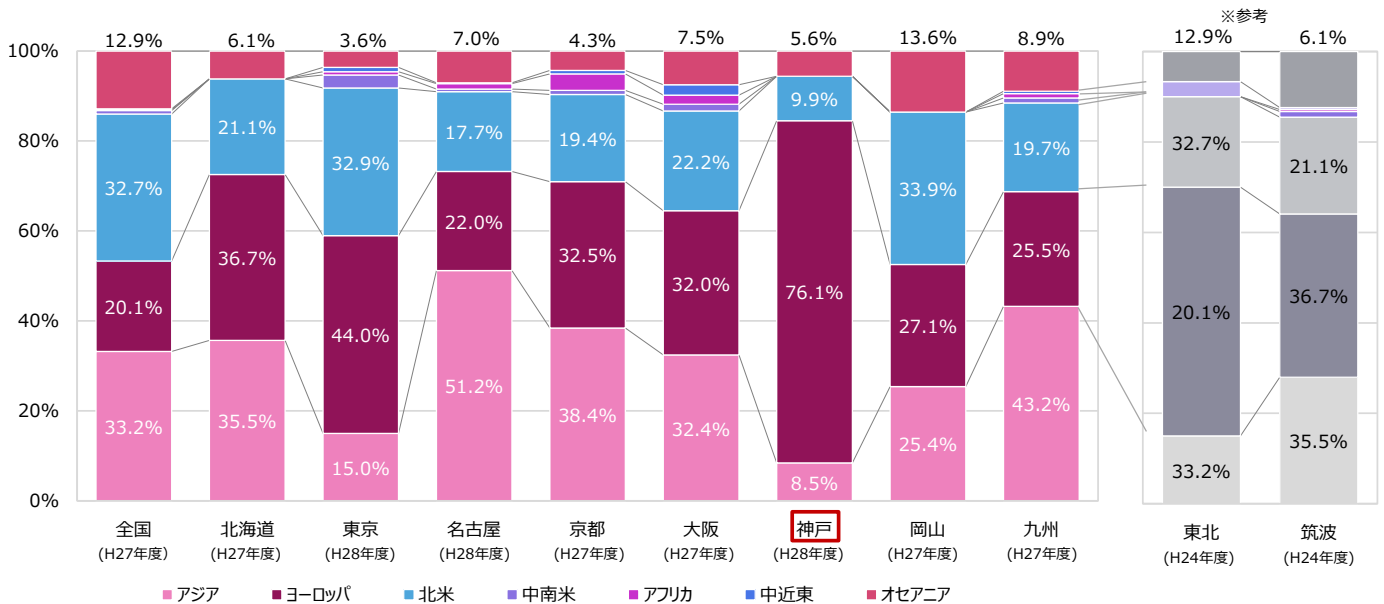
◆神戸大学◆



◆全国◆



20-6 各大学における学生の海外派遣状況(地域別割合)



注) 全国については、JASSO「協定等に基づく日本人学生留学状況調査」より作成した。各大学については、各大学のHP等により確認した。なお、グラフ内には、比較的割合の大きいアジア、ヨーロッパ、北米、オセアニアの割合のみ記載している。

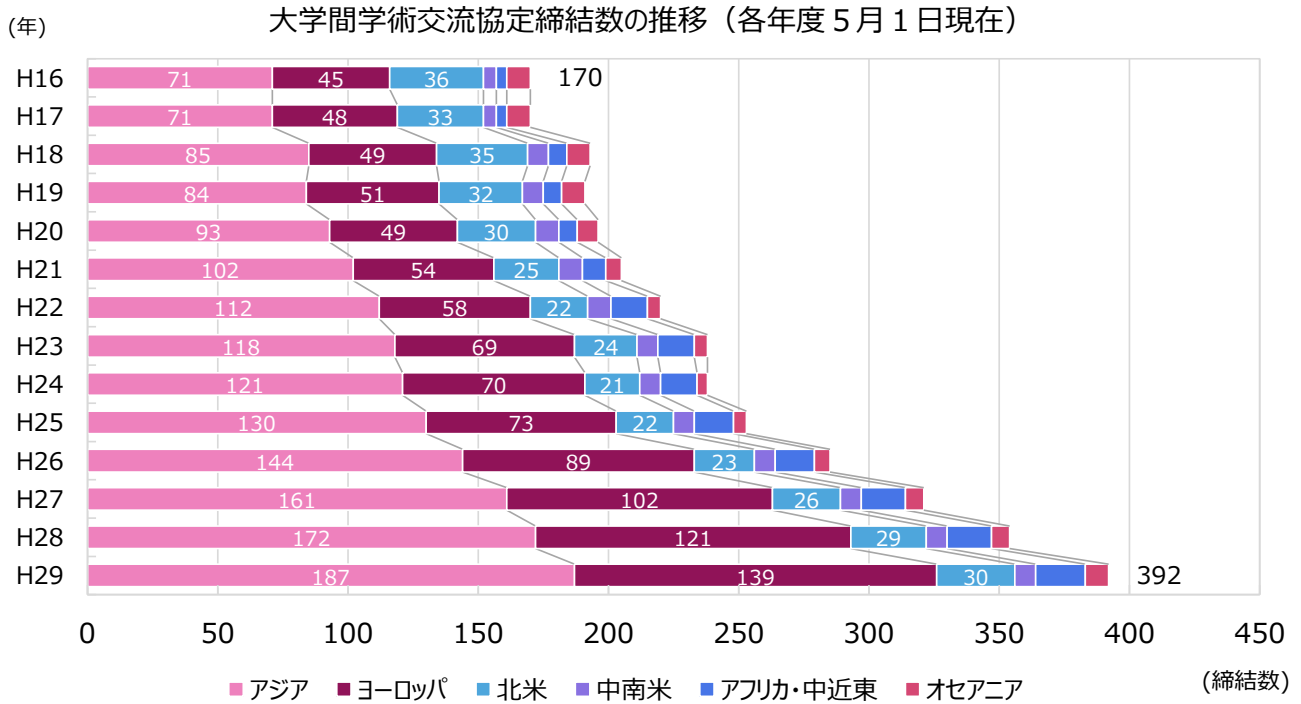
※下記のとおり、大学によって定義が異なるので、単純比較はできない。
 北海道大学…協定等に基づく学生の海外派遣者数及び協定等に基づかない学生の海外派遣者数の合計
 東京大学、大阪大学…定義の記載なし
 名古屋大学…海外留学の種類・目的は交換留学、研究、語学研修、学位取得等
 京都大学…外国へ渡航した学生数
 神戸大学…大学間学術交流協定に基づく留学者数
 岡山大学…「留学願」受付数より算出
 九州大学…過年度に留学を開始した者を含む

※東北大学及び筑波大学は入手可能なデータが平成24年度のものであり、他大学と基準年度が大きく異なるため、参考掲載とした。
 東北大学…協定等に基づく交換留学生
 筑波大学…定義の記載なし

21. 海外大学との交流状況

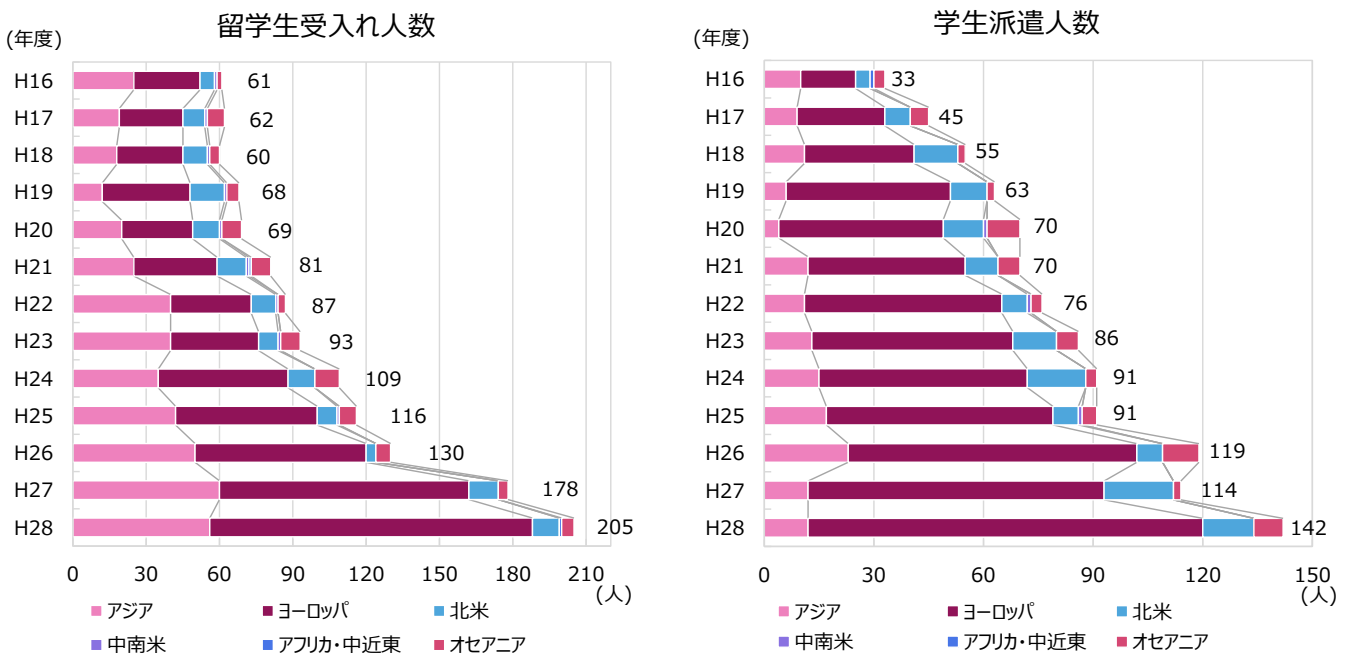
21-1 外国の大学等との学術交流協定の締結状況

○ 大学間学術交流協定締結数について、平成19年度に一度減少したものの、その後は着実に増加しており、近年アジア、ヨーロッパを中心に締結数が著しく増加している。減少傾向にあった北米との協定も近年は少しずつ増加している。



21-2 大学間学術交流協定に基づく留学生受入れ・学生派遣状況

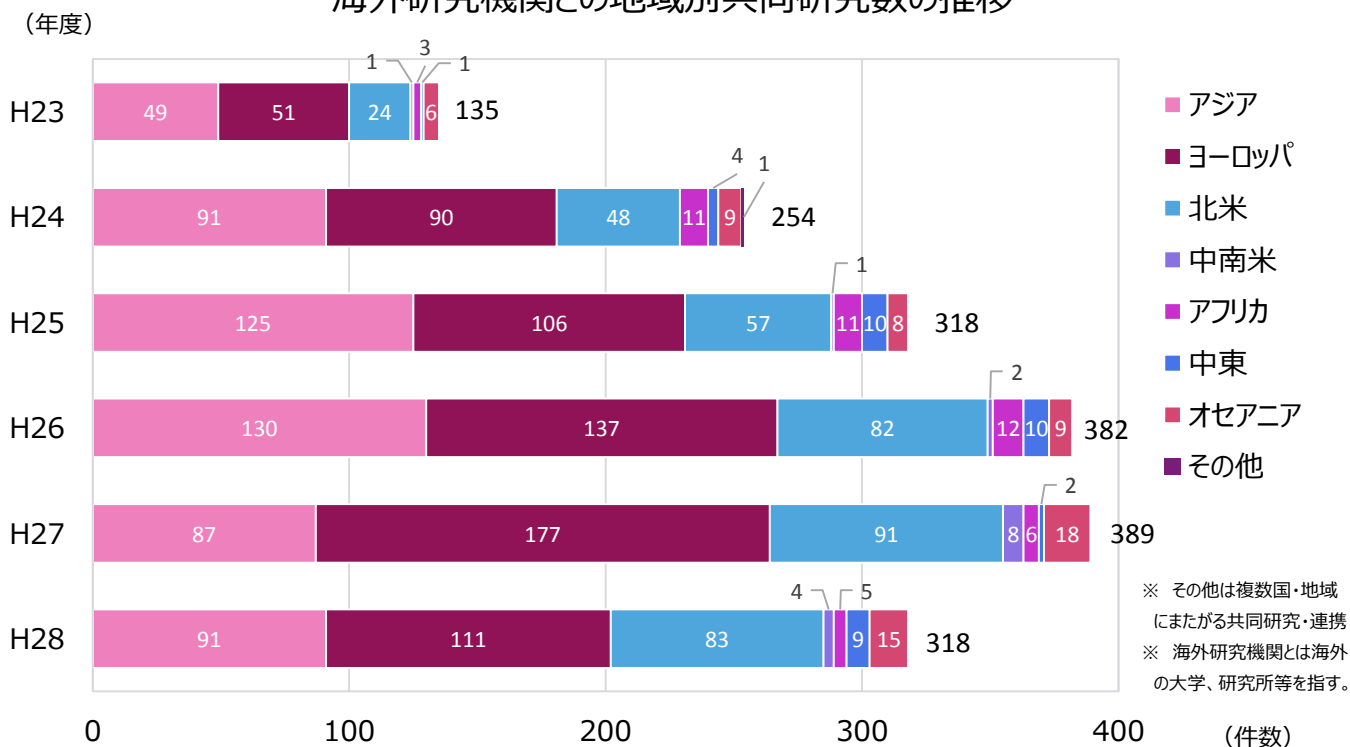
○ 大学間学術交流協定数の伸びと同調するように、留学生の受入れ、学生派遣共に、H28年度には過去最多となった。特に、ヨーロッパからの留学生、ヨーロッパへの派遣が順調に増加しており、同地域との教育・研究の連携に重点を置く本学の特徴が現れている。



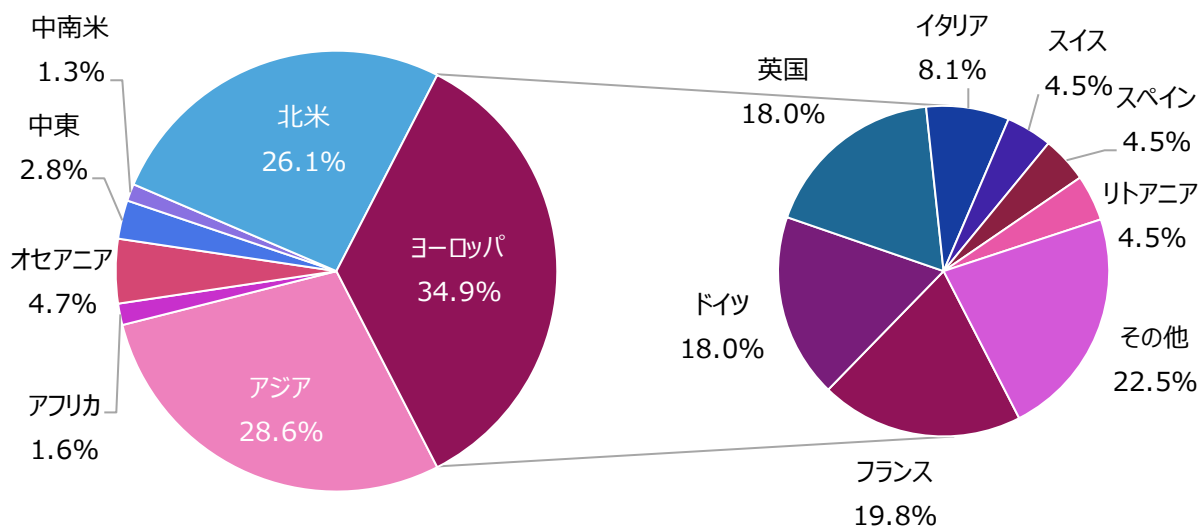
21-5 海外研究機関との国・地域別共同研究数

- 海外研究機関との共同研究については、アジア、ヨーロッパ、北米地域との共同研究が全体の9割近くを占めている。
- 平成27年度まで、海外研究機関との共同研究数は増加傾向にあったが、平成28年度には統計を開始した平成23年度以降初めて減少した。
- 地域別割合ではヨーロッパの割合が最も高く、ヨーロッパ地域の国別に見ると、本学のブリュッセルオフィスに近いフランス、ドイツ、英国を中心に様々な国との研究が進んでいることが伺える。

海外研究機関との地域別共同研究数の推移



平成28年度海外研究機関との共同研究の国・地域別割合



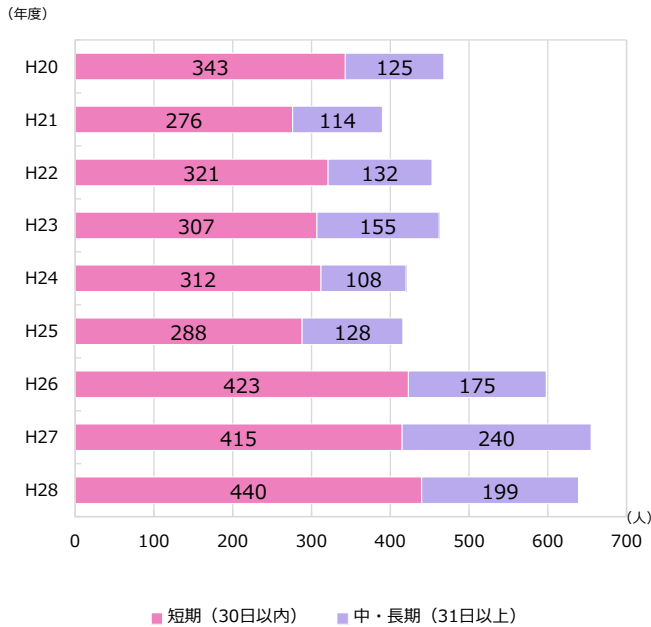
注：四捨五入により小数第一位までの数値を出しているため、合計が100%とならないデータも存在する。

22. 研究者等交流状況

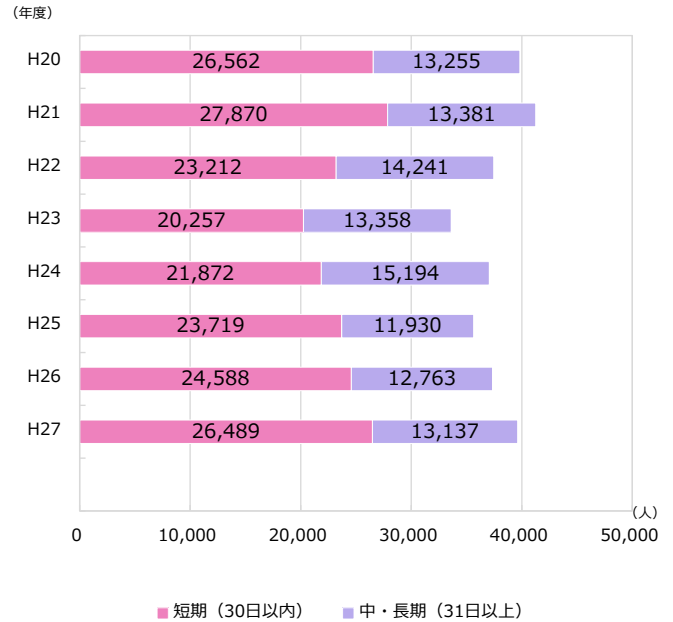
22-1 外国人研究者受入れ数の推移

○ 本学における外国人研究者受入れ数については、平成25年度までは毎年400～450名程度を推移していたが、平成26年度以降は600～650名程度を推移している。

神戸大学における期間別外国人研究者受入れ数



国公立大学・独立行政法人等の
期間別受入れ研究者数

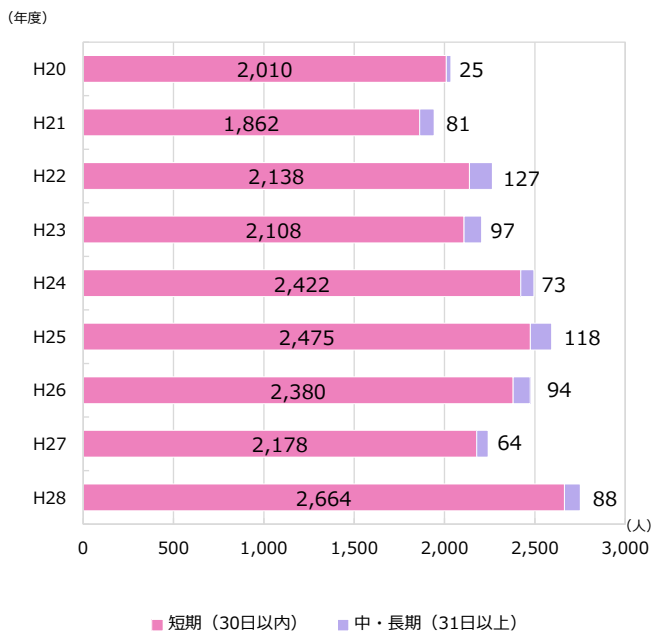


右：出典 文部科学省「国際研究交流の概況」

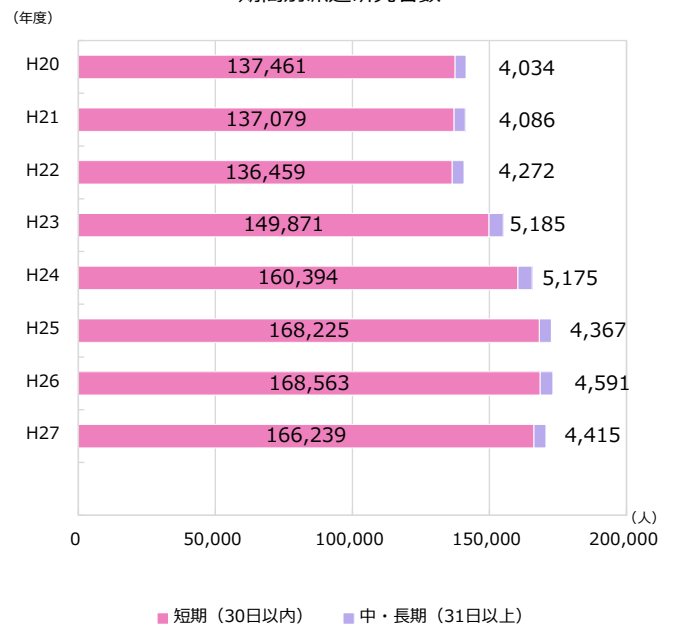
22-2 研究者海外派遣数の推移

- 本学では、「若手教員長期海外派遣制度」により、中・長期派遣研究者数を毎年安定して派遣している。
- 平成28年度は、短期派遣研究者数が前年度比22%程度増加したことにより、全体としても統計を開始した平成20年度以降最多となる2,752名を派遣した。

神戸大学における期間別研究者派遣数



国公立大学・独立行政法人等の
期間別派遣研究者数



右：出典 文部科学省「国際研究交流の概況」

23. 国際化の状況

○ 神戸大学は、外国人教員等数の総教員数に対する割合が高い。また、日本人学生の海外留学者の全学生に対する割合も比較的高い。一方、外国人留学生の割合はそれほど高くなく、外国語による授業の実施率も同様であることから、学内における留学生受入体制の整備や国際化が課題と言える。

①外国人教員等数の割合

(平成28年5月1日現在)

順位	大学名	外国人等教員数	専任教員数	外国人教員等の割合
1	神戸大学	641	1,591	40.3%
2	岡山大学	538	1,507	35.7%
3	広島大学	601	1,729	34.8%
4	九州大学	832	2,420	34.4%
5	北海道大学	711	2,430	29.3%
6	東北大学	921	3,187	28.9%
7	筑波大学	493	1,900	25.9%
8	大阪大学	822	3,193	25.7%
9	名古屋大学	598	2,334	25.6%
10	東京大学	1,251	5,888	21.2%
11	千葉大学	285	1,367	20.8%
12	京都大学	485	3,410	14.2%

②外国人教員等数当たりの学生数

(平成28年5月1日現在)

順位	大学名	全学生数	外国人教員等数	外国人教員等数当たりの学生数
1	東北大学	18,556	921	20.15
2	東京大学	28,253	1,251	22.58
3	九州大学	18,973	832	22.80
4	岡山大学	13,432	538	24.97
5	北海道大学	18,171	711	25.56
6	広島大学	15,617	601	25.99
7	神戸大学	16,747	641	26.13
8	名古屋大学	16,226	598	27.13
9	大阪大学	24,476	822	29.78
10	筑波大学	17,498	493	35.49
11	京都大学	23,492	485	48.44
12	千葉大学	14,591	285	51.20

③外国語による授業の実施率

(平成27年度実績)

順位	大学名	外国語による授業数	全授業科目数	実施率
1	筑波大学	2,813	13,957	20.2%
2	名古屋大学	1,745	10,984	15.9%
3	九州大学	1,775	11,164	15.9%
4	広島大学	1,837	12,973	14.2%
5	北海道大学	875	7,526	11.6%
6	東北大学	820	8,404	9.8%
7	東京大学	1,275	13,909	9.2%
8	神戸大学	446	5,374	8.3%
9	京都大学	885	12,219	7.2%
10	岡山大学	272	7,891	3.4%
11	大阪大学	769	23,247	3.3%
12	千葉大学	235	12,288	1.9%

④外国人留学生の全学生に対する割合

(平成28年5月1日現在)

順位	大学名	外国人留学生数	全学生数	外国人留学生の割合
1	筑波大学	2,490	17,498	14.2%
2	東京大学	3,328	28,253	11.8%
3	九州大学	2,173	18,973	11.5%
4	東北大学	2,023	18,556	10.9%
5	北海道大学	1,777	18,171	9.8%
6	名古屋大学	1,531	16,226	9.4%
7	大阪大学	2,257	24,476	9.2%
8	京都大学	2,082	23,492	8.9%
9	広島大学	1,242	15,617	8.0%
10	神戸大学	1,304	16,747	7.8%
11	千葉大学	816	14,591	5.6%
12	岡山大学	623	13,432	4.6%

⑤日本人学生の海外留学者の全学生に対する割合

(平成27年度実績)

順位	大学名	海外留学数	全学生数	海外留学の割合
1	筑波大学	785	15,041	5.2%
2	千葉大学	614	13,751	4.5%
3	神戸大学	589	16,356	3.6%
4	九州大学	551	16,915	3.3%
5	北海道大学	511	16,406	3.1%
6	広島大学	441	14,480	3.0%
7	大阪大学	604	21,878	2.8%
8	東北大学	442	16,722	2.6%
9	東京大学	619	24,355	2.5%
10	名古屋大学	286	14,684	1.9%
10	岡山大学	248	12,937	1.9%
11	京都大学	208	21,509	1.0%

出典：独立行政法人 日本学術振興会「スーパーグローバル大学等事業 スーパーグローバル大学創成支援」平成28年度フォローアップ結果について
 国立大学で学部入学定員の上位13大学（大規模13大学）のうち、事業採択大学と比較

注1) 外国人教員等数：外国籍の教員に加え、国外の大学での学位取得、通算1年以上教育研究に従事した日本人教員を含む。

注2) 外国語による授業の実施率：日本語の併用や外国語教育を主たる目的とするものを除く。

注3) 日本人学生の海外留学数：平成27年4月1日から平成28年3月31日までに海外の大学において留学を開始した日本人学生数

注4) 外国人留学生：「留学」の在留資格を有さない短期留学生、「日本人配偶者等」等の在留資格により大学に在学する外国人学生、学位や単位の取得を目的とはしないものの、大学院生レベルの教育指導を受ける外国人研究者として当該大学が受け入れている者を含む。

注5) 全学生数：非正規課程の学生を含む。

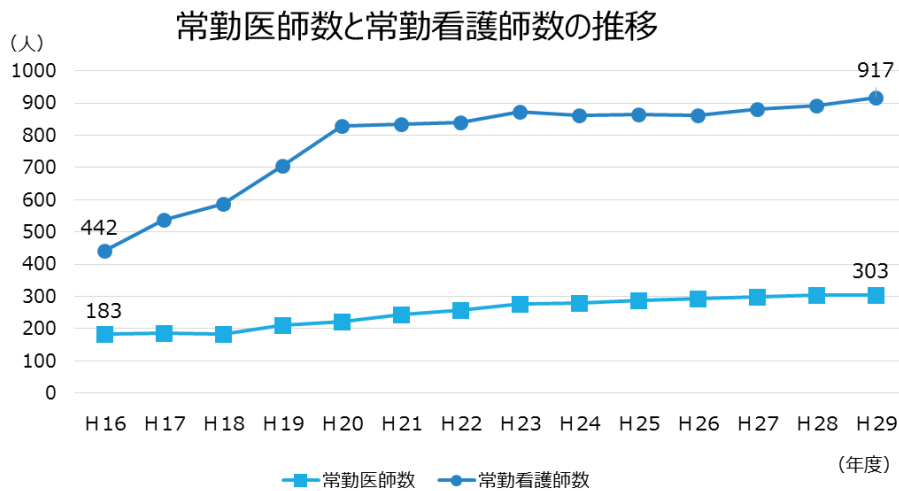
24. 附属病院

24-1 附属病院の病床数・常勤医師数・常勤看護師数

○ 常勤医師数は平成16年度と比較すると、約**1.7倍**となっている。また、常勤看護師数は平成16年度から平成20年度にかけて約**2倍**に増加し、平成21年度以降は微増となっている。

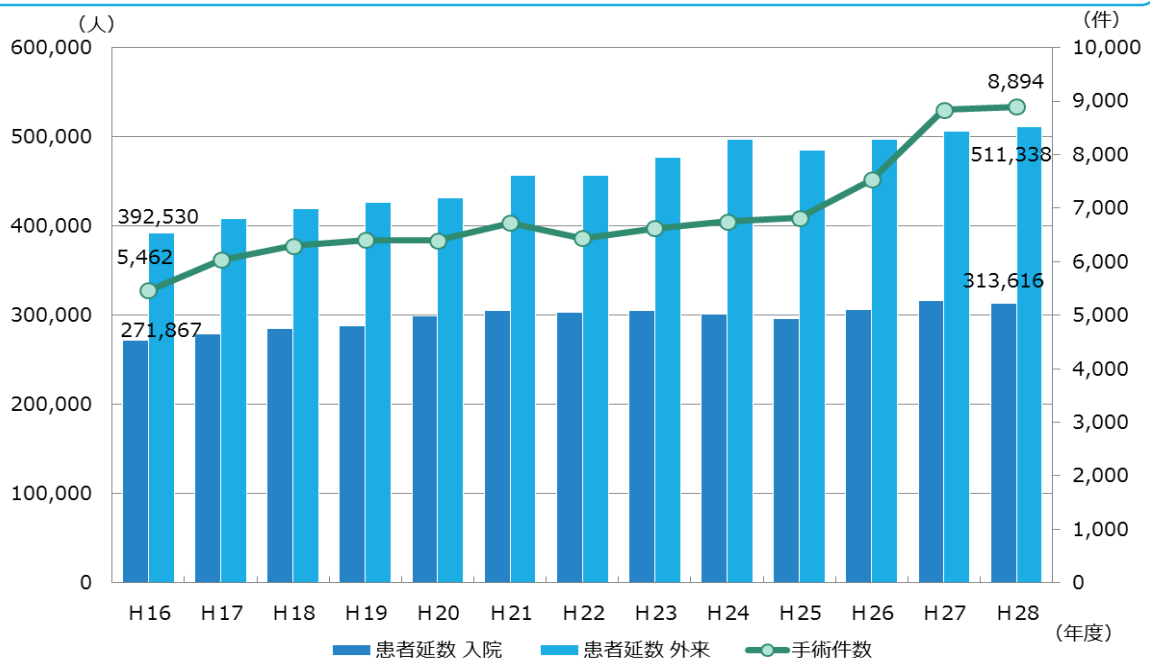
病床数		常勤医師数	常勤看護師数
一般病棟	精神病棟		
888床	46床	303名	917名

平成29年5月1日現在



24-2 附属病院の患者数と総手術件数の推移

○ 患者延べ数、総手術件数ともに、**増加傾向**にある。平成16年度に比べて、患者延べ数約**1.2倍**、総手術件数は約**1.6倍**となっている。

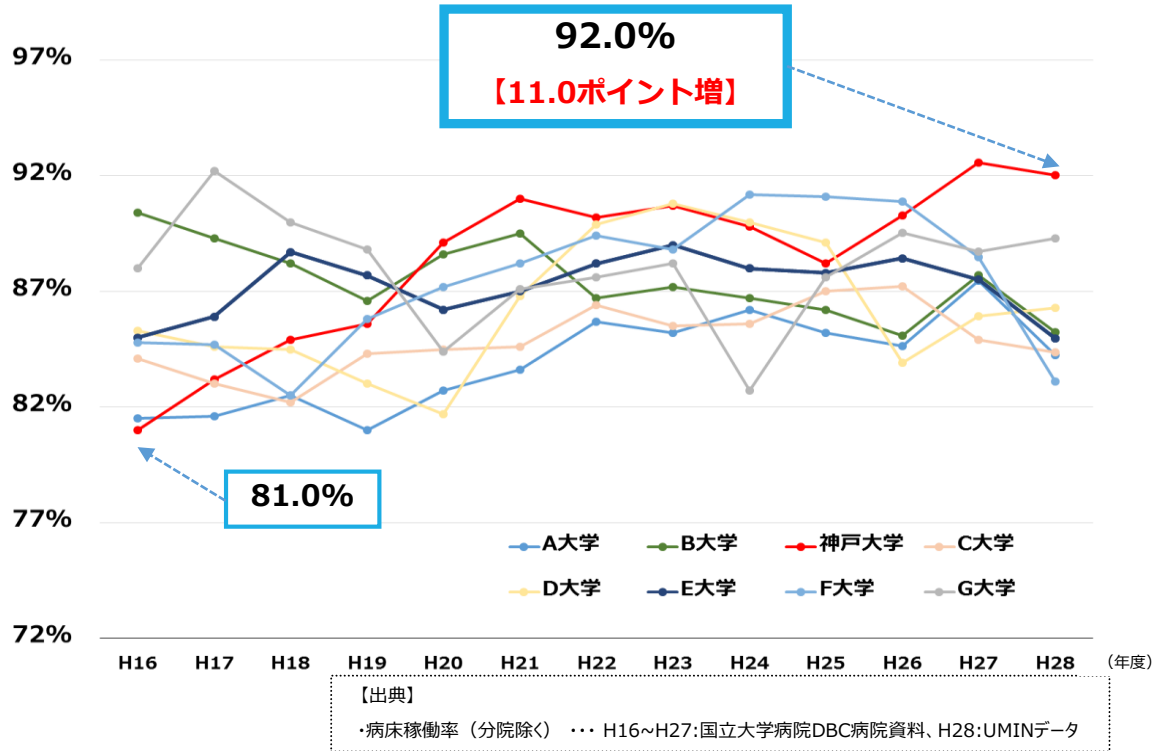


・患者延べ数 入院・・・退院患者数+在院患者延数
 ・患者延べ数 外来・・・新来患者数+再来患者数

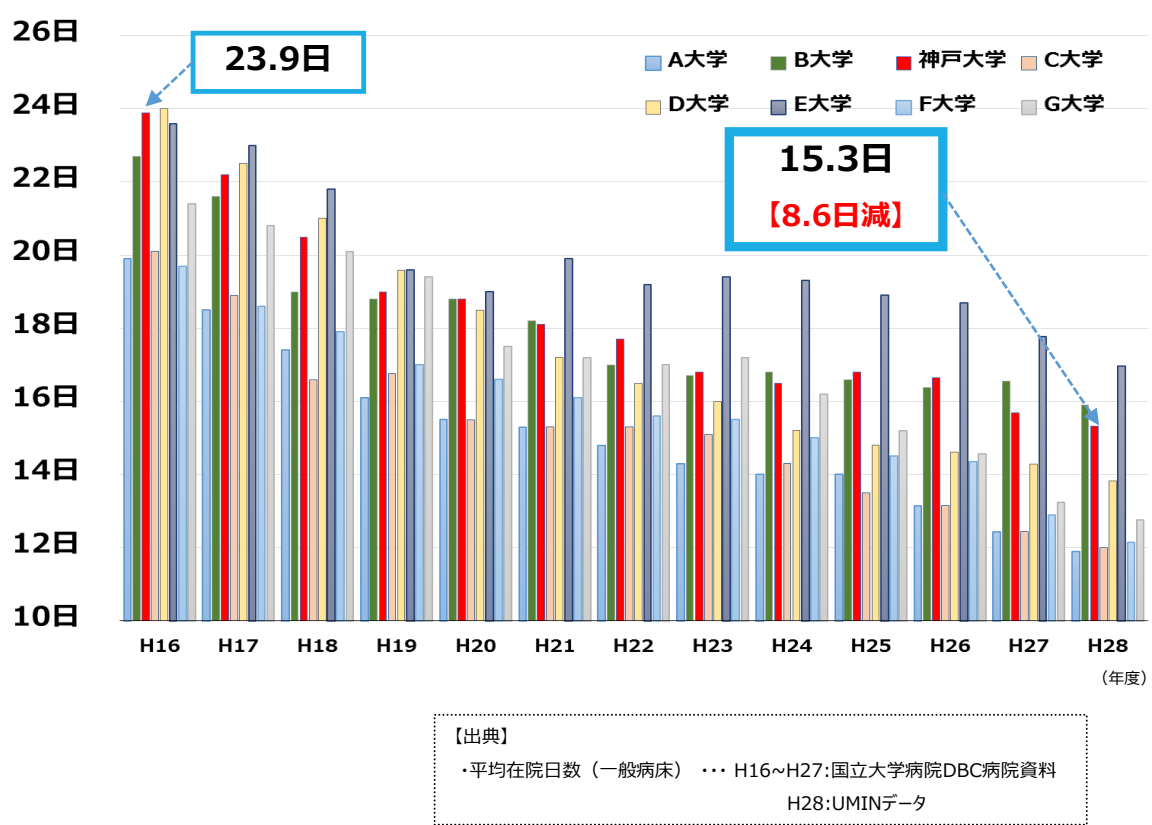
24-3 附属病院の病床稼働率・平均在院日数の推移

○ 平成28年度の本学の病床稼働率は92%であり、病床数が同規模である8国立大学の附属病院間で比較したところ**1位**であった。また、全国の国立大学附属病院における病床稼働率においても**1位**となっている。

病床稼働率の推移（H16～H28年度）
病床数が同規模である8国立大学について比較

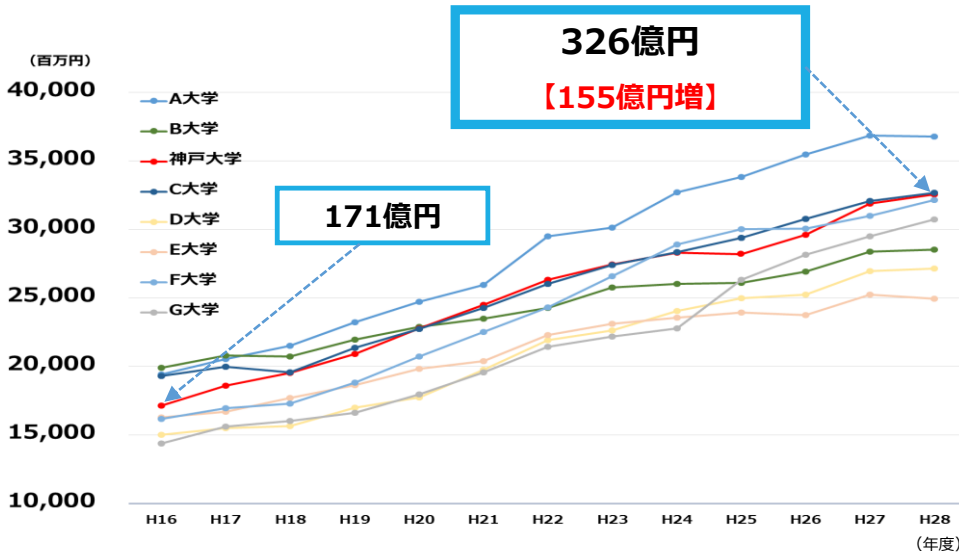


平均在院日数（一般病床）の推移（H16～H28年度）
病床数が同規模である8大学について比較



24-4 附属病院の診療報酬請求額の推移

診療報酬請求額の推移（H16～H28年度）
病床数が同規模である8国立大学について比較



○ 本学の平成28年度診療報酬請求額は326億円となっており、平成16年度と比べ155億円の増となっている。
本学の平成28年度診療報酬請求額の対前年度伸び率は、病床数が同規模である8国立大学の中で**3位(102%)**となっている。

《参考》

(千円)

大学名	病床数	運営費交付金 (H27年度)	大学名	病床数	運営費交付金 (H27年度)
A大学	1,035床	4,469,756	D大学	862床	3,218,596
B大学	946床	3,364,969	E大学	838床	3,568,569
神戸大学	934床	3,232,627	F大学	850床	3,722,508
C大学	849床	3,690,811	G大学	800床	2,610,974

【出典】

- ・診療報酬請求額 … H16～H27：国立大学病院DBC病院資料
H28：国立大学病院DBC診療報酬稼働額Webページ
- ・病床数 … 国立大学病院DBC病院資料（H28.6.1現在）
- ・運営費交付金 … 各大学の財務諸表（附属病院の運営費交付金収益）

その他 教育・研究・高度医療・地域医療 への貢献

教育

- 将来の医療を担う医療従事者の育成
- ・医学生、看護学生等の教育
 - ・初期研修医（85名）の指導
 - ・専門医の養成（プログラム登録者585名）
 - ・エキスパートコメディカルの育成（H29.5.1現在コース修了者135名）

診療

- ・地域の中核病院として専門性を有した質の高い医療の提供
- ・小児科、産科、救急医療など地域医療の充実のための診療部門における医療の提供
- ・中央診療棟の増築により手術室の拡張・増室など基盤強化した診療の提供



研究

- 臨床医学発展の推進と医療技術水準の向上への貢献
- ・新薬等開発のための臨床試験（治験）
 - ・先進医療の開発
ペルミンゲンペルプラスミドによる血管新生療法（適応症：閉塞性動脈硬化症等）
ロボット支援手術（適応症：腎癌等）ほか

社会貢献

- ・地域がん診療連携拠点病院
- ・災害拠点病院
- ・エイズ治療拠点病院
- ・2次救急医療機関（3次的機能病院）
- ・兵庫県総合周産期母子医療センター指定
- ・医師が不足している地域に医師を派遣

25. 附属学校

基本データ

平成29年5月1日現在

附属学校部	生徒数	クラス数	教諭数
附属幼稚園	117	6	7
附属小学校	424	12	20
附属中等教育学校	904	26	62
附属特別支援学校	50	9	31
計	1,495	53	120

- 附属幼稚園・小学校
(文部科学省事業)
・平成25年度～平成28年度 文部科学省 研究開発学校指定
- 附属中等教育学校
(文部科学省事業)
・平成27年度スーパーグローバルハイスクール (SGH) 指定
・平成25年度～平成28年度 文部科学省 研究開発学校指定

中等教育学校卒業生の進路状況

中等教育学校では、平成27年3月に初めての卒業生を輩出し、主に大学等へ進学している。

単位：人

区分	平成28年度入試			平成29年度入試		
	男	女	計	男	女	計
国公立大学	11	12	23	17	17	34
海外の大学	0	0	0	0	1	1
私立大学 (大学校含む)	20	41	61	21	37	58
短期大学	1	2	3	0	0	0
各種・専門学校	1	0	1	1	0	1
就職：企業等	0	0	0	0	0	0
就職：公務員	0	0	0	0	0	0
進学準備	36	13	49	30	11	41
計	69	68	137	69	66	135

【主な進学先】

(国公立大学)

神戸大学、北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学、京都府立医科大学、横浜市立大学、兵庫県立大学、大阪市立大学、大阪府立大学 他

(私立大学 (大学校を含む。))

自治医科大学、産業医科大学、防衛医科大学校、早稲田大学、慶應義塾大学、上智大学、明治大学、青山学院大学、東京理科大学、東京農業大学、関西学院大学、関西大学、同志社大学、立命館大学、近畿大学、甲南大学 他

(海外の大学)

Princeton University

教育実習等の実施

附属学校部では、神戸大学の学生を中心に教育実習や介護等体験を実施している。

附属学校部	実習の種類	実習者数 (人)
附属幼稚園	教育実習	14
附属小学校		23
附属中等教育学校		63
附属特別支援学校	介護等体験	22
		160

神戸大学dayの開催

平成29年5月

中等教育学校において4・5年生の生徒を対象とした、神戸大学全体及び各学部のガイダンスや講義を実施する「神戸大学day」を開催した。本取組は平成24年度から開催しており、平成29年度は神戸大学9学部から11名の教員と19名の学生が協力した。

【内容】

- ◇教育担当理事による神戸大学の概要等説明
- ◇神戸大学に進学した中等教育学校卒業生からの話
- ◇各学部ガイダンス・講義・質問対応

連携授業の実施

平成28年11月

経営学部の協力の下、六甲台第1キャンパスにある経営学部において、約120名の小学生・中等教育学校生及び保護者が大学の授業・実習を受けた。

【授業・実習内容】

- 『キャリアを考えると、人生のルールを決めること』
- 『会計は何を計算するのだろうか?』
- 『報告書を通じて企業が伝えたいこと』



26. 公開講座等

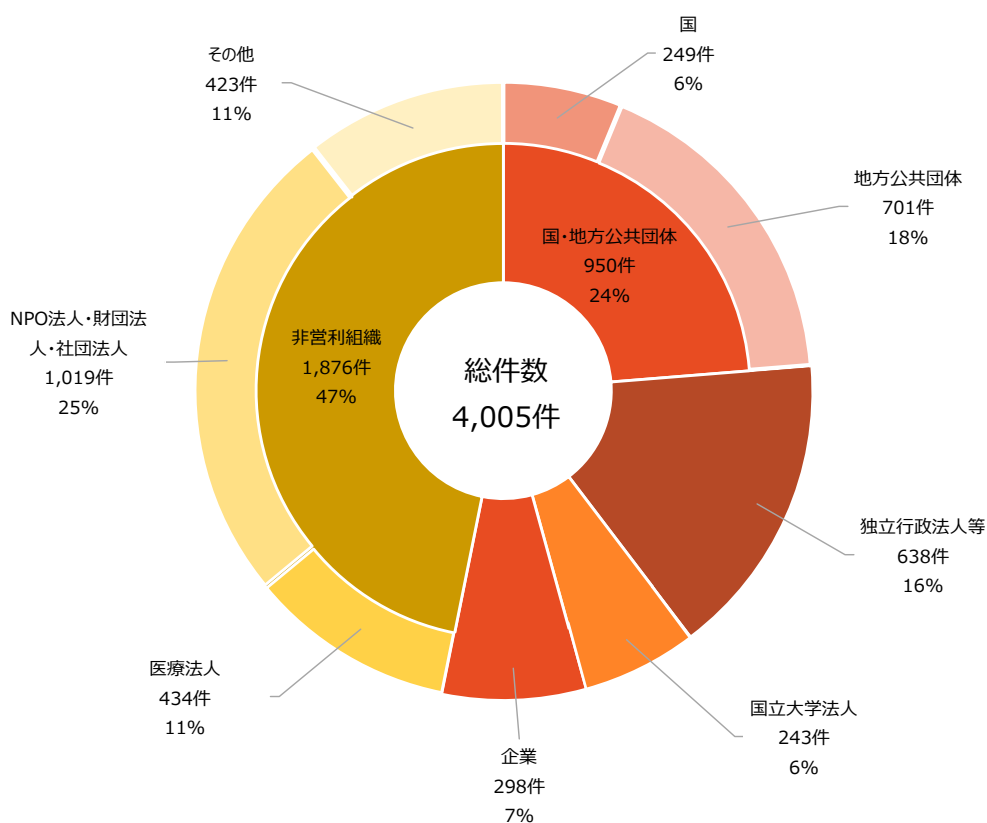
《平成28年度実施の公開講座等》

部 局 名	講 座 名	受講対象者	時間数 (時間)	募集人数 (人)	受講者数 (人)
全学	科学技術とイノベーション	一般市民、学生	6	180	32
人文学研究科	人文学と自然科学－学知探求の歴史と現在	一般市民、学生	6	100	88
	まちづくり地域歴史遺産活用講座2016	一般市民、学生	9	20	11
	まちづくり地域歴史遺産活用講座2016オプションプログラム古文書解説講座	一般市民	6	20	23
国際文化学研究所	移動からみる現代世界	一般社会人、学生(中学生以上)	6	200	129
人間発達環境学研究所	鶴甲いきいきまちづくりプロジェクト連続講座第9弾「園芸教室－野菜や草花を育ててみよう－」	鶴甲地区住民、教職員、学生	4.5	30	27
	鶴甲いきいきまちづくりプロジェクト連続講座第9弾「いきいきウォーキング－ウォーキングで脳とからだの健康づくり！－」	鶴甲地区住民、教職員、学生	12	50	28
	鶴甲いきいきまちづくりプロジェクト連続講座第10弾「園芸教室－野菜や草花を育ててみよう－」	鶴甲地区住民、教職員、学生	6	30	31
	鶴甲いきいきまちづくりプロジェクトアカデミックサロン第21回「神戸大学大学院生企画 鶴甲いきいきフェスティバル」	鶴甲地区住民、教職員、学生	2	—	49
	鶴甲いきいきまちづくりプロジェクトアカデミックサロン第22回「講習会&みんなでラジオ体操」	鶴甲地区住民、教職員、学生	1	—	46
	鶴甲いきいきまちづくりプロジェクトアカデミックサロン第23回「みんなで楽しもう！大学でひと味ちがう お月見会」	鶴甲地区住民、教職員、学生	2	30	52
	鶴甲いきいきまちづくりプロジェクトアカデミックサロン第24回「ビューティータッチセラピー」	鶴甲地区住民、教職員、学生	2	—	16
	鶴甲いきいきまちづくりプロジェクトアカデミックサロン第25回「うたとかり そしてピアノでつづる「子どもの心を描いた作曲家たち」	鶴甲地区住民、教職員、学生	2	—	52
	鶴甲いきいきまちづくりプロジェクト「防災避難訓練」	鶴甲地区住民、教職員、学生	2	—	100
	学術Weeks2016 音楽教育シンポジウム－音楽の喜びが生まれるとき－	小・中・高の教員及び生徒並びに保護者と教員志望の学生や地域住民及び一般市民	3	—	30
	学術Weeks2016 地域連携アートプロジェクト タイムスリップコンサート～英雄とはいかなる存在か～	地域住民及び一般市民並びに学生・生徒	3	—	50
	「こころの構造」からみる臨床上の諸問題	心理職、教員、学生	3	—	40
	ユーモア的即興から生まれる表現の創発：発達障害・新喜劇・ノリソウコミ	小学校や特別支援学校の教員、研究者、学生	4	—	100
	日本の授業を「再発見」するアメリカ研究者との対話を通して	小学校や特別支援学校の教員、研究者、学生	4	—	50
	さとうきび畑こんさあと in 神大－50年目の記憶－	学生、教員、一般	3	55	55
	シンポジウム「歌と文化的記憶－表現と社会」	学生、教員、研究者、一般	3.5	30	35
キャロル・オージャ教授 特別講演「Sono Osato:Politics, Ballet, and Broadway during World War II」	学生、教員、研究者、一般	1.5	40-50	約40	
理学部	サイエンスセミナー2016「サイエンス最前線」	高校生－一般市民	50分 (全9回)	120	77
医学部 (附属地域医療活性化センター)	地域医療シンポジウム2016 in ひょうご「地域医療のあり方と住民の地域医療教育への関わりを考える」	市民一般、行政関係者、医療従事者、学生、医療従事者を目指す高校生	6	100	90
	地域医療シンポジウム「今後の地域医療のあり方」	医師、看護師、地域住民など	2	300	300
	女性医師復職支援についての講演会	市民一般、行政関係者、医療従事者、学生	4	100	50
	ポリファーマシー講演会	市民一般、行政関係者、医療従事者、学生	2	100	50
	橋下セミナー	市民一般、行政関係者、医療従事者、学生	4	50	40
医学部附属病院	神戸大学医学部附属病院市民公開講座「がんに関する最新の免疫療法と療養・生活支援(地域がん診療連携拠点病院機能強化事業)」	一般市民	2	300	266
	神戸大学エキスパートメディカルスタッフ育成フォーラム「平成28年度災害・救急医療コースフォーラム」	市民一般、行政関係者、医療従事者、学生	1.5	40	68
	神戸大学エキスパートメディカルスタッフ育成フォーラム「周産期医療コースフォーラム」	市民一般、行政関係者、医療従事者、学生	1	200	173
	神戸大学エキスパートメディカルスタッフ育成フォーラム「地域病院における多職種協働の充実を目指して」	市民一般、行政関係者、医療従事者、学生	2	200	51
医学部附属病院 (総合臨床教育センター)	大リーガー医セミナー	研修医、学生、指導医、興味のある方	各1 (全9回)	180	190
	総合診療医養成特別セミナー「多様性に溢れる社会の中で、医療ができること、それぞれができること～介助犬とおして考える～」	一般市民、行政関係者、医療従事者、学生、興味のある方	3	80	51
	タイムマネジメント～仕事に、プライベートに、いつも時間にならなくていませんか～	市民一般、行政関係者、医療従事者、学生、興味のある方	3	40	44
医学研究科	第34回神戸大学大学院医学研究科公開講座「糖尿病治療の進歩」	一般市民、学生	6	100	70
保健学研究科	平成28年度神戸大学大学院保健学研究科市民講座「最新の研究から家庭の保健・医療へ」－心も体も健康に！－	一般市民、学生(高校生以上)	4	100	81
工学部	地球をきれいに－工学の挑戦－	一般社会人、学生、生徒	9	100	67
農学研究科	新しい機能性を有した食品素材を目指して	一般市民、学生(高校生以上)	3	100	56
海事科学研究科	災害に強い社会を考える	高校生、大学生、社会人	6.75	36	33
	海事博物館市民セミナー「神戸における海技者教育100年の歩み」	一般社会人、学生、生徒	各3 (全2回)	150	56
先端融合研究理・ 計算科学教育センター	神戸医療産業都市・京コンピュータ 一般公開	一般市民	6	—	980
経済経営研究所	AKB48の計算社会科学	一般市民、学生、教職員	4	500	300
経済経営研究所・社会システムイ ノベーションセンター共催	『べっぴんさん』の経営学	一般市民、学生、教職員	3	500	250
	海賊の選択：出光佐三の企業家精神	一般市民、学生、教職員	3	500	230
経済経営研究所・学術・産業イ ノベーション創造本部、大学院理学 研究科、理学部共催	梶田隆章教授 × 武田廣学長	一般市民、学生、教職員	4	500	300

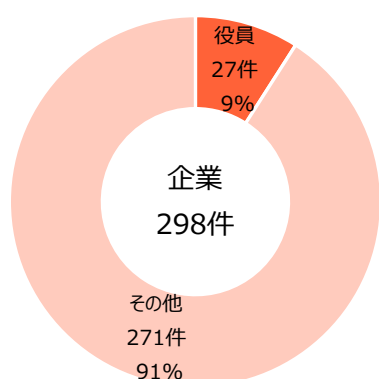
27. 学外機関への参画状況

- 本学教員の学外の機関への参画状況について、国・地方公共団体及び独立行政法人等への参画が40%、企業及び非営利組織への参画が54%となっている。
- 企業への参画件数298件のうち、27件（9%）は役員としての参画である。

◆組織別参画状況（H28年度）



◆企業への参画状況（H28年度）



- ※1 平成28年度に当該機関から委嘱されているものが対象（平成28年以前より継続しているものを含む）。1教員が複数機関から委嘱されている場合については、複数カウントしている。
- ※2 他大学等で教育に従事する者（非常勤講師等）は含めていない。

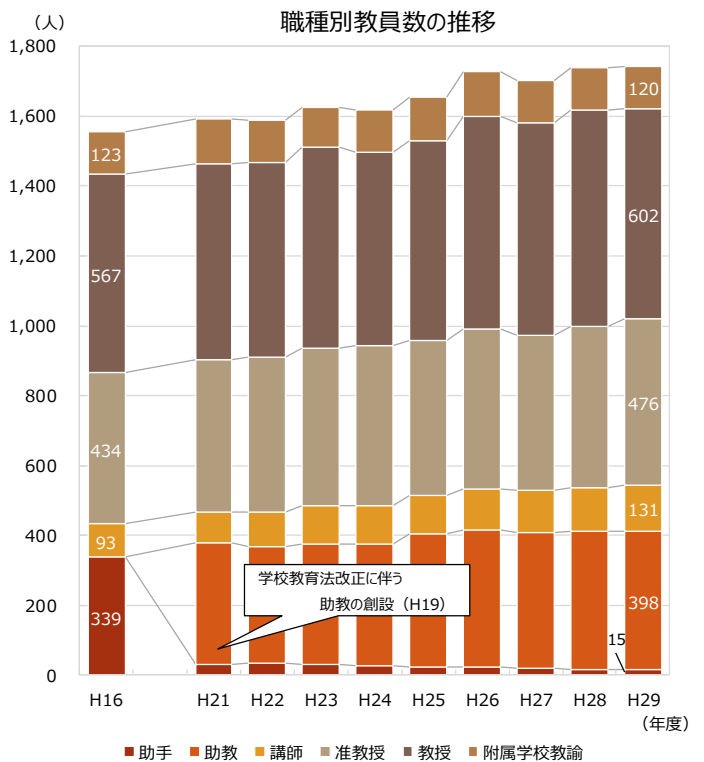
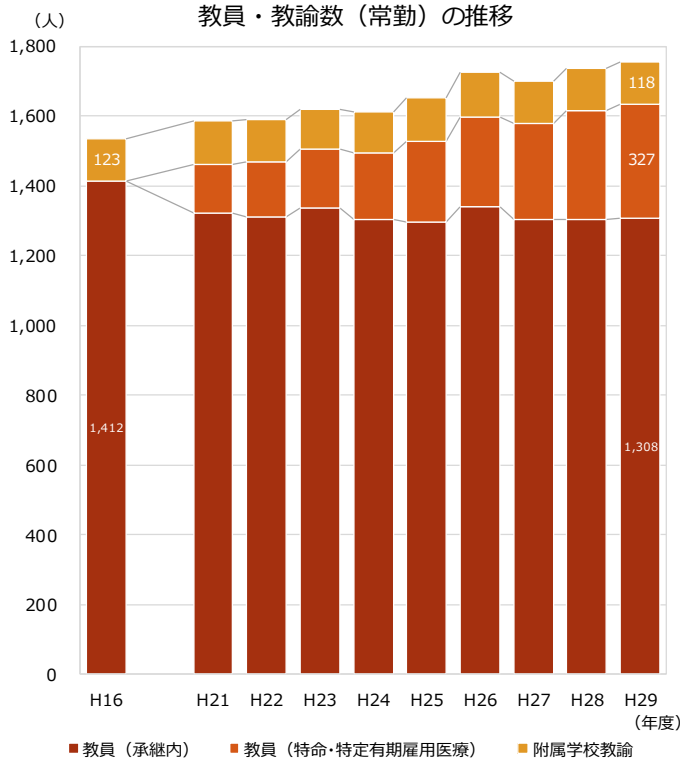
28. 教員

28-1 教員数の推移

法人化時より常勤教員（承継内）は減少し、特命教員及び特定有期雇用医療教員は増加している。

◆教員◆（神戸大学）

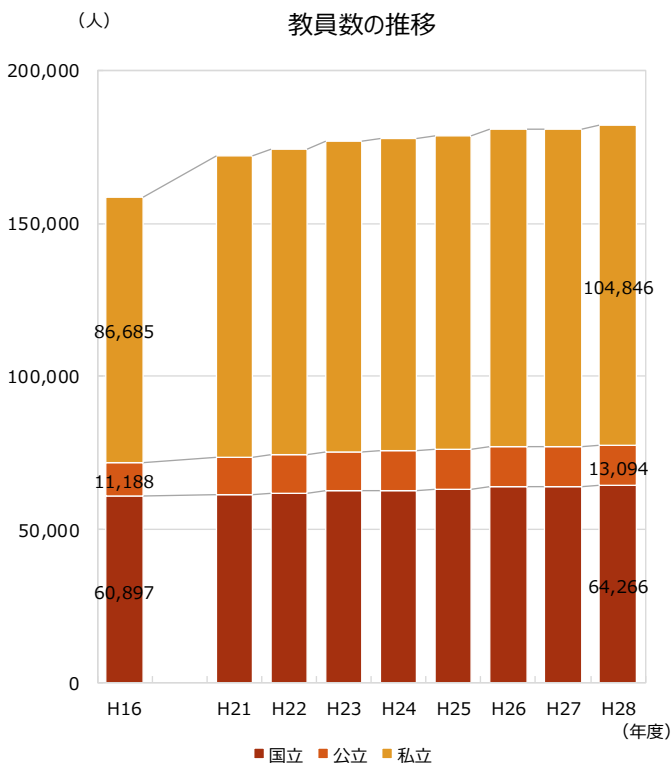
各年度5月1日現在



注）左図は休職者を含まない現員数、右図は休職者を含む数値を記載しているため、左右のグラフで教員の合計数は一致しない。

◆教員◆（全国）

各年度5月1日現在

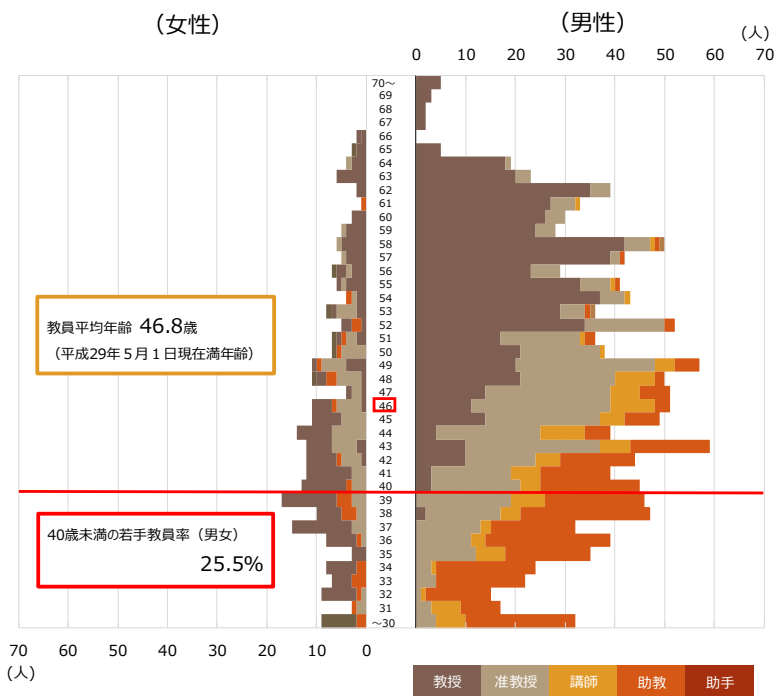


出典：文部科学省「学校基本調査」

28-2 若手教員・外国人教員・女性教員等の推移等

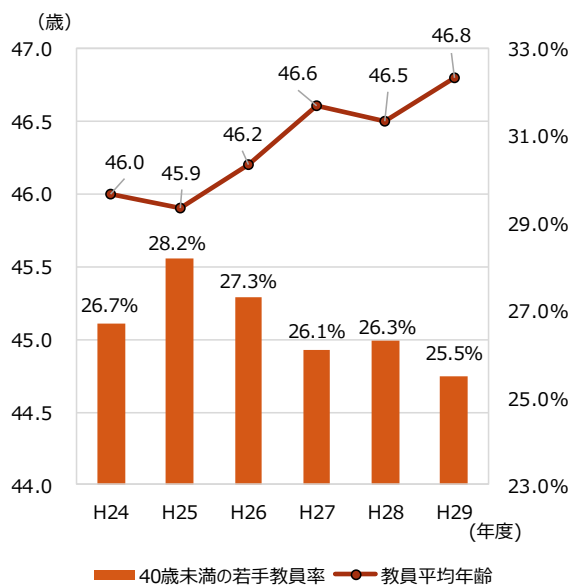
- 教員の平均年齢は、近年上昇傾向にあり、平成22年度から開始した定年延長の影響が現れていると言える。40歳未満の若手教員率については、平成25年度をピークに近年減少傾向にある。
- 外国人教員については、近年人数・割合ともに増加していたが、平成28年度は減少に転じ、平成29年度はわずかに回復した。
- 女性教員比率については、近年停滞気味ではあるが、ゆるやかに上昇している。

◆男女別・年齢別・職種別教員数◆
(神戸大学)

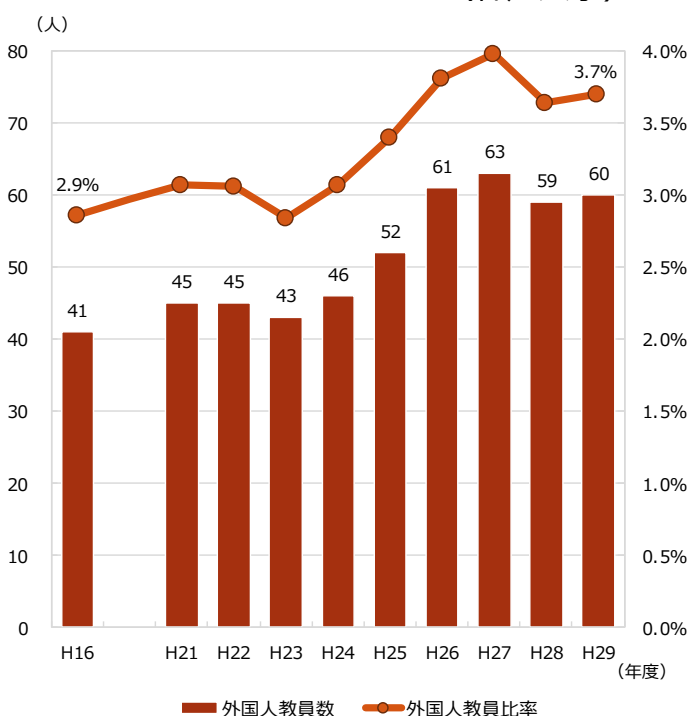


※教員平均年齢及び若手教員率算出には、役員・教諭の数を含めていない。

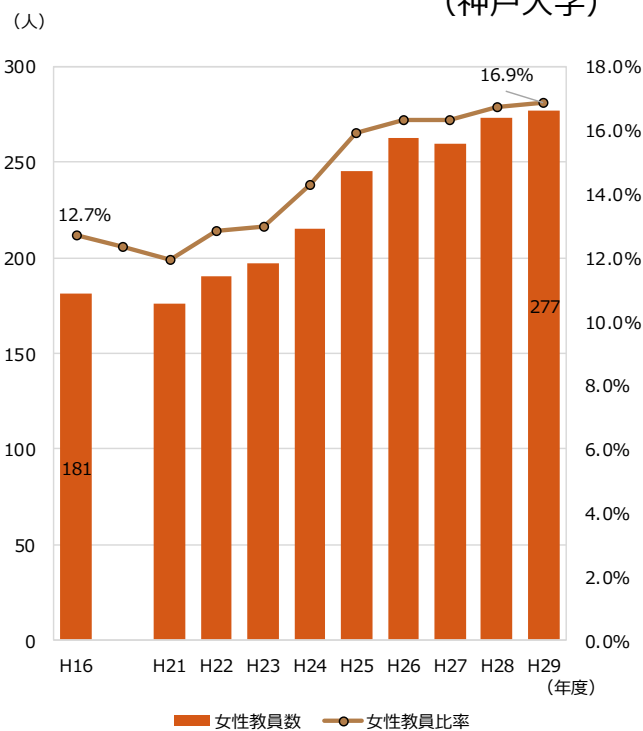
◆教員の平均年齢と若手教員率の推移◆
(神戸大学)



◆外国人教員数・外国人教員比率◆
(神戸大学)



◆女性教員数・女性教員比率の推移◆
(神戸大学)

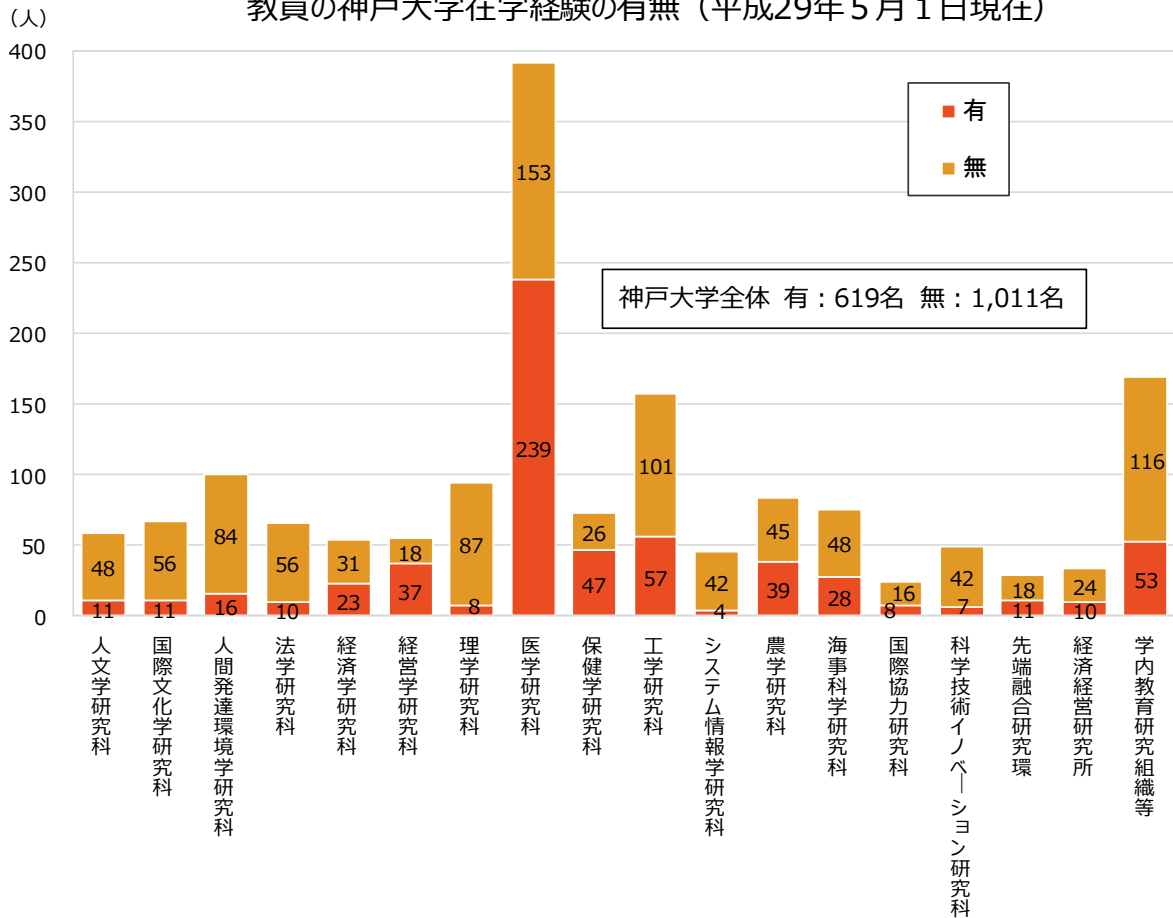


※平成29年5月1日現在の外国人教員の国籍は、中華人民共和国、アメリカ合衆国、大韓民国、ルーマニア、ドイツ及びフランス等20の国と地域となっている。

28-3 教員の神戸大学在学経験者

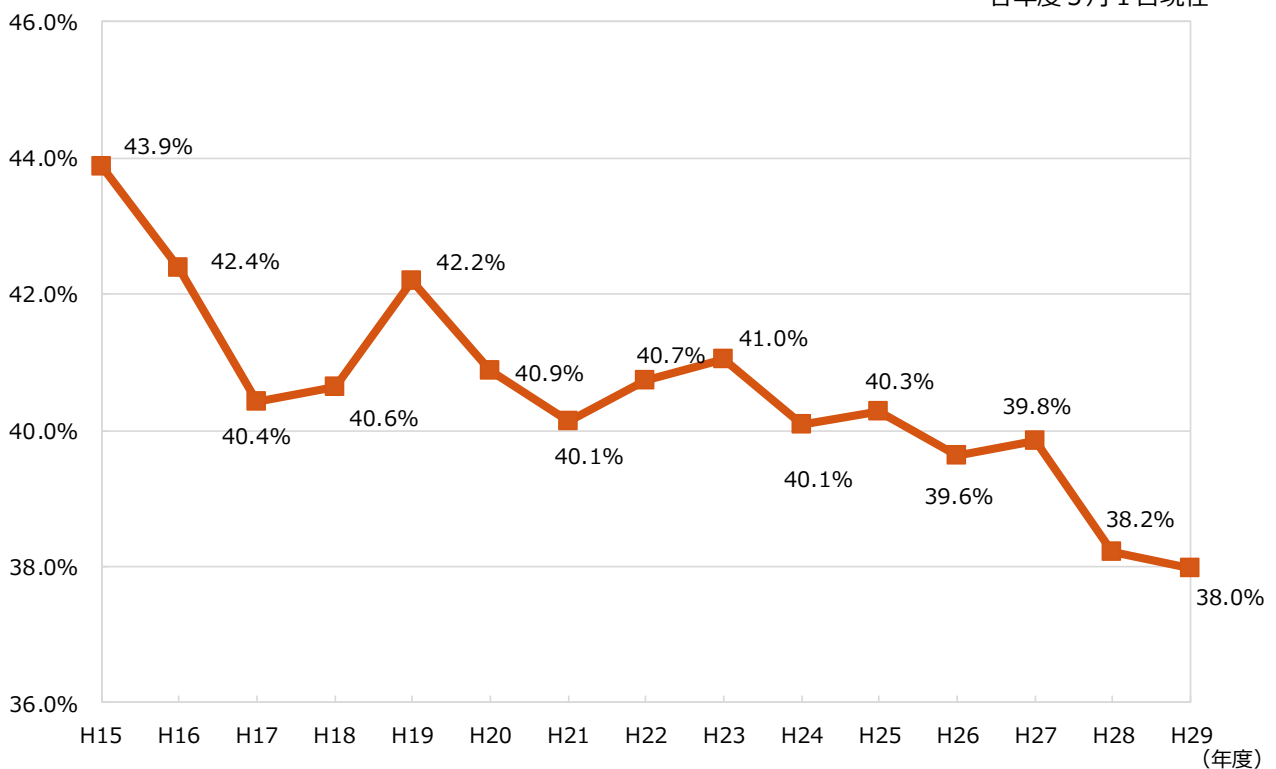
○ 教員の公募により幅広い人材の採用が進み、平成29年度には本学に在学した経験のある教員の比率は38.0%と過去最低となった。

教員の神戸大学在学経験の有無（平成29年5月1日現在）



教員の神戸大学在学経験者の推移

各年度5月1日現在

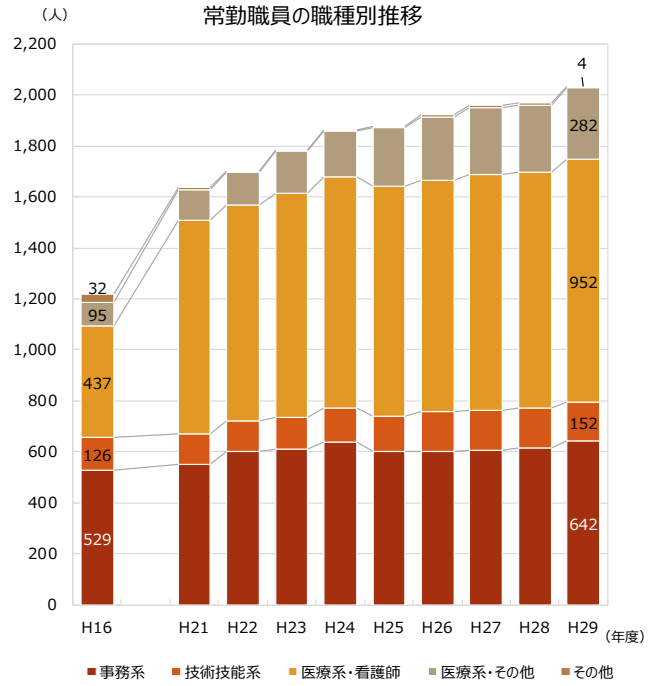
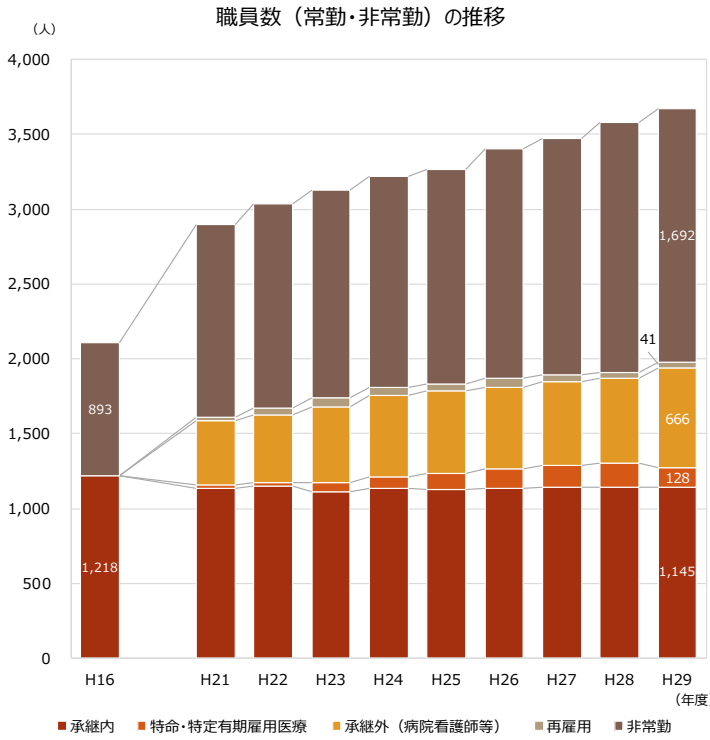


29. 職員

- 法人化時より常勤職員（承継内）が減少している一方、非常勤職員は大幅に増加している。職種別では、医療系職員が大幅に増加していることが分かる。
- また、女性職員については、法人化時に比べ人数・割合ともに大幅に増加しているが、これは看護師等の医療系職員の増加によるものである。

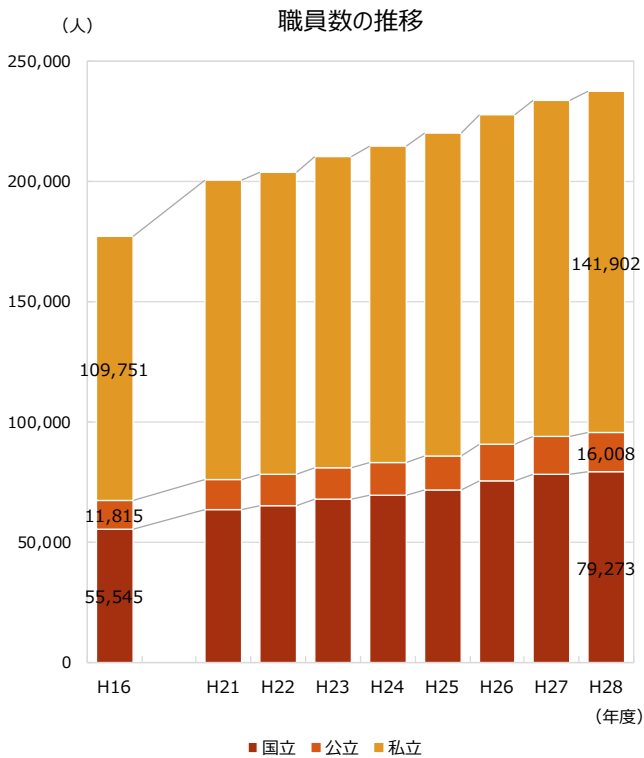
◆職員◆（神戸大学）

各年度5月1日現在

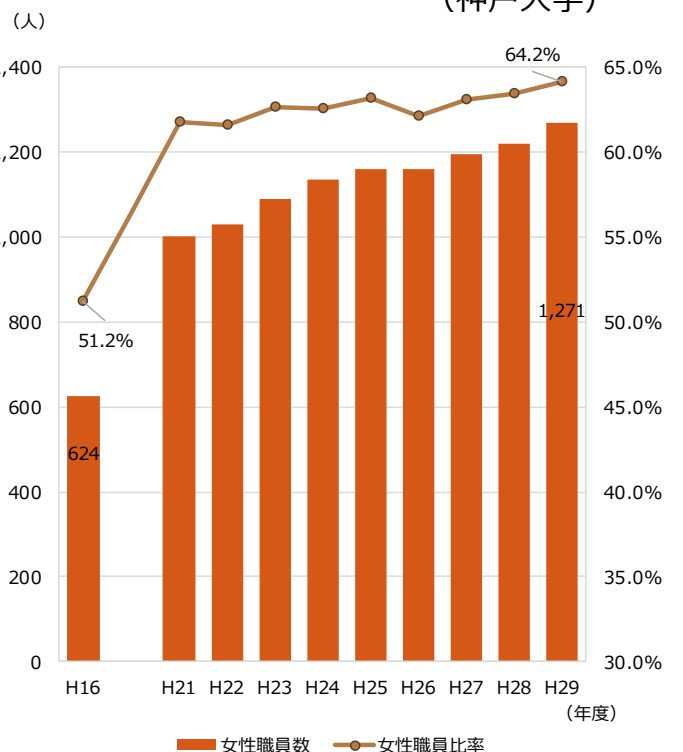


注）左図は休職者を含まない現員数を、右図は休職者を含む数値を記載しているため、左右のグラフで常勤職員の合計数は一致しない。

◆職員◆（全国）



◆女性職員数・女性職員比率の推移◆（神戸大学）



出典：文部科学省「学校基本調査」

30. 財務

30-1 貸借対照表の概要

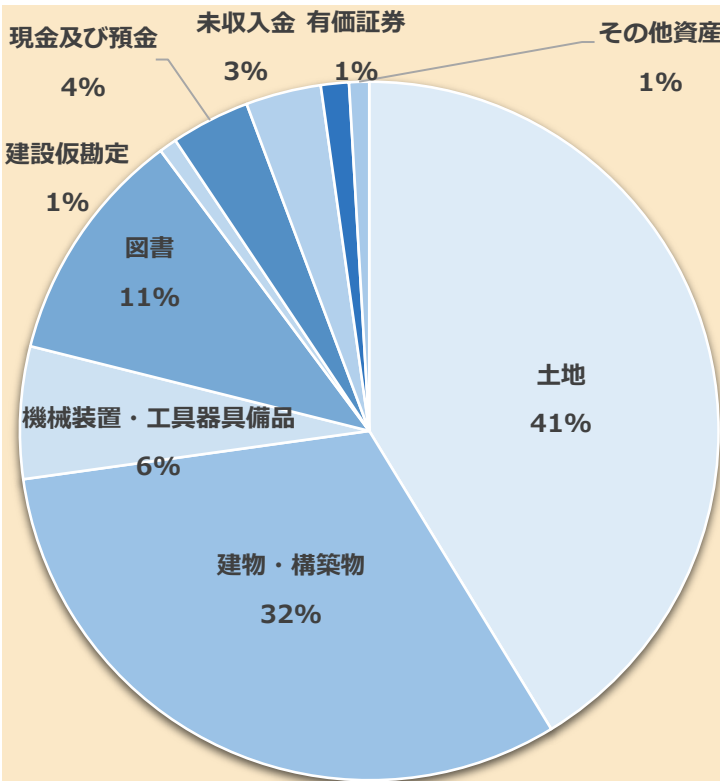
■ 建設仮勘定

建設仮勘定とは、建設中の建物などが完成するまでに支払った工事代などについて、いったん資産に仮計上しておくための仮の勘定科目です。工事が完了した時点で、建物などの勘定科目へ振り替えます。また、特許権取得に向けて発生する特許出願費用についても審査が降りるまでの間、建設仮勘定として計上を行います。

平成28年度には、新たな医療拠点「国際がん医療・研究センター」の設置に伴い建物及び器具備品を寄附金により取得しましたが、平成29年度の開院を迎えるまでの間、建設仮勘定として仮計上を行いました。それらを含めまして、前年度と比較すると約10億円の建設仮勘定の増加となりました。



▲国際がん医療・研究センター



資産	
土地	834.9
建物	600.8
構築物	36.6
機械装置・工具器具備品	123.6
図書	220.8
建設仮勘定	16.6
投資有価証券	20.2
その他固定資産	11.5
現金及び預金	73.9
未収入金	70.6
有価証券	6.0
その他流動資産	7.3
資産合計	2,022.7

■ 建物・構築物

平成29年3月に漕艇部によって使用されていた淀川艇庫および合宿所の取り壊しが行われました。こちらは大阪都市計画道路「淀川北岸線」事業に伴い、大阪市より淀川団地の土地の一部取得の依頼により生じたものです。平成29年度に再び艇庫及び合宿所が完成予定となっています。また、大学敷地内の急傾斜地において、法面の改修工事を行い、構内の安全対策を進めています。



▲法面（六甲台第2キャンパス）

■ 図書

国立大学法人が教育・研究活動を行ううえで基礎となるものです。時の経過や使用により価値が減少するものではなく、永続的に教育・研究活動に資する重要な財産であるため、資産として計上しており、平成28年度の蔵書数は約377万冊となりました。また、神戸大学は災害復興や地震研究・防災対策などに役立てていただけるよう震災にかかわる資料を収集し提供を行う、震災文庫を設けています。



▲社会科学系図書館 大閲覧室

■ 寄附金債務

寄附金債務とは、次年度へ繰り越して使用する寄附金の残高です。寄附金は、受け入れたときに寄附金債務としていったん負債計上し、経費の使用に応じて収益等へ振り替えます。

平成28年度には、寄附金を使用して、淀川艇庫及び合宿所の取り壊し工事や山口誓子記念館和室修繕工事を行ったり、全自動元素分析装置の購入などを行いました。

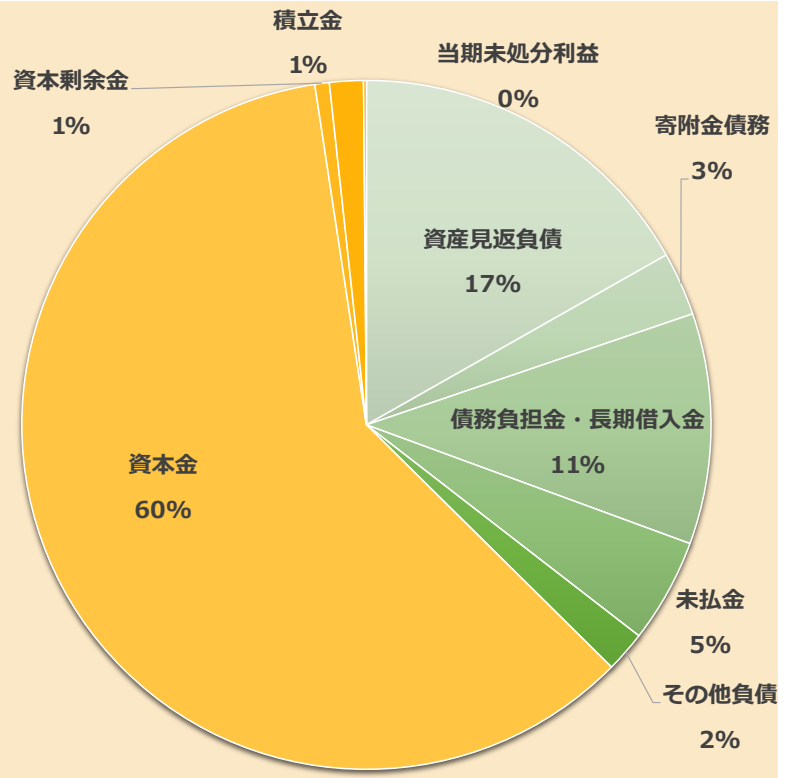
平成28度の寄附金債務の残高は60.4億円で、平成27年度と比べると約2.6億円の増加となりました。

(億円) 寄附金債務の推移

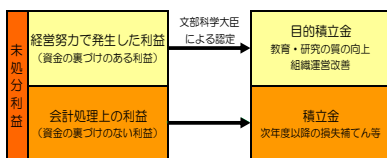


(単位：億円)

負債	
資産見返負債	339.6
寄附金債務	60.4
債務負担金・長期借入金	218.9
未払金	98.9
その他負債	38.8
負債合計	756.7
純資産	
資本金	1,217.5
資本剰余金	13.7
目的積立金	-
積立金	32.1
当期末処分利益	2.7
純資産合計	1,266.0
負債・純資産合計	2,022.7



■ 目的積立金と積立金について



未処分利益のうち、経営努力により生じた利益であると文部科学大臣の認定を受けたものについては、目的積立金として中期計画で定められた用途の範囲内において次年度以降、教育・研究の質の向上、組織運営改善のために使用することができます。

■ 資本金について

株式会社における資本金が収益を生み出すための原資であるのに対し、国立大学法人における資本金は教育研究事業を継続的に行うための財産的基礎として定義されます。具体的には、大学が法人化する以前より所有してきた土地・建物等の国有財産について国から現物出資された金額となります。本学においては、例えば六甲台地区にあります本館などが該当します。



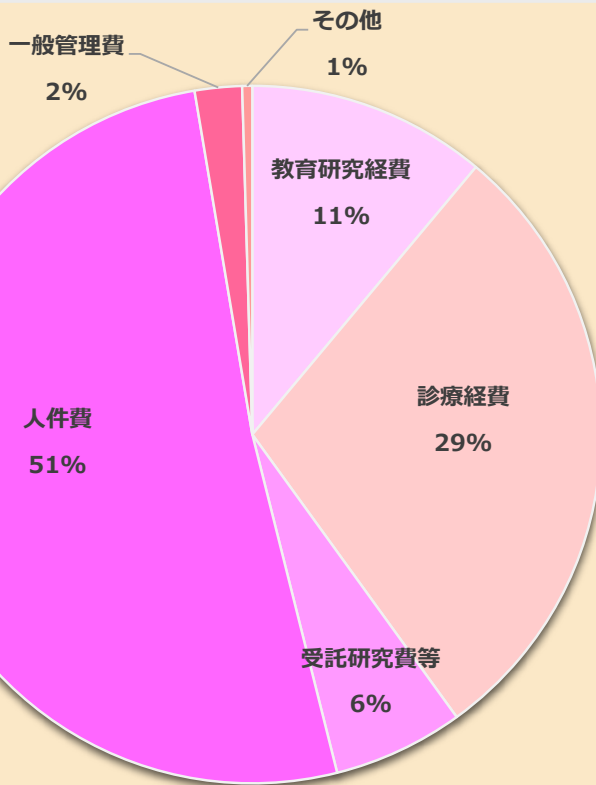
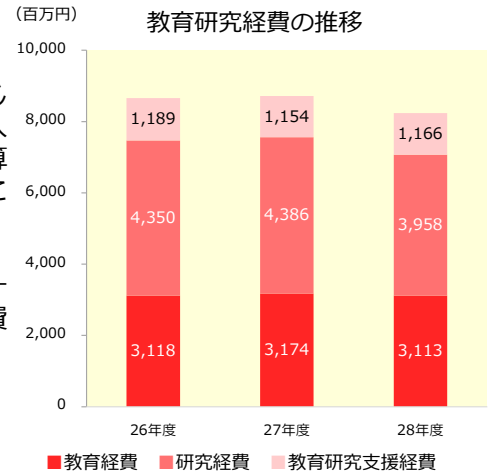
▲本館（経済・経営学研究所）

30-2 損益計算書の概要

■ 教育研究経費

国立大学法人の本来業務である教育研究を実施したことにより生じたコストを示しています。国立大学法人会計では、多額の公費が投入されていることに鑑み、説明責任を果たすという観点から、損益計算書において、教育経費や研究経費など費用を目的別に分類表示することが求められています。

平成28年度は第3期中期目標期間の初年度として、ビジョンの実現に向けて、様々な先端研究の推進や教育改革にも着手しました。一方で、光熱費の削減や減価償却費の逦減などが影響し、教育研究経費は前年度に比べて減少しています。



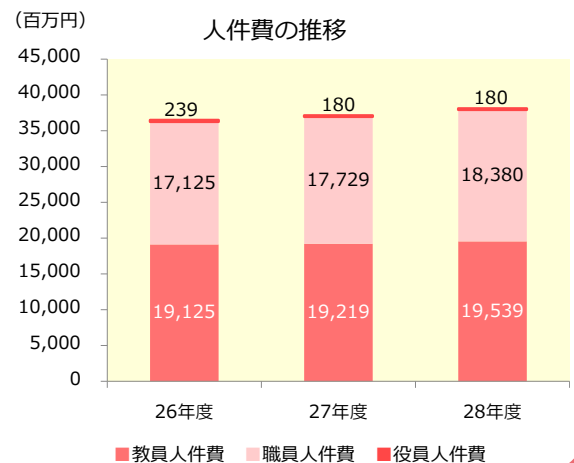
(単位：億円)

費用	
教育研究経費	82.4
診療経費	215.2
受託研究費等	45.0
人件費	381.0
一般管理費	16.3
その他	3.5
経常費用合計	743.3
臨時損失	0.4
当期総利益	2.7
計	746.4

■ 人件費

国立大学法人において、教職員は重要な財産であり、経常費用の約半分を占めています。平成28年度は、国家公務員の給与改定に一部準拠したこと、さらには、教員の年俸制への切り替えに伴う措置等により、前年度に比べて約9.7億円の増加となりました。

なお、国立大学法人は、「国立大学法人等の役員の報酬等及び職員の給与の水準の公表方法等について（ガイドライン）」に基づき、総務大臣が定める様式により役職員の給与等の水準を毎年度公表することとされており、本学ではこれをホームページにて公表しています。

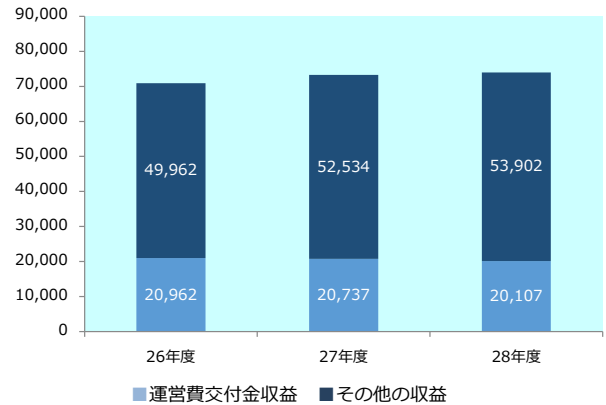


■ 経常収益

民間企業の場合、収益とは企業本来の営業活動から得られる売上高などを指しますが、国立大学法人の場合、利益の獲得を目的としないことから、収益とは「業務を実施するための財源」を表しています。

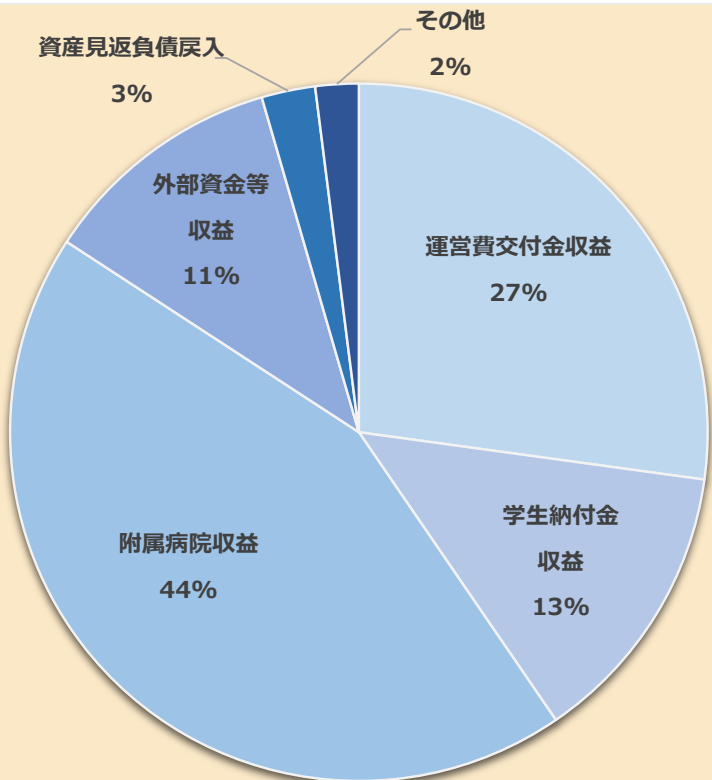
国立大学の業務運営のための基盤的財源として、国から運営費交付金が措置されていますが、現下の厳しい国の財政事情から、運営費交付金の交付額は年々減少しており、大学の財政は厳しい状況にあります。これを補うため、外部資金の獲得や自己収入の増収により、業務に必要な財源の確保に努めています。

(百万円) 経常収益の推移



(単位：億円)

収 益	
運営費交付金収益	201.1
学生納付金収益	98.3
附属病院収益	323.8
外部資金等収益	83.7
資産見返負債戻入	18.4
その他	14.8
経常収益合計	740.1
臨時利益	0.4
目的積立金取崩額	5.8
計	746.4



■ 目的積立金取崩額

平成27年度（第2期中期目標期間最終年度）の積立金の整理において、運営費交付金の未使用相当額については文部科学大臣の承認を得た上で、平成28年度に目的積立金として繰越しを行いました。繰り越した目的積立金は用途が決められており、経常費用の人件費（教職員の退職手当及び教員の年俸制導入促進経費）に充当し、同額を目的積立金取崩額として計上しています。

■ 当期総利益 2.7億円

平成28年度においては、外部資金の増収や電力需給契約の見直しによる光熱費の削減、また、附属病院の収支状況の大幅改善など、国立大学としての経営努力を行なったことにより、2.7億円の当期総利益が発生しました。今後、法令に基づき文部科学大臣へ目的積立金として申請を行い、大臣承認後、本学の教育研究の質の向上等の用途に充てることとしています。

30-3 貸借対照表

(単位：百万円)

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	前年比較
資産の部				
I 固定資産	196,666	191,269	186,499	△ 4,770
1 有形固定資産	193,569	188,291	184,142	△ 4,149
土地	83,525	83,525	83,488	△ 36
建物	111,135	113,009	113,245	236
減価償却累計額	△ 44,422	△ 48,995	△ 53,160	△ 4,165
減損損失累計額	△ 1	△ 1	△ 1	-
構築物	5,898	6,204	6,383	179
減価償却累計額	△ 2,266	△ 2,492	△ 2,723	△ 231
機械装置	517	746	751	5
減価償却累計額	△ 406	△ 427	△ 467	△ 40
工具器具備品	44,740	44,468	43,391	△ 1,077
減価償却累計額	△ 29,133	△ 31,316	△ 31,312	4
図書	22,037	22,177	22,076	△ 101
美術品・收藏品	754	754	756	3
船舶	445	447	451	4
減価償却累計額	△ 408	△ 413	△ 419	△ 6
車両運搬具	78	71	75	4
減価償却累計額	△ 50	△ 51	△ 55	△ 5
建設仮勘定	1,126	585	1,661	1,076
2 無形固定資産	350	339	326	△ 12
特許権	66	73	73	1
ソフトウェア	149	126	100	△ 26
著作権	51	51	51	-
電話加入権	1	1	1	-
産業財産権仮勘定	83	88	101	13
3 投資その他の資産	2,747	2,640	2,031	△ 609
投資有価証券	2,732	2,625	2,018	△ 607
長期貸付金	4	4	3	△ 1
貸倒引当金	△ 0	△ 0	△ 0	-
長期前払費用	1	1	2	0
長期未収入金	66	72	78	6
徴収不能引当金	△ 66	△ 72	△ 78	△ 6
差入敷金・保証金	10	10	9	△ 1
出資金	0	0	0	-
預託金	0	0	0	0
II 流動資産	17,376	15,492	15,770	278
現金及び預金	7,833	6,338	7,389	1,051
未収学生納付金収入	119	109	117	9
徴収不能引当金(未収学生納付金収入)	△ 0	△ 0	-	0
未収附属病院収入	5,655	5,882	5,834	△ 48
徴収不能引当金(未収附属病院収入)	△ 10	△ 11	△ 6	4
その他未収入金	678	708	1,009	302
未収還付消費税等	-	-	101	101
有価証券	2,500	1,901	601	△ 1,300
たな卸資産	26	22	25	3
医薬品及び診療材料	529	487	616	128
前渡金	2	25	38	13
前払費用	24	18	24	6
未収収益	11	8	8	△ 0
貸付金	1	1	1	0
立替金	8	4	14	9
その他流動資産	-	-	-	-
資産合計	214,042	206,761	202,269	△ 4,492

※金額は端数を四捨五入しているため、合計額等が一致しない場合があります。

財務諸表の附属明細書等については、神戸大学のホームページをご覧ください。

(<http://www.kobe-u.ac.jp/info/public-info/disclosure/law22/zaimu.html>)

(単位：百万円)

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	前年比較
負債の部				
I 固定負債	59,758	57,890	56,713	△ 1,176
資産見返負債	33,220	32,868	33,961	1,093
資産見返運営費交付金等	9,099	9,439	9,163	△ 277
資産見返施設費	5	5	5	△ 0
資産見返補助金等	2,077	2,002	1,904	△ 99
資産見返寄附金	3,136	3,163	3,251	87
資産見返物品受贈額	18,309	18,202	17,920	△ 282
建設仮勘定見返運営費交付金等	235	3	2	△ 2
建設仮勘定見返施設費	269	-	21	21
建設仮勘定見返寄附金	52	4	1,637	1,633
その他の資産見返負債	37	48	61	12
長期寄附金債務	3	3	3	△ 1
大学改革支援・学位授与機構債務負担金	7,433	6,321	5,243	△ 1,078
長期借入金	15,513	15,541	14,220	△ 1,320
退職給付引当金	343	384	414	30
資産除却債務	22	122	126	3
長期未払金	3,224	2,650	2,746	95
II 流動負債	23,222	19,524	18,958	△ 566
運営費交付金債務	858	-	209	209
預り補助金等	0	-	-	-
寄附金債務	5,760	5,779	6,037	258
前受受託研究費	842	1,043	1,161	119
前受共同研究費	-	-	310	310
前受受託事業費等	55	93	51	△ 42
前受金	262	194	261	67
預り科学研究費補助金等	413	430	471	40
預り金	461	502	520	18
一年以内返済予定大学改革支援・学位授与機構債務負担金	1,130	1,112	1,078	△ 35
一年以内返済予定長期借入金	1,024	1,223	1,352	128
未払金	11,423	8,109	6,495	△ 1,614
未払費用	623	644	652	8
未払消費税等	65	72	-	△ 72
賞与引当金	305	324	362	38
その他流動負債	0	-	-	-
負債合計	82,980	77,413	75,671	△ 1,742
純資産の部				
I 資本金	121,770	121,770	121,752	△ 18
政府出資金	121,770	121,770	121,752	△ 18
II 資本剰余金	5,575	3,782	1,371	△ 2,411
資本剰余金	38,509	39,572	39,805	233
損益外減価償却累計額 (△)	△ 32,929	△ 35,781	△ 38,428	△ 2,647
損益外減損損失累計額 (△)	△ 1	△ 1	△ 1	-
損益外利息費用累計額 (△)	△ 5	△ 9	△ 6	3
III 利益剰余金(繰越欠損金)	3,718	3,796	3,475	△ 320
前中期目標期間繰越積立金	1,451	1,451	3,206	1,755
大学運営改善積立金	34	-	-	-
積立金(前期繰越欠損金)	3,057	2,233	-	△ 2,233
当期未処分利益(又は当期未処理損失)	△ 825	112	269	157
(うち当期総利益又は当期総損失)	(△ 825)	(112)	(269)	(157)
純資産合計	131,063	129,347	126,598	△ 2,750
負債・純資産合計	214,042	206,761	202,269	△ 4,492

※国立大学法人会計基準の改訂に伴い、当事業年度より、貸借対照表の「前受受託研究費等」を「前受受託研究費」及び「前受共同研究費」に区分して表示しています。

30-4 損益計算書

(単位：百万円)

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	前年比較
経常費用				
業務費	69,472	71,395	72,354	959
教育経費	3,118	3,174	3,113	△ 61
研究経費	4,350	4,386	3,958	△ 428
診療経費	20,656	21,761	21,515	△ 246
材料費	11,509	12,227	12,349	121
委託費	1,842	1,932	1,977	46
設備関係費	5,387	5,841	5,579	△ 262
研修費	1	0	1	0
経費	1,917	1,761	1,610	△ 151
教育研究支援経費	1,189	1,154	1,166	12
受託研究費	2,973	3,167	2,918	△ 249
共同研究費	-	-	870	870
受託事業費	699	624	713	89
役員人件費	239	180	180	△ 0
教員人件費	19,125	19,219	19,539	321
常勤教員給与	18,264	18,359	18,722	363
非常勤教員給与	861	859	817	△ 42
職員人件費	17,125	17,729	18,380	651
常勤職員給与	12,570	13,097	13,695	598
非常勤職員給与	4,555	4,632	4,685	53
一般管理費	1,950	1,981	1,626	△ 355
財務費用	370	363	332	△ 31
支払利息	370	363	332	△ 31
その他財務費用	-	1	-	△ 1
雑損	20	11	14	3
経常費用計	71,813	73,750	74,325	575
経常収益				
運営費交付金収益	20,962	20,737	20,107	△ 629
授業料収益	8,376	8,279	8,268	△ 11
入学金収益	1,271	1,260	1,256	△ 4
検定料収益	305	299	304	5
附属病院収益	29,526	31,692	32,377	685
受託研究収益	2,975	3,180	3,039	△ 141
国及び地方公共団体からの受託研究収益	590	152	225	73
国及び地方公共団体以外からの受託研究収益	2,385	3,028	2,814	△ 214
共同研究収益	-	-	879	879
国及び地方公共団体からの共同研究収益	-	-	12	12
国及び地方公共団体以外からの共同研究収益	-	-	868	868
受託事業等収益	675	613	742	129
国及び地方公共団体からの受託事業等収益	318	368	402	34
国及び地方公共団体以外からの受託事業等収益	357	245	340	95
補助金等収益	1,321	1,760	1,359	△ 401
施設費収益	33	76	35	△ 41
寄附金収益	2,271	2,079	2,318	239
資産見返負債戻入	1,765	1,772	1,842	70
資産見返運営費交付金等戻入	626	702	704	2
資産見返施設費戻入	0	0	0	-
資産見返補助金等戻入	470	446	350	△ 96
資産見返寄附金戻入	535	517	505	△ 12
資産見返物品受贈額戻入	133	106	282	176
財務収益	29	26	21	△ 6
受取利息	13	11	4	△ 6
有価証券利息	15	16	16	0
その他の財務収益	0	-	0	0
雑益	1,413	1,497	1,463	△ 35
研究関連収入	811	755	718	△ 37
財産貸付料収益	108	226	226	1
宿舍貸付料収益	82	82	85	3
寄宿料収益	124	134	133	△ 1
その他雑益	288	301	300	△ 1
経常収益計	70,924	73,270	74,010	740
経常利益（又は経常損失）	△ 888	△ 480	△ 315	165

(単位：百万円)

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	前年比較
臨時損失	79	75	41	△ 34
固定資産除却損	65	32	31	△ 1
固定資産売却損	-	-	-	-
損害賠償金及び和解金	14	42	10	△ 32
臨時利益	107	662	41	△ 621
運営費交付金収益	-	589	-	△ 589
資産見返運営費交付金等戻入	14	2	0	△ 2
資産見返補助金等戻入	0	0	0	0
資産見返寄附金戻入	32	18	8	△ 10
資産見返物品受贈額戻入	0	0	0	0
施設費収益	15	-	4	4
徴収不能引当金戻入	9	-	-	-
受取保険金	37	52	29	△ 23
当期純利益（当期純損失）	△ 859	107	△ 316	△ 423
目的積立金取崩額	35	5	585	580
当期総利益（当期総損失）	△ 825	112	269	157

※国立大学法人会計基準の改訂に伴い、当事業年度より、損益計算書の「受託研究費」を「受託研究費」及び「共同研究費」に、「受託研究等収益」を「受託研究収益」及び「共同研究収益」に区分して表示しています。

30-5 キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	前年比較
I 業務活動によるキャッシュ・フロー	4,513	6,271	7,660	1,388
原材料、商品又はサービスの購入による支出	△ 25,058	△ 25,440	△ 25,927	△ 487
人件費支出	△ 36,682	△ 38,128	△ 39,042	△ 914
その他の業務支出	△ 1,810	△ 1,570	△ 1,564	6
運営費交付金収入	20,720	21,105	20,566	△ 539
授業料収入	7,844	7,660	7,646	△ 15
入学金収入	1,225	1,250	1,227	△ 23
検定料収入	305	299	304	5
附属病院収入	29,335	31,439	32,405	967
受託研究収入	3,147	3,434	3,256	△ 177
共同研究収入	-	-	922	922
受託事業等収入	602	627	750	123
補助金等収入	1,421	2,060	1,453	△ 607
寄附金収入	1,970	2,018	4,080	2,062
その他の業務収入	1,493	1,448	1,515	68
預り科学研究費補助金等の増減額	△ 1	69	72	3
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 6,775	△ 3,254	△ 2,441	813
定期預金等の預入による支出	△ 30,300	△ 30,450	△ 31,850	△ 1,400
定期預金等の払戻による収入	31,700	32,750	32,450	△ 300
有価証券の取得による支出	△ 28,011	△ 19,600	△ 1,500	18,100
有価証券の償還による収入	31,100	20,300	3,400	△ 16,900
有形固定資産の取得による支出	△ 13,182	△ 7,086	△ 5,217	1,869
無形固定資産の取得による支出	△ 123	△ 112	△ 121	△ 9
有形固定資産及び無形固定資産の売却による収入	-	0	51	51
施設費による収入	2,004	908	345	△ 564
大学改革支援・学位授与機構への納付による支出	-	-	△ 25	△ 25
利息及び配当金の受取額	37	36	27	△ 9
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	2,059	△ 2,213	△ 3,568	△ 1,355
リース債務の返済による支出	△ 930	△ 940	△ 929	11
大学改革支援・学位授与機構債務負担金の返済による支出	△ 1,158	△ 1,130	△ 1,112	18
長期借入金の返済による支出	△ 475	△ 1,024	△ 1,223	△ 199
長期借入金の借入による収入	4,998	1,251	31	△ 1,219
利息の支払額	△ 376	△ 370	△ 334	35
IV 資金増加額（又は減少額）	△ 204	805	1,651	846
V 資金期首残高	1,837	1,633	2,438	805
VI 資金期末残高	1,633	2,438	4,089	1,651

※国立大学法人会計基準の改訂に伴い、当事業年度より、キャッシュ・フロー計算書の「受託研究等収入」を「受託研究収入」及び「共同研究収入」に区分して表示しています。

30-6 国立大学法人等業務実施コスト計算書

(単位：百万円)

財務

区分	平成26年度	平成27年度	平成28年度	前年比較
I 業務費用	25,084	24,927	23,735	△ 1,192
(1) 損益計算書上の費用	71,891	73,825	74,366	541
業務費	69,472	71,395	72,354	959
一般管理費	1,950	1,981	1,626	△ 355
財務費用	370	363	332	△ 31
雑損	20	11	14	3
臨時損失	79	75	41	△ 34
(2) (控除) 自己収入等	△ 46,807	△ 48,898	△ 50,632	△ 1,733
授業料収益	△ 8,376	△ 8,279	△ 8,268	11
入学金収益	△ 1,271	△ 1,260	△ 1,256	4
検定料収益	△ 305	△ 299	△ 304	△ 5
附属病院収益	△ 29,526	△ 31,692	△ 32,377	△ 685
受託研究収益	△ 2,975	△ 3,180	△ 3,039	141
共同研究収益	-	-	△ 879	△ 879
受託事業等収益	△ 675	△ 613	△ 742	△ 129
寄附金収益	△ 2,271	△ 2,079	△ 2,318	△ 239
資産見返運営費交付金等戻入	△ 150	△ 139	△ 141	△ 2
資産見返寄附金戻入	△ 535	△ 517	△ 505	12
財務収益	△ 29	△ 26	△ 21	6
財産貸付料収益	△ 108	△ 226	△ 226	△ 1
宿舍貸付料収益	△ 82	△ 82	△ 85	△ 3
寄宿料収益	△ 124	△ 134	△ 133	1
徴収不能引当金	-	-	△ 5	△ 5
その他引当金戻入	-	-	△ 1	△ 1
その他の雑益	△ 288	△ 301	△ 295	6
臨時利益	△ 90	△ 71	△ 37	34
II 損益外減価償却等相当額	2,866	2,917	2,744	△ 173
III 損益外減損損失相当額	-	-	-	-
IV 損益外利息費用相当額	0	4	0	△ 4
V 損益外除売却差額相当額	1	1	△ 45	△ 46
VI 引当外賞与増加見積額	75	△ 26	66	91
VII 引当外退職給付増加見積額	△ 1,396	343	△ 24	△ 367
VIII 機会費用	545	81	172	90
国又は地方公共団体の無償又は減額された使用料による貸借取引の機会費用	48	81	92	11
政府出資の機会費用	497	-	79	79
無利子又は通常よりも有利な条件による融資取引の機会費用	-	-	-	-
IX 国立大学法人等業務実施コスト	27,176	28,248	26,648	△ 1,600

※国立大学法人等の業務運営に関して最終的に国民（納税者）が負担するコストを示したものです。国民の皆様が国立大学法人等の業務を評価、判断しやすくするために作成しています。

※国立大学法人会計基準の改訂に伴い、当事業年度より、国立大学法人等業務実施コスト計算書の「受託研究等収益」を「受託研究収益」及び「共同研究収益」に区分して表示しています。

(単位：百万円)

区分	予算額	決算額	差額
収入			
運営費交付金	20,562	20,566	4
施設整備費補助金	294	294	0
補助金等収入	1,744	1,614	△ 131
大学改革支援・学位授与機構施設費交付金	78	51	△ 27
自己収入	41,615	42,421	806
授業料、入学料及び検定料収入	9,361	9,176	△ 184
附属病院収入	31,571	32,405	833
財産処分収入	-	97	97
雑収入	683	743	60
産学連携等研究収入及び寄附金収入等	6,323	11,655	5,331
引当金取崩	-	369	369
長期借入金収入	-	31	31
貸付回収金	3	1	△ 1
目的積立金取崩	30	585	555
計	70,650	77,587	6,937
支出			
業務費	59,652	59,511	△ 141
教育研究経費	29,489	29,337	△ 152
診療経費	30,163	30,174	11
施設整備費	372	376	4
補助金等	1,744	1,614	△ 131
産学連携等研究経費及び寄附金事業費等	6,324	9,620	3,297
貸付金	3	1	△ 1
長期借入金償還金	2,556	2,554	△ 2
大学改革支援・学位授与機構施設費納付金	-	25	25
計	70,650	73,700	3,050
収入－支出	-	3,887	3,887

※決算報告書は、予算の執行状況を明らかにするために作成が義務付けられている書類です。基本的には現金主義のもと作成されるため、発生主義のもと作成される損益計算書とは数値が一致しません。

31. 学外・一般向け施設等

附属図書館

(平成28年度末蔵書数：3,773,287冊)

(平成28年度貸出冊数：278,857冊)

(平成28年度入館者数：933,960人)

学内4つのキャンパスに9つの館室を配置し教育研究支援を展開している。地域・社会との連携協力の一環として、平成16年度より毎年資料展を実施。平成28年度は資料展「モダン神戸の光と影～『新聞記事文庫データベース』より～」を開催。



海事博物館

(平成28年度来館者数：2,136人)

海事に関する資料を幅広く収集展示して教育研究の資に供し、あわせて海事の啓発に寄与することを目的とする施設で、和船模型と和船の部分実物や航路図、近代から現代の船舶模型や近代の航海用具、進水式絵葉書、寄贈コレクションや書籍など約3万点を収蔵する。毎週、月・水・金の午後に開館

附属図書館大学文書史料室

(平成28年度来場者数：2,729人)

(常設展のみ)

特定歴史公文書等その他本学の歴史に係る資料を保存するとともに、一般の利用に供することを目的とする施設。

神戸大学の110年を超える伝統ある歴史を、貴重な歴史資料や写真等で振り返ることができる展示を実施。

常設の展示会だけでなく、年1回の特別展や東京等での巡回展も開催。



山口誓子記念館

(平成28年度利用者数：598人)

近代俳句に大きな足跡を残した山口誓子氏の居宅の母屋を、ほぼ忠実に復元した施設。俳句俳諧文学を中心とする国文学研究の振興や海外との学術交流等に広く寄与することを目的とし、句会や茶会などにも利用できる。

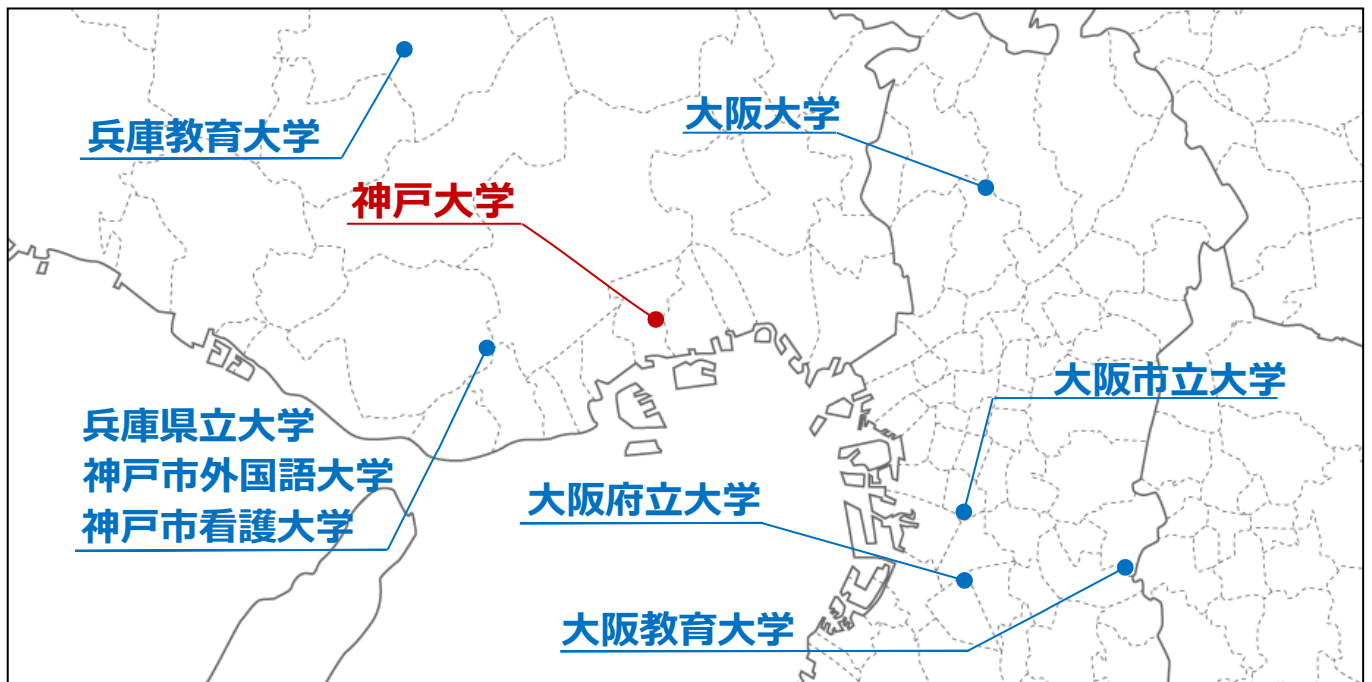
近隣国公立大学のデータ・地図

大学名	神戸大学	大阪大学	大阪府立大学	大阪市立大学	兵庫県立大学
学部	<ul style="list-style-type: none"> 文学部 国際人間科学部 (※1) 国際文化学部 (※2) 発達科学部 (※2) 法学部 経済学部 経営学部 理学部 医学部 工学部 農学部 海事科学部 	<ul style="list-style-type: none"> 文学部 人間科学部 外国語学部 法学部 経済学部 理学部 医学部 歯学部 薬学部 工学部 基礎工学部 	<ul style="list-style-type: none"> 現代システム科学域 工学域 生命環境科学域 地域保健学域 	<ul style="list-style-type: none"> 商学部 経済学部 法学部 文学部 理学部 工学部 医学部 生活科学部 	<ul style="list-style-type: none"> 経済学部 経営学部 工学部 理学部 環境人間学部 看護学部
大学院	<ul style="list-style-type: none"> 人文学研究科 国際文化学研究科 人間発達環境学研究科 法学研究科 (・法科大学院) 経済学研究科 経営学研究科 (・経営専門職大学院) 理学研究科 医学研究科 保健学研究科 工学研究科 システム情報学研究科 農学研究科 海事科学研究科 国際協力研究科 科学技術イノベーション研究科 	<ul style="list-style-type: none"> 文学研究科 人間科学研究科 法学研究科 経済学研究科 理学研究科 医学系研究科 歯学研究科 薬学研究科 工学研究科 基礎工学研究科 言語文化研究科 国際公共政策研究科 情報科学研究科 生命機能研究科 高等司法研究科 (法科大学院) 大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究科 	<ul style="list-style-type: none"> 工学研究科 生命環境科学研究科 理学系研究科 経済学研究科 人間社会システム科学研究科 看護学研究科 総合リハビリテーション学研究科 	<ul style="list-style-type: none"> 経営学研究科 経済学研究科 法学研究科 (・法科大学院) 文学研究科 理学研究科 工学研究科 医学研究科 看護学研究科 生活科学研究科 創造都市研究科 	<ul style="list-style-type: none"> 経済学研究科 経営学研究科 工学研究科 物質理学研究科 生命理学研究科 環境人間研究科 看護学研究科 応用情報科学研究科 シミュレーション学研究科 地域資源マネジメント研究科 会計研究科 (専門職) 経営研究科 (専門職) 緑環境景観マネジメント研究科 (専門職) 減災復興政策研究科
附属学校	<ul style="list-style-type: none"> 附属幼稚園 附属小学校 附属中等教育学校 附属特別支援学校 				<ul style="list-style-type: none"> 附属中学校 附属高等学校

出典：各大学ホームページ

※1.平成29年4月より、国際文化学部と発達科学部を再編統合し、新たに「国際人間科学部」を設置しました。

※2.国際人間科学部の設置に伴い、平成29年度入試より学生募集を停止しました。なお、学生が存在する間、国際文化学部及び発達科学部は存続します。



※図中の丸は本部所在地を示す。



神戸大学企画部企画課

平成29年9月作成

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1

TEL (078) 803-5031